

100th

NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

Philharmony

May 2026

NHK Symphony Orchestra, Tokyo

5



終演時のカーテンコールを撮影していただけます

スマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。
SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#N響」【#nhkso】の追加をぜひお願いいたします。
ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。

※撮影はご自席からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、
周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください

You are free to take stage photos during the curtain calls at the end of the performance.

You can take photos with your smartphone or compact digital camera.
When you share the photos on social media, please add #nhkso.
Be careful to avoid accidentally including any audience members in your photos.



「フラッシュ」オフ設定確認のお願い

撮影前に、スマートフォンのフラッシュ設定が「オフ」になっているかご確認をお願いいたします。

Set your device to "flash off mode."

Make sure that your smartphone is on "flash off mode" before taking photos.



スマートフォンのフラッシュをオフにする方法 | 多くの機種では、カメラ撮影の画面の四隅のどこかに、フラッシュの状態を示す⚡(カメラマーク)を含むアイコンが表示されています。これをタップすることで、「オン(強制発光)」「自動(オート)」「オフ」に変更できます。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

詳しくは59ページをご覧ください







こちらのQRコードからアンケートページへアクセスできます

<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

お客様へのお願い

Please kindly keep in mind the following:

-  公演中は携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください
Be sure to set your phone to silent mode and turn off your watch alarm etc. during the performance.
-  私語、パンフレットをめくる音など、物音が出ないようにご注意ください
Please refrain from making any noise, such as engaging in private conversations or turning booklet pages.
-  大きく手足を揺らしたり体を乗り出したりするなど他のお客様にご迷惑となる行為はおやめください
Do not disturb others by overly swaying your body.
-  発熱等の体調不良時にはご来場をお控えください
Please refrain from visiting the concert hall if you have a fever or feel unwell.

-  演奏は最後の余韻までお楽しみください
Please wait until the performance has completed before clapping hands or shouting "Bravo."
-  演奏中の入退場はご遠慮ください
Please refrain from entering or leaving your seat during the performance.
-  適切な手指の消毒、咳エチケットにご協力ください
Your proper hand disinfection and cough etiquette are highly appreciated.
-  場内での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします(終演時のカーテンコールをのぞく)
Video or audio recordings, and still photography at the auditorium are strictly prohibited during the performance. (Except at the time of the curtain calls at the end of the concert.)
-  補聴器が正しく装着されているかご確認ください
Please make sure that your hearing aids are properly fitted.



NHK交響楽団
カスタマー・ハラスメントに対する基本方針 (PDF)

PHILHARMONY

CONTENTS

MAY 2026

5

- 4 [公演プログラム] **Aプログラム**
- 10 [公演プログラム] **Bプログラム**
- 18 [公演プログラム] **Cプログラム**
- 24 [リレー連載] **N響百年——複合的視座** | 第4回 |
N響と放送——もうひとつの活動領域〈前編〉 西村 理
- 2 NHK交響楽団メンバー
- 31 2026年6月定期公演のプログラムについて——公演企画担当者から
- 33 チケットのご案内(定期公演2025年9月~2026年6月)
- 34 2025-26定期公演プログラム
- 35 2026-27定期公演プログラム
- 41 チケットのご案内(定期公演2026年9月~2027年6月)
- 42 特別公演／各地の公演
- 52 特別支援・特別協力・賛助会員
- 56 「N響100年」特別賛助会員・個人サポーター
- 58 曲目解説執筆者／N響の出演番組
- 59 みなさまの声をお聞かせください!
- 60 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO Members

Artist Profiles & Program Notes

- 61 Program A
- 66 Program B
- 71 Program C
- 75 The Subscription Concerts Program 2025-26
- 76 The Subscription Concerts Program 2026-27 / Special Concerts 2026-27
- 81 N響関連のお知らせ
- 82 N響の社会貢献
- 83 役員等・団友

NHK交響楽団

首席指揮者:ファビオ・ルイーヂ

名誉音楽監督:シャルル・デュトワ

桂冠名誉指揮者:ヘルベルト・ブロムシュテット

桂冠指揮者:ウラディーミル・アシュケナージ

名誉指揮者:バーヴェ・ヤルヴィ

正指揮者:尾高忠明、下野竜也

第1コンサートマスター:郷古 廉、長原幸太

ゲスト・コンサートマスター:川崎洋介

第1ヴァイオリン

- 青木 調
飯塚歩夢
○字根京子
大鹿由希
○倉富亮太
後藤 康
小林玉紀
高井敏弘
東條太河
猶井悠樹
中村弓子
降旗貴雄
松田拓之
○三又治彦
宮川奈々
○山岸 努
○横溝耕一

第2ヴァイオリン

- ◎大宮臨太郎
◎森田昌弘
齋藤麻衣子
○嶋田慶子
清水伶香
○白井 篤
○田中晶子
坪井きらら
丹羽洋輔
平野一彦
船木陽子
俣野賢仁
村尾隆人
矢津将也
山田慶一
○横島礼理
米田有花

* 湯原佑衣

ヴィオラ

- ◎佐々木 亮
◎村上淳一郎
☆中村翔太郎
小島茂隆
栗林衣李
□坂口弦太郎
谷口真弓
飛澤浩人
○中村洋乃理
松井直之
三国レイチェル由依
御法川雄矢
○村松 龍
* 和田志織

チェロ

- ◎辻本 玲
◎藤森亮一
市 寛也
小島幸法
○中 実穂
○西山健一
藤村俊介
藤森洗一
宮坂拓志
村井 将
矢部優典
○山内俊輔
渡邊方子

コントラバス

- ◎吉田 秀
○市川雅典
稻川永示
○岡本 潤
今野 京
○西山真二
本間達朗
矢内陽子

フルート

- ◎甲斐雅之
◎神田寛明
梶川真步
中村淳二

オーボエ

- ◎中村周平
◎吉村結実
池田昭子
坪池泉美
和久井 仁

クラリネット

- ◎伊藤 圭
◎松本健司
* 堂面宏起
山根孝司

ファゴット

- ◎字賀神広宣
◎水谷上総
大内秀介
佐藤由起

森田 格

ホルン

- ◎今井仁志
石山直城
勝俣 泰
木川博史
庄司雄大
野見山和子

◇福川伸陽

トランペット

- ◎菊本和昭
◎長谷川智之
安藤友樹
藤井虹太郎
山本英司

トロンボーン

- ◎古賀 光
◎新田幹男
池上 亘
黒金寛行

テューバ

池田幸広

ティンパニ

- ◎久保昌一
☆植松 透

打楽器

- 石川達也
黒田英実
竹島悟史

ハーブ

早川りさこ

ステージ・マネージャー

徳永匡哉

ライブラリアン

- 沖 あかね
木村英代

こちらのQRコードから
楽員の詳しいプロフィールが
ご覧いただけます。



<https://www.nhkso.or.jp/about/member/index.html>

(五十音順、◎首席、◇首席客演、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター、*契約)

Special Thanks

NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援

岩谷産業株式会社

 三菱地所株式会社

 MIZUHO みずほ銀行

公益財団法人 渋谷育英会

東日本旅客鉄道株式会社

 NTT EAST

東京海上ホールディングス株式会社

株式会社 ポケモン

With Special Support of

Iwatani Corporation

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

Mizuho Bank, Ltd.

Shibuya Scholarship Foundation

East Japan Railway Company

NTT East, Inc.

Tokio Marine Holdings, Inc.

The Pokémon Company

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

PROGRAM

A

第2064回

NHKホール

5/23 土 6:00pm

5/24 日 2:00pm

指揮 ミハヤエル・ザンデルリンク

ヴァイオリン クリスティアン・テツラフ

チェロ ターニャ・テツラフ

コンサートマスター 長原幸太

ブラームス

ヴァイオリンとチェロのための

二重協奏曲 イ短調 作品102 [33']

I アレグロ

II アンダンテ

III ヴィヴァーチェ・ノン・トロッポ

— 休憩 (20分) —

ブラームス(シェーンベルク編)

ピアノ四重奏曲 第1番 ト短調 作品25 [43']

I アレグロ

II 間奏曲:アレグロ・マ・ノン・トロッポ

III アンダンテ・コン・モート

IV ロンド・アラ・ジンガレーゼ:プレスト

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ご協力をお願いいたします。

詳しくは59ページをご覧ください

こちらのQRコードから

アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

ミハエル・ザンデルリンク (指揮)



©Akira Bergman

ドイツの指揮者界で存在感を増しているミハエル・ザンデルリンクは、名匠クルト・ザンデルリンクを父に持つ音楽一家の出身。1967年ベルリンに生まれ、当初はチェリストとして20歳でライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の首席に就任し、ベルリン放送交響楽団の首席も務めた。

2000年に指揮者へと転身してからは、持ち前の瑞々しい感性と緻密なスコアリーディングを武器に評価を確立した。ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者(2011~2019年)を経て、2021年からはルツェルン交響楽団の首席指揮者を務めており、オーケストラの実力を引き上げる手腕には定評がある。

N響のステージに立つのは2015年以来、11年ぶり。ドイツらしい重厚な響きを継承しつつも、長身から繰り出される明快なタクトが推進力と見通しの良さを導き、スポーティーとも言うべき躍動感が聴き手をスリリングな音の旅へと誘う。

名手テツラフ兄妹をソリストに迎えた《二重協奏曲》、クリアなサウンドを狙ってシェーンベルクが大胆に編曲した《ピアノ四重奏曲第1番》と、ブラームスの2つの大作を引っ提げての再登場だ。ザンデルリンクは、この公演に先立ってベルリン・フィルハーモニー管弦楽団やヘルシンキ・フィルハーモニー管弦楽団でも同曲を指揮する予定だが、N響の機能美がザンデルリンクのタクトでどんな色合いに変わるのかが楽しみだ。

[江藤光紀 / 音楽評論家]

クリスティアン・テツラフ (ヴァイオリン)



©Georgia Benazzi

名実ともに現代を代表するヴァイオリニストのひとり。1966年、ハンブルク生まれ。リューベック音楽大学でウーヴェ・マルティン・ハイベルクに、シンシナティ音楽院でワルター・レヴィンに師事。1984年、ミュンヘン国際コンクールで第2位に入賞し、国際的に注目される。2014-15年シーズンにはベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のアーティスト・イン・レジデンスを務めた。若い頃は高度な技巧に裏打ちされたきわめて精度の高い演奏で名声を博したが、近年は、単なる美しい演奏に留まらない、チャレンジ精神に満ちた独自の表現に専心している。また、クロンベルク・アカデミーで後進の指導にもあたる。楽器は、オールドの名器ではなく、シュテファン・ペーター・グライナーが新たに製作したヴァイオリンを弾いている。

NHK交響楽団との共演も30年以上になる。初共演は、1993年4月のベルクの《ヴァイオリン協奏曲》。近年では、2018年5月のベートーヴェンの《ヴァイオリン協奏曲》などがある。ブラームスは彼が最も得意とする作曲家のひとり。《二重協奏曲》での兄妹共演が非常に楽しみである。

[山田治生 / 音楽評論家]

ターニャ・テツラフ(チェロ)



Georgia Benazzi

ターニャ・テツラフは、ソリストとして活躍する一方、兄のクリスティアン・テツラフとの室内楽演奏でも知られる。ハンブルク生まれ。地元にてベルンハルト・グメリンに、ザルツブルク・モーツァルテウム音楽院にてハインリヒ・シフに師事。1994年のミュンヘン国際コンクールで第3位に入賞。その後、ブレーメンのドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団の首席チェロ奏者を務めた。また、1994年より、兄のクリスティアンとともにテツラフ・カルテットのメンバーとしても活動している。そのほか、レイフ・オヴェ・アンズネスや兄との、あるいは、故ラルス・フォークトや兄とのピアノ三重奏にも取り組む。2024年からブレーメン芸術大学教授。使用楽器は、1776年製のジョヴァンニ・バティスタ・グァダニーニ。

NHK交響楽団とは、2017年6月定期公演でシューマンの《チェロ協奏曲》を共演した(指揮はパーヴォ・ヤルヴィ)。ブラームスの《二重協奏曲》は、2022年に、兄、パーヴォ・ヤルヴィ&ベルリン・ドイツ交響楽団と録音している。今回、新たにバージョン・アップされた兄妹の語り合いが聴けるに違いない。

[山田治生 / 音楽評論家]

Program Notes | 浅井佑太

ブラームスの友人かつ伝記作家であったマックス・カルベックによると、《ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲》は放棄された第五交響曲の素材をもとに作曲されたのだという。この説は現在では否定されているものの、ここにはブラームスの幻の「第5番」を諦めきれない同時代人の心情が反映されているように思われる。

一方、ブラームスの《ピアノ四重奏曲第1番》を管弦楽編曲したシェーンベルクは、この編曲をブラームスの「第5番」だと冗談めかしつつも誇らしげに語っている。若き日のシェーンベルクはブラームスの熱烈な信奉者であり、まだ存命中の巨匠を遠くから尊敬の眼差しで見つめることもあったという。もしかすると、ブラームスの「第5番」を誰よりも心待ちにしていたのは、青年時代のシェーンベルクだったのかもしれない。

ブラームス

ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲 イ短調 作品102

1887年、54歳のときに書かれたこの《二重協奏曲》は、ヨハネス・ブラームス(1833~1897)がオーケストラを相手にした最後の仕事でもある。以後10年間、彼は主に室内楽やピアノ曲に身を捧げ、管弦楽のために筆を取ることはなかった。

本作が初演に至るまでの経緯には、ある私的な事情が織り込まれている。当初ブラームスは、友人のチェリスト、ローベルト・ハウスマンからチェロ協奏曲を書くように頼まれていた。ところが彼は、この要求に正面から応えるのではなく、ここにヴァイオリン独奏を加えた《二重協奏曲》を書き上げる。初演の指揮はブラームス、チェリストはハウスマン、そしてヴァイオリニストは、かつての親友ヨーゼフ・ヨアヒムが務めることになっていた。

「かつての」と記したのには、もちろん理由がある。1880年にヨアヒムが妻と離婚裁判になった際、ブラームスが妻側に肩入れしたことが原因で、両者の関係は長らく冷え切ったままだったのだ。しかし《二重協奏曲》の完成間近に、ブラームスがヨアヒムに手紙で本作について知らせると、彼は直ちに強い関心を示す。こうして、ヨアヒムを独奏者とする初演の計画が進められ、その過程で両者は7年越しの和解を果たすのである。「ヨアヒムとブラームスは数年ぶりに言葉を交わした」——最初のリハーサルに立ち会ったクララ・シューマンは、1887年9月21日の日記にそう書き記している。

このエピソードと共鳴するかのように、《二重協奏曲》は「演奏者同士の対話」という点で極めて室内楽的な作品である。2人の独奏は競い合うのではなく、さまざまなかたちで結びつき、互いを照らし合う。協奏ソナタ形式で書かれた**第1楽章**(アレグロ)では、冒頭のカデンツァ風の導入でまずチェロが語り、やがてヴァイオリンが応え、力を合わせて息の長いフレーズを紡ぎ出す。その後もオーケストラが提示する素材を両者は分け合い、親密な対話の中で彫琢^{ちようたく}していく。続く**第2楽章**(3部形式:アンダンテ)でも、この会話が途切れることはない。そして快活な**第3楽章**(ロンド・ソナタ形式:ヴィヴァーチェ・ノン・トロppo)では、多彩なエピソードが提示されたのち、最後に両者は同じワルツ風の旋律の中へ溶け込み、いわば音楽を通して手を握り合うのである。

作曲年代	1887年夏
初演	1887年10月18日、ケルン、作曲家自身の指揮、ギェルツェニヒ管弦楽団、ヨーゼフ・ヨアヒム(ヴァイオリン)とローベルト・ハウスマン(チェロ)の独奏
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ、弦楽、ヴァイオリン・ソロ、チェロ・ソロ

ブラームス(シェーンベルク編)

ピアノ四重奏曲 第1番 ト短調 作品25

管弦楽に室内楽の精神を持ち込んだのがブラームスだとすれば、アルノルト・シェーンベルク(1874~1951)は逆に室内楽をオーケストラの豊穡^{ほうじょう}な世界へ移し替えてみせる。

1933年、ヒトラーの権力掌握を背景に激化する反ユダヤ主義を前に、シェーンベルクは59歳にしてアメリカへの亡命を余儀なくされる。その後、1936年には名門カリフォルニア大学ロサンゼルス校の教授になるなど一定の地位を築くも、彼の前衛的な作品は一

般聴衆にほとんど受け入れられないままだった。

こうした状況の中、旧知の指揮者オットー・クレンペラーの勧めもあり、シェーンベルクは古典作品の管弦楽編曲を通してアメリカの聴衆にアピールすることを試みる。題材として選ばれたのは、ブラームスの《ピアノ四重奏曲第1番》——彼が最も崇拝する作曲家のひとりの作品であり、青年期に友人たちと繰り返し演奏してきた作品でもあった。

編曲にあたって、シェーンベルクは「ブラームスの様式に厳密にとどまり、もし彼が今日生きていたとしても、彼自身がやったであろう以上のことはしない」よう試みたという。実際、シェーンベルクは原曲の音符を変える操作はほとんど行っていない。新たに対旋律や伴奏を付け加えるとしても、それは元のモチーフを際立たせるといった目的にとどまり、原曲の意図に反する改変は控えられる。

その一方で、音色効果の面では、シェーンベルクが自身に許容した手段は少なくない。そもそも、オーケストラの編成からして標準的とは言い難い。ブラームスがほとんど(あるいはまったく)使わなかった楽器——イングリッシュ・ホルン、E♭クラリネット、グロッケンシュピール、シロフォン、軍楽太鼓、タン布林——が含まれることに加え、弦楽器には随所で特殊奏法が用いられる。その結果、原曲にあった「演奏者同士の対話」という側面は、しばしば管弦楽の分厚いテクスチャへと埋没し、ときに荒々しく蹂躪されることすらある。

とはいえ、前半の**第1楽章**(アレグロ)と**第2楽章**(間奏曲:アレグロ・マ・ノン・トロppo)は、オーケストラ編曲としては比較的穏当なものといえるかもしれない。しかし、後半の**第3楽章**(アンダンテ・コン・モート)と**第4楽章**(ロンド・アラ・ジンガレーゼ:プレスト)に入ると、シェーンベルクはさらにアクセルを踏み込む。終楽章では、荒れ狂う打楽器によって、ロマ風の要素は危険なまでに増幅され、爆発的なクライマックスをつくり出す。あるいは、第3楽章中盤の行進曲風のパッセージは、ほとんどマーラーの交響曲の屈折した響きすら思わせるだろう。ここに室内楽の慎ましさは見る影もない。打楽器で誇張された3拍子のリズムには、金管の鋭い音色と木管楽器のトリルが絡み合い、ほとんどパロディのようなグロテスクさへと近づく。もしかするとシェーンベルクは、「古き良き時代」の象徴たるブラームスの音楽にさえ、ベルリンの街角で耳にしたであろうナチスの行進、さらには迫り来る第2次世界大戦の足音を聴き取っていたのかもしれない。

作曲年代	[原曲]1855~1861年 [シェーンベルク編曲版]1937年5月2日~9月19日
初演	[シェーンベルク編曲版]1938年5月7日、ロサンゼルス、オットー・クレンペラー指揮、ロサンゼルス・フィルハーモニック
楽器編成	フルート3(ピッコロ1)、オーボエ3(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット2(バス・クラリネット1)、E♭クラリネット1、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、小太鼓、トライアングル、タン布林、グロッケンシュピール、シロフォン、弦楽

古きを尊び、新たな感性で磨き上げた名作

ヨハネス・ブラームス / アルノルト・シェーンベルク

Johannes Brahms (1833–1897) / Arnold Schönberg (1874–1951)

19世紀に古典的なたたずまいの作品を残したブラームス。かたや20世紀に革新的な音楽を書いたシェーンベルク。対照的な作風の2人ですが、シェーンベルクはブラームスの音楽に惜しめない賞賛の言葉を贈っています。ブラームスの論理的で緻密な音楽の組み立て方を高く評価していたのです。彼はブラームスの《ピアノ四重奏曲第1番》を管弦楽に編曲した理由を、「この曲を愛しているから」と語っています。シェーンベルクの「ブラームス愛」から生まれたこの編曲作品、2人の大作曲家の個性と技量が合わさった名作になりました。

A 2026 MAY
[第2064回]

©IKE



亡命先のアメリカでブラームス作品を編曲したシェーンベルク。
その心には故郷ヨーロッパを懐かしむ想いもあったかもしれない

PROGRAM

B

第2063回

サントリーホール

5/14 木 7:00pm

5/15 金 7:00pm

指揮

山田和樹

ヴァイオリン

キム・スーヤン*

コンサートマスター

郷古 廉

N響100年特別企画「邦人作曲家シリーズ」

山田一雄

小交響詩「若者のうたへる歌」[11']

楽譜提供:東京音楽大学付属図書館ニッポン・アーカイヴ・コレクション

ハルトマン

葬送協奏曲* [20']

I 序奏:ラルゴ

II アダージョ

III アレグロ・ディ・モルト

IV コラール:ゆっくりとした行進曲

— 休憩 (20分) —

須賀田礒太郎

交響的序曲 作品6 [16']

ヒンデミット

交響曲「画家マチス」[28']

I 天使の合奏

II 埋葬

III 聖アントニウスの試練

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ただたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは59ページをご覧ください

こちらのQRコードから

アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

山田和樹 (指揮)



1979年生まれ、現在40代後半にある山田和樹は、昨年のベルリン・フィルハーモニー管弦楽団をはじめとして、このところ世界の名門オケへのデビューを次々果たすなど、国際舞台での活躍がめざましい。2009年のブザンソン国際指揮者コンクールでの優勝を出発点に、2012年から2018年までスイス・ロマンド管弦楽団首席客演指揮者を務め、2016年からはモンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団芸術監督兼音楽監督として同団の発展に寄与、2023年にはバーミンガム市交響楽団首席指揮者に就任して翌年には音楽監督に昇格するとともに、今秋にはベルリン・ドイツ交響楽団首席指揮者兼芸術監督にも就任する。そうしたキャリアからみても、今や彼は“世界のヤマダ”と呼ばれるに相応しいといえよう。一方でこれまで、日本のいくつかの楽団のポストも歴任、現在も東京混声合唱団の音楽監督兼理事長や横浜シンフォニエッタの音楽監督を務めるほか、今年4月には東京芸術劇場の音楽部門芸術監督に就任するなど、国内でも重職を担っている。

彼は作品に対するフレッシュなアプローチとともにプログラミングの拘りでも知られ、今回のN響定期でも第2次大戦前夜の日本とドイツの作品を並べた点に今日の時代に向けてのメッセージ性が窺える。各作品が映し出す世相、各作品に込められた作曲家の思いを彼がどのように表わし出すのか、じっくり耳を傾けたい。

[寺西基之／音楽評論家]

キム・スーヤン (ヴァイオリン)



韓国にルーツを持つドイツ、ミュンスター生まれのヴァイオリニスト、キム・スーヤンは、ソロ、室内楽、オーケストラの領域で幅広く活躍し、2018年からはベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団の第1コンサートマスターの重責を担っている。

ミュンヘン音楽演劇大学とクロンベルク・アカデミーで名教師、アナ・チュマチェンコの薫陶を受けたキムは、2009年のエリーザベト王妃国際音楽コンクールで4位入賞を果たし、国際的にその名が知られるようになった。

今回の定期公演がNHK交響楽団へのデビューとなるキムだが、指揮者の山田和樹とはスイスの小澤征爾国際アカデミーで親交を深め、2025年には山田が音楽監督を務めるバーミンガム市交響楽団とメンデルスゾーンの協奏曲を共演するなど、互いの音楽性をよく知る関係にある。

ハルトマンの『葬送協奏曲』は、2004年にレコーディングも行っている、キムが得意とする作品のひとつ。ソリストとオーケストラが渾然一体となってファシズムの暴力を告発する衝撃作を、キムは芯の通った力強い演奏で、現代に鋭く結びつけてくれるだろう。

[八木宏之／音楽評論家]

4曲とも1930年代の半ばから末までのほんの何年かの産物だ。しかも日独の作品だけ。2人の日本人作曲家は、マーラー門下のユダヤ人でナチの台頭もあって日本に活路を求めたプリングスハイムの弟子。作品の中身はというと、山田はマーラー、須賀田はヒンデミットに近い。ハルトマンの作風もヒンデミットとつながるところがある。むろんファシズム、全体主義、軍国主義の影が4人を覆っている。戦前・戦中を感じずるプログラムである。

山田一雄

小交響詩「若者のうたへる歌」

1932年2月27日、上野の東京音楽学校（現東京藝術大学音楽学部）の奏楽堂で、マーラーの《交響曲第5番》の日本初演が行われた。世界大恐慌が発生して4年目。満洲事変の5か月後。財界の巨頭、團琢磨が右翼青年に東京の日本橋で暗殺される7日前。演奏したのは同校の教官や学生に軍楽隊員らの加わったオーケストラ。指揮はクラウス・プリングスハイム。マーラーの門下生で、師匠のアシスタントも務め、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団を振ってマーラーの交響曲の連続演奏会をしたこともある。そんな大物がナチスの台頭もあってドイツに居づらくなり、上野の教官に招かれて1931年に来日。マーラーを作曲家直伝の解釈で紹介した。その2月27日の上野の客席でマーラーに取り憑かれた青年がいた。東京音楽学校のまだ予科の生徒だった山田一雄（当時は和男、1912～1991）である。やがてプリングスハイムに師事するようになり、マーラーやリヒャルト・シュトラウス、さらにその次世代のヒンデミットらの新古典的音楽も叩き込まれた。ラヴェルやバルトーク、あるいは半音階的な表現主義音楽にも興味を持った。

大管弦楽のための《小交響詩「若者のうたへる歌」》はマーラーとの出会いから5年後の1937年に完成。タイトルはマーラーの《さすらう若者の歌》を意識しよう。山田はこの曲を「青春の光と影」を表した日記風のものとして述べている。当時の山田は音楽的には後期ロマン派と新古典主義の中で煩悶し、政治的には東京の富裕な知識層の家に育った青年らしくミリタリズムに反発していた。そういう屈折したさまよい人の感覚がそのまま曲になっている。音楽は自由に歪められた一種のソナタ形式ともみなせよう。奇妙に陽気な導入のあと、2つのテーマを共にイングリッシュ・ホルンが示す。第1主題は短調で「ミファソー、ファミファー」と動く感傷的で民謡調に振れる歌。第2主題はタンプリンを伴って提示される異国への憧れを掻き立てるような歌。それからおもに第1主題が、ついでおもに第2主題が、どちらもかなりマーラー風に展開され、そのあと2つの主題が再現されて、最後はアルト・サクソフォーンが第1主題を秘めやかに回想し、若者は暗い時代の彼方へと消えてゆく。

山田はその後、作曲よりも指揮に傾斜。ローゼンストックに学んで、戦中・戦後の日本交響楽団(後のNHK交響楽団)を尾高尚忠とともに^{けんいん}牽引した。最後にN響定期を振ったのは1985年。演目はマーラーの《交響曲第5番》だった。

作曲年代	1937年
初演	1938年2月25日、日本青年館(東京の神宮外苑)、ジョセフ・ローゼンストック指揮、新交響楽団(現NHK交響楽団)
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、アルト・サクソフーン1、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、小太鼓、トライアングル、タンブリン、ウッドブロック、弦楽

ハルトマン

葬送協奏曲

第1次世界大戦末期、ドイツ帝国は内部から瓦解していった。バイエルンでも大戦が休戦に至る寸前の1918年11月7日に革命が起き、翌日、バイエルン共和国の成立が宣言された。その日からバイエルンでも、ドイツの他の多くの地域と同様に、その後の政治・経済体制を巡って、資本主義・自由主義的勢力と社会主義・共産主義的勢力が争った。むろん中間派も多数いた。そして1919年4月、共和国の実権を急進左派が握る。まずはドイツ独立社会民主党、ついでドイツ共産党だ。後者には革命進行中のロシアからレーニンの応援もあった。しかしベルリンの中央政府の軍隊によって共産党政府はたちまち崩壊した。ミュンヘンっ子、カール・アマデウス・ハルトマン(1905~1963)はこの頃10代前半。社会主義に未来の理想を見だし、その道を潰した保守や右翼に怒りを覚えた。生涯に及ぶ思想につながった。その後、作曲家への道を歩んだハルトマンは、レーガー門下のヨーゼフ・ハースに師事し、新古典的・対位法的でフーガやカノンを好む作風を身に付けてゆく。その意味で、やはりレーガーの流れを汲むヒンデミットに近いところかなりある。が、ヒンデミットと異なるのはハルトマンの音楽が激情的身振りに富んでいることだ。少なくともナチ時代までのハルトマンは政治と音楽を分けられず、左翼への好意と保守・右翼への^{てきがいしん}敵愾心が、作品にどうしても血の気を多くした。そんな彼は、ヒトラーが左翼を駆逐して独裁国家を打ち立てても、国外に亡命しなかった。ミュンヘンにとどまり、活動を制限された音楽家として、ナチ時代を生きのびた。それでも国外で作品を発表する機会はなくはなかった。

《葬送協奏曲》は1940年にスイスで初演。第2次世界大戦が始まって2年目。作曲家の説明に従えば、中に挟まれたアダージョとアレグロの2つの楽章は人間精神を絶望に追い込む同時代の状況を表し、冒頭と最後に置かれたコラールの楽章は逆に希望の音

楽だという。第1楽章のコラールの旋律は、15世紀にチェコ人が神聖ローマ帝国やカトリック教会に対して自由を求めて抵抗した際の団結心を象徴した《汝ら神の戦士》、第4楽章のそれは、日本では大正・昭和初期から《葬式の歌》や《同志は倒れぬ》の名で知られたロシアの革命歌に基づく。新旧の希望の革命歌で絶望的現状を挾撃する趣向だろう。曲名は世界的に歌われていたロシアの革命歌の方と特に結びついていよう。仲間が倒れても倒れても、犠牲を踏み越えた先にファシズムは必ず打倒される。だから葬送は希望に転化するのだ。なお、このヴァイオリンと弦楽のための協奏曲は1959年に改訂され、それが現行版である。

作曲年代	1939年(1959年改訂)
初演	[初演]1940年2月29日、ザンクト・ガレンにて、エルンスト・クルーク指揮、カール・ネラッハー独奏、ザンクト・ガレン室内管弦楽団 [改訂初演]1959年、ブラウンシュヴァイクにて、ハインツ・ツェーベ指揮、ウォルフガング・マルシュナー独奏、ブラウンシュヴァイク州立歌劇場管弦楽団
楽器編成	弦楽、ヴァイオリン・ソロ

須賀田礪太郎

交響的序曲 作品6

クラウス・プリングスハイムは山田一雄という「マーラーの使徒」を生み出した。しかし、このマーラーの弟子は1930年代の日本の若い作曲家たちに師匠の流儀をなぞるように勧めていたわけでは決してなかった。第1次世界大戦後の新古典主義の潮流、ヒンデミットやクルト・ワイルに同時代性を感じ、その延長線上に音楽の未来を見ていた。プリングスハイムは東京音楽学校の生徒に限らず、個人的に弟子を取っては自宅でレッスンした。その中に須賀田礪太郎(1907~1952)が居た。須賀田は横浜の資産家の子で、西洋音楽に早くから親しみ、ヴァイオリンやピアノの稽古に励んでいたが、中学のとき、結核と診断され、自宅での療養生活に入った。静養しながら家で出来ることはないか。作曲はどうだろう? 生活には困らない身の上だ。どうせなら管弦楽作家を目指そう。須賀田は小康を得ると、山田耕筰や信時潔や菅原明朗や近衛秀麿の門をたたいた。ドビュッシーやストラヴィンスキーに憧れた。1933年からはプリングスハイムに長く習った。そこでヒンデミットを教えられた。須賀田の学習ノートには特に《交響曲「画家マチス」》を研究した形跡が残る。その学習の産物が《交響的序曲》であり、その続きが《フィルハーモニー交響曲》(1942)になる。《交響的序曲》は《興亜序曲》とも題されていた。日本放送協会が主催し、山田耕筰、諸井三郎、橋本國彦らが審査した「皇紀二千六百年奉祝管弦楽懸賞」の「序曲の部」に早坂文雄の《序曲ニ調》と共に入賞。1940(皇紀2600)年の「紀元節」の日に放送で初演された。以後、敗戦まで、日本放送協会は須賀田に管弦楽作品を次々と委嘱してゆく。

《交響的序曲》は3部形式の序奏的前半と、ソナタ形式を踏まえた主部的アレグロの後半から成る。冒頭に現れる全曲の基本主題は伊沢修二作曲の唱歌《紀元節》の変形ともみなせよう。後半は基本主題から派生した2つの動機による二重フーガでピークを作り、そのあと基本主題による勝利の讃歌で結ぶ。旋法的旋律性、5度や4度に基づく和声、フーガを頂点とするポリフォニーへの志向。ヒンデミット趣味全開の音楽である。

作曲年代	1939年(12月10日完成)
初演	1940年2月11日、東京にて、山田耕作指揮、日本放送交響楽団(当時の新交響楽団、現NHK交響楽団が日本放送協会の番組に出演する際、用いていた名称)
楽器編成	フルート3(ピッコロ1)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、小太鼓、銅鑼、弦楽

ヒンデミット

交響曲「画家マチス」

タイトルの画家マチスとは1470年代に生まれ、1528年に逝ったドイツの画家、マティアス・グリューネヴァルトを指す。独仏の文化の混雑するアルザス地方のイーゼンハイムの修道院のための祭壇画が代表作だ。パウル・ヒンデミット(1895~1963)は、ナチの政権獲得直後の1933年6月に、グリューネヴァルトを主人公とするオペラの作曲に取り掛かったようだ。その前のヒンデミットのオペラと言えば1929年の《今日のニュース》。モダンで享樂的な市民生活に材を取った。ジャズの要素もちりばめられる。戦間期の新古典主義のひとつの行き方だ。しかし時はたちまち移ろう。1929年には世界大恐慌が始まる。ドイツにも失業者が溢れる。既成政党の無策を批判するナチが台頭。左翼のハルトマンは激昂するがヒンデミットはそうでもない。彼はその頃、ドイツの古楽に関心を寄せていた。変奏曲やフーガを愛好した近代の巨匠、レーガーを経て、バッハから更に古くに遡り、ルター派のコラールや中世の聖歌に至る。ヒンデミットの新古典主義は都会的モダニズムと縁をきって、新バッハ主義というか、古風な旋律のポリフォニックな処理に精魂を傾ける。そこでオペラの題材も現代生活からグリューネヴァルトに変ずる。その画家はルターやトーマス・ミュンツァーと同時代人。プロテスタントが登場し、ドイツ語の讃美歌が現れる。そういう旋律をポスト・バッハ的に処理したいのがヒンデミット。その夢をグランド・オペラで試すのには、古風な宗教画のヴィジョンと古風な讃美歌のメロディとを自然に掛け合わせられるグリューネヴァルトの世界が恰好だ。作曲家は自分で台本を書いた。何しろナチは右翼だ。復古調だ。ヒンデミットも古風にやりたい。ナチと上手くやれるのではないか。ヒンデミットは楽観していた。オペラに先んじて、その中の器楽の部分を撚り合わせた交響曲を先に完成。1934年に発表する。が、それをナチはじわじわと攻撃した。《今日のニュー

ス》のような“不真面目な音楽”を書いていたヒンデミットがたとえ作風を変えようとナチ時代の文化の担い手になることはありえなかったのだ。オペラ《画家マチス》のドイツでの初演は許されない。ヒンデミットは祖国に居場所を失い、スイスを経て米国へ行く。

さて、交響曲は3楽章から成り、いずれもグリューネヴァルトの祭壇画から靈感を受けている。第1楽章〈天使の合奏〉。天使が聖母と救い主のために奏樂する祭壇画に基づく。トロンボーンは古い讚美歌《3人の天使が歌っていた》を吹く。第2楽章〈埋葬〉。キリストの埋葬を描く祭壇画に基づく。第3楽章〈聖アントニウスの試練〉。動乱の時代の中で魑魅魍魎ちみもうりょうに誘惑され惑う画家はその果てに悟りを得る。グレゴリオ聖歌の引用で擬古調は極まり、壮麗に結ぶ。

作曲年代	1933~1934年
初演	[世界初演] 1934年3月12日、ベルリンにて、ウィルヘルム・フルトヴェングラー指揮、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団 [日本初演] 1936年6月24日、日比谷公会堂にて、齋藤秀雄指揮、新交響楽団(現NHK交響楽団)
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、小太鼓、トライアングル、グロッケンシュピール、弦楽

はじめてのクラシック

INTRODUCTION TO CLASSICAL MUSIC

イラスト:IKE/文:松井治伸

昭和の初めに花開いた、野心あふれる音楽

山田一雄 / 須賀田磯太郎

Kazuo Yamada (1912-1991) / Isotaro Sugata (1907-1952)

山田耕作が、日本人による初の管弦楽曲とされる《序曲ニ長調》を書いたのは明治45年。それから30年ほど経った昭和の初めの日本では、日本人作曲家が本格的な管弦楽作品を生み出すようになっていました。山田一雄の《小交響詩「若者のうたへる歌」》も、須賀田磯太郎の《交響的序曲》も共にこの頃の作品で、個性あふれる充実した内容になっています。彼らの作品をはじめ、それらの多くを演奏したのがN響の前身、新交響楽団（のちに日本交響楽団）でした。N響100年の歴史は日本の作曲家と共に歩んだ歴史でもありました。

B
2026
MAY
[第2063回]

才能あふれる若き日の須賀田（手前）と山田。
今回の2人の作品を初演したのは新交響楽団であり、
山田はのちに日本交響楽団で専任指揮者を務めた



PROGRAM

C

第2065回

NHKホール

5/29 金 7:00pm

5/30 土 2:00pm

指揮

アンドリス・ポーガ

コンサートマスター

ジュリアン・ズルマン♦

◆ジュリアン・ズルマン:5歳よりヴァイオリンを始める。パリ国立高等音楽院卒業後にベルリン・ハンズ・アイスラー音楽大学でドイツ国家演奏家資格を取得。ゲスト・コンサートマスターとしてロンドン交響楽団、水戸室内管弦楽団、スイス・ロマンツ管弦楽団、パリ管弦楽団などと共演している。現在、小澤征爾スイス国際アカデミーの選考委員会責任者、小澤国際室内楽アカデミー・奥志賀講師。パリ国立高等音楽院で後進の指導にもあたる。

ヴァスクス

感謝の歌(2026)

[NHK交響楽団、ラトビア国立交響楽団、ミュンヘン室内管弦楽団、オーストラリア室内管弦楽団共同委嘱作品/日本初演][20']

——休憩(20分)——

ショスタコーヴィチ

交響曲 第4番 ハ短調 作品43[60']

- I アレグレット・ポーコ・モデラートープレスト
- II モデラート・コン・モート
- III ラルゴーアレグロ

※ 演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは59ページをご覧ください

こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

アンドリス・ボーガ(指揮)



アンドリス・ボーガはラトビア出身の指揮者。マリス・ヤンソンスやアンドリス・ネルソンスに続く、同国出身のマエストロの系譜に名を連ねる。ヤーセプス・ヴィートリス・ラトビア音楽院指揮科を卒業し、ラトビア大学で哲学を、ウィーン国立音楽大学で指揮を学んだ。2010年モンベリエのエフゲーニ・スヴェトラノフ国際指揮コンクールで優勝を果たし、パリ管弦楽団、ボストン交響楽団、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団など各地の主要オーケストラに客演。2014年にはミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、2026年にはWDR交響楽団のアジアツアーを任されている。N響とは2013年の初共演以来、たびたび共演を重ねる。

2021年にノルウェーのスタヴァンゲル交響楽団首席指揮者に就任。同楽団とはニルセンの交響曲など、北欧の音楽をレコーディングしている。ラトビア国立交響楽団では音楽監督を経て、現在は芸術顧問を務める。

ボーガのレパートリーの中心はショスタコーヴィチやチャイコフスキーなどのロシア音楽とドイツ・オーストリアの音楽。なかでもショスタコーヴィチに対しては強い思い入れを持つ。今回は、社会情勢により完成から初演までに25年もの歳月を要した作曲家最大の問題作、《交響曲第4番》でボーガの本領が発揮される。また、母国を代表する作曲家ヴァスクスの作品にもかねてより取り組んできた。新作の日本初演にこれ以上ふさわしい指揮者もいないだろう。

[飯尾洋一／音楽ジャーナリスト]

Program Notes | 千葉 潤

ショスタコーヴィチとヴァスクス——2人を結び付けるのは、20世紀における社会主義の経験であろう。管理統制が暴力的に押し進められたソ連社会の現実を映し出すショスタコーヴィチに対して、ソ連崩壊後の祈りを表わすヴァスクス。彼らの対照的な音調は、まるで合わせ鏡のように、混沌^{こんとん}を極める現代を映し出すかのようだ。

ヴァスクス

感謝の歌(2026) [NHK交響楽団、ラトビア国立交響楽団、ミュンヘン室内管弦楽団、オーストラリア室内管弦楽団共同委嘱作品／日本初演]

「今日、多くの人々は、もはや信仰や愛、そして理想をもたず、霊的次元が失われてしまった。私の意図は、魂に養分を与えることである」——現代ラトビアの作曲家ペーテリス・ヴァスクス(1946～)は、バプテテスト教会の神父の家に生まれ育った。その生い立ちや

北欧の自然は恐らく上記のような彼の創作思想に深く影響している。

素朴なモチーフの繰り返しと繊細な変化を基調とする彼の作風は、深い信仰心の表明と合わせて、エストニアのアルヴォ・ペルトに近いが、過酷な社会主義時代の痛みの経験を表明する際に、その響きは強烈でダイナミックなものに変容する。

弦楽合奏のための《感謝の歌》(2026)は、日本、ラトビア、ドイツ、オーストラリアの4つのオーケストラによる共同委嘱作品であり、今回が日本初演である。詳細については、作曲家からのコメント(p. 22)をご覧ください。

作曲年代	2026年
初演	2026年4月25日、アンドリス・ポガ指揮、ラトビア国立交響楽団
楽器編成	弦楽

シヨスタコーヴィチ

交響曲 第4番 ハ短調 作品43

20世紀を代表する交響曲作家としてのドミートリ・シヨスタコーヴィチ(1906~1975)に、最も大きな影響を与えたのはグスタフ・マーラーである。バロックから大衆音楽までのかけ離れた要素を折衷し、悲劇とグロテスクに引き裂かれた世界を体現する交響曲は、幾重にも疎外された生涯を送った2人の作曲家にとって、最も切実な表現媒体であっただろう。実際、当時のレニングラードでは、ワルターやクレンペラーがマーラー直伝の演奏を繰り返す一方、シヨスタコーヴィチの親友ソレルチンスキーは、ソ連におけるマーラー研究の第一人者であった。恵まれた環境のなかで成熟を迎えたシヨスタコーヴィチが、満を持して取り組んだのが本作である。

ところが、すでに交響曲の前半2楽章を完成していたシヨスタコーヴィチを、人生最大の危機が襲う。1936年1月、オペラ《ムツェンスクのマクベス夫人》を非難する論説「音楽の代わりに支離滅裂」が、共産党機関紙『プラウダ』に掲載されたのである。誹謗中傷の嵐のなかで、なおも彼を支持する仲間たちに励まされ、徐々に落ち着きを取り戻したシヨスタコーヴィチは1936年4月に全曲を完成。12月に初演が予定されたが、数回のリハーサル後に撤回されてしまう。その理由は諸説あるが(指揮者の無理解/演奏管理部からの圧力/楽団員の反発等々)、驚くべきは、悲劇的な第3楽章が批判後に黙々と書き続けられ、ぎりぎりまで初演を想定していたことだ。

プラウダ批判からちょうど38年後、最晩年のシヨスタコーヴィチが友人に語った言葉は、彼の創作に対する強い信念と誠実さを明かしている。「(プラウダ批判)のあと、指導部が私に、懺悔して自分の罪を償うよう執拗に説得した。だが私は断った。当時は若さと肉体的な力が私に味方したのだ。懺悔の代わりに私は《交響曲第4番》を書いた」(グ

リークマン、1974年1月29日)。

第1楽章 アレグレット・ポーコ・モデラート—プレスト、ハ短調、4分の4拍子。巨大なソナタ形式の枠の中で、自由奔放な楽想が破天荒な音楽を繰り広げる。行進曲調で開始される第1主題群が悪夢のようなトゥッティで結ばれたあと、第2主題群は、ファゴット独奏と弦楽器の自由な旋律で開始される(マーラー《巨人》のカッコウが聞こえる)。展開部では、木管のポルカ／弦楽器のフーガ／多彩なワルツと続き、ティンパニに導かれた金管が次第に音量と音響を拡大しつつ、最後には12音からなるフォルテ5つの音の塊りが、グロテスクに引き延ばされた序奏の再現を導く。

第2楽章 モデラート・コン・モート、ニ短調、8分の3拍子。マーラーやブルックナーでお馴染みのレントラー風のスケルツォ(最初のクライマックスのあとには、マーラー《復活》の仄めかしが現れる)。トリオでは対になった平行5度のカノンや半音ずつ重なり合う無調のカノン等、斬新な音響が連続する。

第3楽章 ラルゴーアレグロ、ハ短調、4分の4拍子—4分の3拍子。マーラー《巨人》の第3楽章を彷彿させる葬送行進曲のあとには、アレグロによる無機的なトッカータ風の主題展開がつづくが、その後は唐突に世俗音楽のメドレーに代わる(《魔笛》のパパゲーノすら紛れ込んでいる)。二対のティンパニに伴われた金管コラール(ストラヴィンスキー《エディプス王》の仄めかし)に導かれて、葬送行進曲が壮大に再現されたあと、コーダではマーラー《大地の歌》の終楽章「告别」を彷彿させるチェレスタが明滅しながら、“モレンド(死にゆくように)”で全曲を締めくくる。

作曲年代	1935年9月13日～1936年4月26日
初演	1961年12月30日、モスクワ、キリル・コンドラシン指揮、モスクワ・フィルハーモニー管弦楽団
楽器編成	フルート4、ピッコロ2、オーボエ4(イングリッシュ・ホルン1)、Esクラリネット1、クラリネット4、バス・クラリネット1、ファゴット3、コントラファゴット1、ホルン8、トランペット4、トロンボーン3、チューバ2、ティンパニ(2組)、大太鼓、シンバル、小太鼓、トライアングル、ウッドブロック、カステネット、銅鑼、グロッケンシュピール、シロフォン、チェレスタ1、ハープ2、弦楽



29 & 30 MAY 2026

《感謝の歌》の日本初演によせて

本公演にて、NHK交響楽団ほかの国際共同委嘱による
ペーテリス・ヴァスクスの新作《感謝の歌》(2026)が日本初演されます。
ヴァスクス氏本人からメッセージが届きましたのでご紹介します。

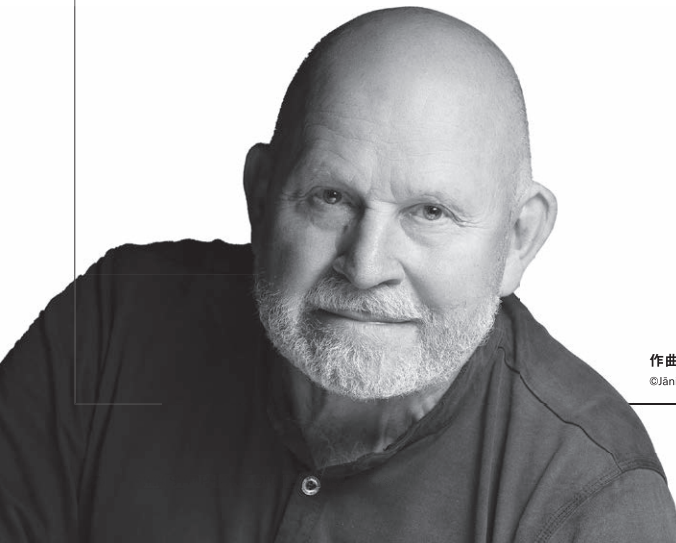
感謝の歌 *Chant of Gratefulness*

私はこの作品を、夕陽にあたたかく照らされた、
静かで穏やかな弦楽の歌として構想しました。曲の中ほどで徐々に音は厚みを増し、
力強い頂点へと達します。そこから、冒頭の静けさがふたたび戻ってきます。

弱音器をつけた弦楽器の歌は、
やがて星明かりの静寂へとゆっくり溶け込むように消えていきます。
私は、愛する祖国ラトビアの地で、音楽とともに生きてこられたことを、
創造主に深く感謝しています。

そして、音楽を通じてともに歩んできた友人たち、
兄弟姉妹たちにも感謝しています。私たちは、
この世界により多くの光と希望、そして愛をもたらしたいという思いによって結ばれています。
この謙虚と感謝の心から生まれた静かな歌が、みなさまの魂に響きますように。

ペーテリス・ヴァスクス



作曲家・ペーテリス・ヴァスクス

©Jānis Porietis

はじめてのクラシック

INTRODUCTION TO CLASSICAL MUSIC

イラスト:IKE/文:松井治伸

C
2026
MAY
[第2065回]



29歳で《第4番》を書いたあとも、
ショスタコーヴィチは体制側の厳しい検閲と
自身の目指す芸術の板挟みの中で
苦闘を強いられる

©IKE

四半世紀を経て日の目を見た超大作

ドミートリ・ショスタコーヴィチ

Dmitry Shostakovich (1906–1975)

名作にもかかわらず、お蔵入りになってしまう作品があります。ショスタコーヴィチの《交響曲第4番》も、初演の直前に作曲者自身が楽譜を取り下げてしまい、いったんお蔵入りになりました。若きショスタコーヴィチの創作意欲がみなぎる複雑で長大な野心作でしたが、それゆえに、スターリンの体制下、「健全でわかりやすい」音楽を良しとした当局から「作品を撤回せよ」という圧力を受けたからだとも言われています。初演が実現したのはそれから25年後のこと。スターリンはすでに亡く、ショスタコーヴィチの傑作はようやく世に出たのです。

N響と放送

もうひとつの
活動領域

〈前編〉

リレー連載

N響百年——複合的視座

今年創立100年を迎えるN響。100年という大きな歴史のなかから、ひとつのトピックに視点を定めることで、時代の変遷がみえてくる——。リレー連載第4回目では「放送」に焦点をあてた論考の前編をお届けします。

創立以来、N響は放送局と密接な関係を築いてきた。現在は、Eテレの『クラシック音楽館』、FMの『ベストオブクラシック』『N響演奏会』を中心に、N響の演奏が放送されている。放送のほとんどは、定期公演などの演奏会の生演奏もしくはその収録である。演奏会場での模様が放送されるのは当然のことと思われるかもしれないが、かつてはおもにスタジオでの演奏が放送されており、N響の活動は「演奏会」と「放送」という2つの領域で展開されていた。放送での演奏曲目は前後の演奏会と同じこともあれば、異なることもあり、その両者の関係は歴史とともに変化してきた。これまでN響の歴史は、演奏会を軸に記述されてきたが、本稿の前編では放送に軸を置いて、「指揮者」と「演奏する場所」が今日のあり方に至るまでの過程を振り返る。

指揮者からみる オーケストラと放送局の関係

ひとつの楽団、ふたつの顔

1926(大正15)年10月5日、日本交響楽協会から分裂して、近衛秀麿のもとで新交響楽団(現NHK交響楽団)が結成された。日本放送協会(現NHK)は、前身の東京放送局時代から、山田耕筰率いる日本交響楽協会を番組に出演させていたが、分裂後は新交響楽団を出演させる方針をとる。その一方で、放送局は支援するオーケストラの指導者を、嘱託として招聘した。1925(大正14)年12月にヴァイオリニスト兼指揮者ヨーゼフ・ケーニヒを招き、1929(昭和4)年6月にケーニヒが離日すると、後任としてニコライ・シフェルブラットを招いたので

ある。1928(昭和3)年以降、定期公演は近衛が、放送ではケーニヒヤ後任のシフェルブラットがおもに指揮するようになり、「演奏会」と「放送」の2つの領域で指揮者が異なる二重体制が確立された。

名称も、演奏会では「新交響楽団」だったのに対して、放送では、演奏会の名称に加えて、東京中央放送局(日本放送協会の関東支部)のコールサインであるJOAKを冠したのも用いられた。前身の東京放送局時代に日本交響楽協会が放送では同名以外に「JOAKオーケストラ」などさまざまな名称で出演していたが、その理由について、囑託で洋楽主任を務めた堀内敏三は「あまり同じ名称ばかりでは世間体が悪ひ」と述べている(「洋楽放送五ヶ年」『音楽世界』1930年3月号)。新交響楽団も当初は同様の理由でさまざまな名称を併用したと考えられる。やがて日本放送協会の直属の演奏団体であることを示すために、大編成の場合「JOAK シンフォニーオーケストラ」、中編成の場合「JOAKオーケストラ」という名称で出演するようになった。1929(昭和4)年11月11日に新交響楽団の代表である近衛秀麿と出演契約してからは、「JOAK シンフォニーオーケストラ」は「JOAK交響楽団」に改称、さらに1930(昭和5)年6月1日からは「JOAK交響楽団」は「日本放送交響楽団」に、「JOAKオーケストラ」は「東京ラヂオオーケストラ」にそれぞれ改称された。

大改組——近衛体制からの脱却と 日本放送協会との関係の変化

1926(大正15)年の新交響楽団の設立から約10年。「演奏会」と「放送」での指揮者の二重体制が続くなか、新交響楽団の運営体制が岐路に立つ。“近衛が運営する楽団”から、

“楽団員たちによる組合組織”への「大改組」である。それに伴う内紛が、1935(昭和10)年7月14日の新聞各紙で報じられた。7月18日には放送番組の練習に集まった楽員に対して近衛は決別を宣言。この騒動を受けて「日本放送協会ではこの際ひとまづ演奏契約者であつた近衛子との演奏契約の一切を解消することに決定した」(『読売新聞』1935年7月19日)。日本放送協会は近衛個人と契約していたため、結果、契約者・近衛のいない新交響楽団は放送に出演できなくなったのだ。

しかし日本放送協会は新交響楽団を暫定的に放送出演させることとし、新たな契約に向けて「改組された現新響を鵜呑みにするか、或ひは放送協会専属の交響楽団とするか、それとも法人組織にするか」の3案を検討することになった(同紙同年8月25日)。9月2日に新交響楽団はシフェルブラット指揮で放送に復帰するものの、協会との契約形態が決まるまで、それまでの「日本放送交響楽団」ではなく「新交響楽団」の名称で出演することになった(同紙同年9月2日)。

8月25日の報道の時点で、3案のなかの「専属説が最も有力」とされたものの、団体と契約するのか、楽団員個人と契約するのか、という問題があった。翌年3月26日の『読売新聞』夕刊は、新交響楽団が日本放送協会から提案された個人契約による専属を受け入れたことに加え、次のように報じた。「協会では指揮者陣の強化と専属新響の指導のために囑託ニコライ・シフェルブラット氏のほかに世界的ピアニストとして又指揮者としてナチに追はれて来朝した元ベルリン国立音楽学校のレオニード・クロイツァ教授を四月から古典曲の指揮者として囑託することになった」。

レオニード・クロイツァーは、「大改組」前の1934(昭和9)年5月16日、定期公演に指揮者として出演していた。放送では同年6月21日

にモーツァルト《交響曲第40番》、翌年の「大改組」後も10月21日に《第41番「ジュピター」》を指揮していた。さらにクロイツァーは、1936（昭和11）年4月2日に放送出演し、チャイコフスキー《幻想序曲「ロメオとジュリエット」》とムソルグスキー《歌劇「ホヴァンシチナ」前奏曲》を指揮した。その日の『読売新聞』での「囑託への前奏曲!？」との見出しから、最終的にクロイツァーは5月から囑託となったと推測される。

一方の新交響楽団も1936（昭和11）年5月2日に日本放送協会との契約に調印し、同日の夜から再び「日本放送交響楽団」の名称で放送に出演するようになった。こうして放送では、囑託のシフェルブラットとクロイツァーが「日本放送交響楽団」を指揮する体制が整った。さらに同年8月11日のモーツァルト《ピアノ協奏曲第27番》を皮切りに1937（昭和12）年4月まで、シフェルブラットの指揮で、クロイツァーが毎月1回ピアノ協奏曲を放送していく予定であることも新聞各紙で報じられた。クロイツァーは1936年4月から、放送では毎月1回指揮もしていたが、この頃の演奏会では指揮していなかった。

そうしたなか新交響楽団は1936年8月17日、ジョセフ・ローゼンストックを専任指揮者として招聘した。

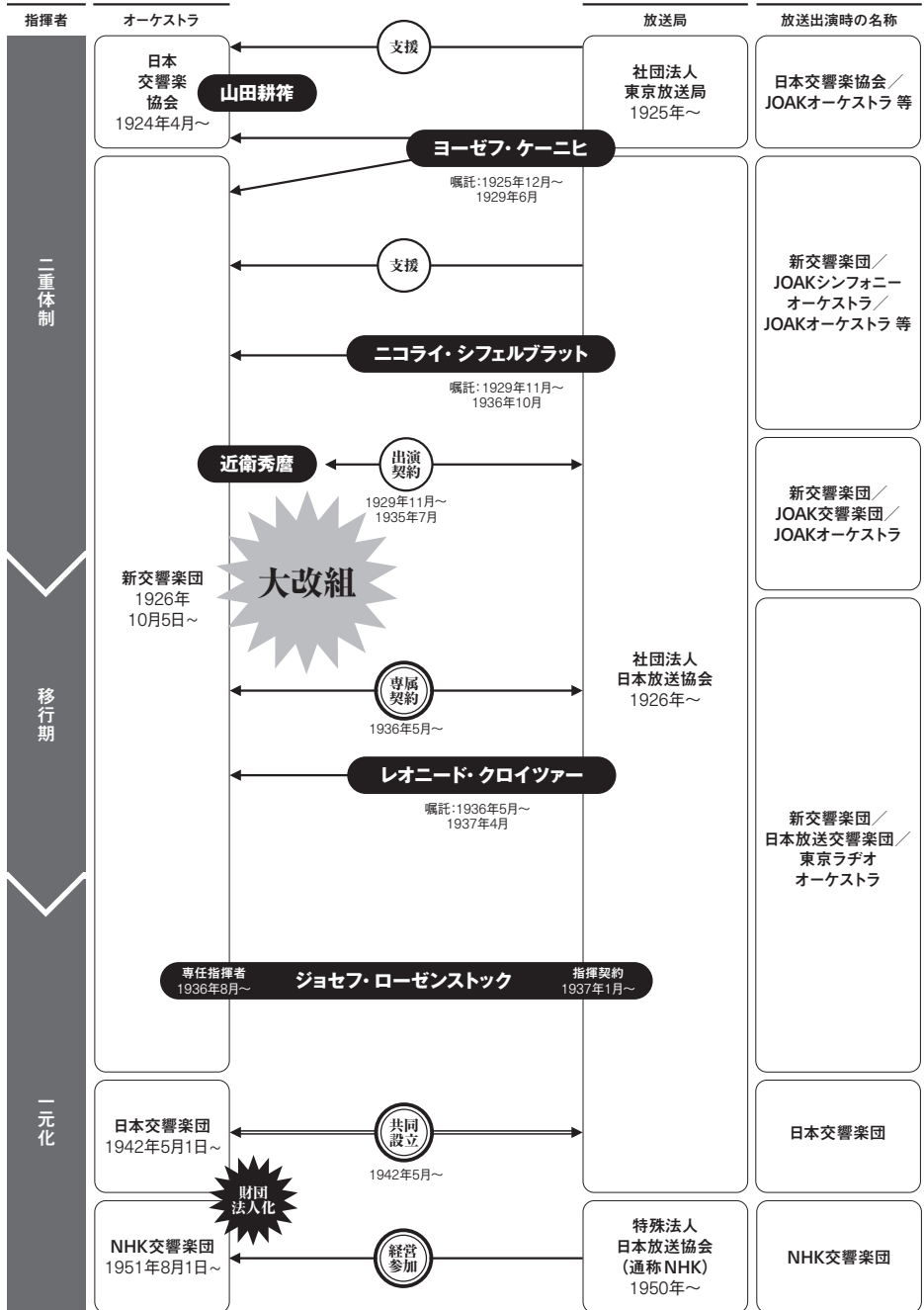
ローゼンストック来日の波紋

「演奏会」と「放送」での指揮者の二重体制は、1936（昭和11）年8月17日にジョセフ・ローゼンストックが新交響楽団の専任指揮者として招聘されたことを機に統合へと向かっていく。ローゼンストックは、1936年9月21日、日比谷公会堂で開催された演奏会で初めて新交響楽団を指揮した。しかし、ローゼンストックの放送への初出演は、翌年1月22日であった。ローゼンストックの放送出演はなぜ遅れたのか。

すでにドイツ語圏で活躍していたローゼンストックの専任指揮者への就任は、クロイツァーとシフェルブラットにとって自分たちの立場を脅かしかねない大問題であった。事情を探りに来たシフェルブラットに対し、当時番組制作に携わっていた青木正は、「あなたは放送局と契約した指揮者、ローゼンストックは新響と契約した人だから立場は別だ」と説明したと回想している（『NHK交響楽団四十年史』1967年）。

クロイツァーは、1936（昭和11）年9月から12月までに新交響楽団との演奏会を5回開催する予定だったが、その契約の有無をめぐる衝突が9月5日に報道された（『東京朝日新聞』）。9月9日に両者は放送に出演してメンデルスゾーン《交響曲第4番「イタリア」》を演奏することが決まっていたため、当日の『読売新聞』が「睨み合ひ交響曲」、前日の練習を取材した『東京朝日新聞』が「喧嘩しながらシンフォニーを演奏」などと報じ、読者の関心をかき立てたが、放送が予定通り行われたため対立は解消されたかのように見えた。しかし翌10日、クロイツァーは新交響楽団を契約不履行・名誉毀損で提訴した。そして訴訟中である9月23日にも、クロイツァーは引き続き放送に出演し、シフェルブラットの指揮でベートーヴェン《ピアノ協奏曲第3番》の独奏を務めている。同日の『読売新聞』によれば、クロイツァーは1937（昭和12）年4月まで1か年契約で毎月新交響楽団に指揮1回とピアノ独奏1回を行う内容になっているため、「不協和の新響・クロイツァー氏の定期コムビの放送は毎月二回ずつ繰返される」はずであった。しかし、10月14日、指揮者シフェルブラットが喘息の発作で急逝した。8月から始まった毎月1回のピアノ協奏曲については、10月23日にクロイツァーの弾き振りでベートーヴェン《ピアノ協奏曲第5番「皇帝」》が放送されたが、11月から4月の契約満了までクロイツァーは毎月1回

オーケストラと放送局の関係



の指揮者としてのみ出演を続けたのだった。

指揮体制の統合へ

ローゼンストックは、前述のとおり、1937(昭和12)年1月22日、放送に初出演した。この日の新聞各紙はローゼンストックの初出演を写真付きで大きく紹介し、日本放送協会との契約に関しても報じている。『読売新聞』によれば、月2回の放送契約をしているクロイツァーが新交響楽団と演奏契約をめぐって問題となっていたが、係争中にシフェルブラットが亡くなり、ローゼンストックの起用が必要になったという。12月に新交響楽団と日本放送協会は協議し、ローゼンストックが日本滞任期間中、毎月1回指揮することを決定し、1月12日に「口約による紳士契約を結んだ」とされる。その後、日本放送協会が1937年5月以降のクロイツァーの指揮者としての囑託の更新を行わなかったため、指揮者の二重体制はローゼンストックのもとに一元化された。また、その後1942(昭和17)年5月1日に新交響楽団が日本放送協会とともに設立した財団法人「日本交響楽団」が発足すると、放送でも同じ名称が用いられるようになり、オーケストラの出演名称も統合されたのである。

以後、指揮者が演奏会と放送のどちらか一方を中心に活動するというはなくなった。ただし、演奏会と放送とでは、演奏する場所は基本的に異なっていた。

放送演奏の場の変遷

スタジオからの生演奏、 演奏会場からの中継放送

定期公演の会場の現在までの変遷を概観すると、新交響楽団は第1回を1927(昭和2)年2月20日に日本青年館で開催し、1932(昭和7)年9月から日比谷公会堂に会場を移した。1942(昭和17)年の日本交響楽団、さらに1951(昭和26)年のNHK交響楽団への改称を経て、1961(昭和36)年11月からおもに東京文化会館を使用するようになった。その後、1973(昭和48)年10月からNHKホールに移り、以後、同ホールを主軸としていく。

放送のための演奏はどこで行われていたのだろうか。新交響楽団は、結成2日後の1926(大正15)年10月7日には、JOAK オーケストラの名称でケーニヒ指揮により登場している。その後もたびたび放送で演奏していくが、10月23日には昼に指揮者なしでJOAK オーケストラ、夜にはケーニヒ指揮のJOAK シンフォニーオーケストラで出演している。同日の『読売新聞』に掲載された両オーケストラのメンバーの名前は新交響楽団の団員であるが、「新交響楽団」として近衛秀麿の指揮で初めて東京中央放送局の放送に登場したのは、1926(大正15)年11月26日であった。これらの放送はいずれも愛宕山^{あたごやま}の放送局スタジオから行われた。かつては放送のための設備の整ったスタジオでの生演奏が通常であったのだ。

この頃の演奏会場からの中継放送のなかで特筆されるのは、大阪中央放送局(日本放送協会の関西支部)が行った1929(昭和4)年3月26日の大阪朝日会館における近衛指揮の

ベートーヴェン《交響曲第9番》関西初演である。この放送は「第九」の初の全国中継放送ともなったが、第3楽章の途中で停電が発生した。暗闇のなか演奏を続けたものの一時中断し、約2分後に再開されて最後まで演奏された（大津三郎『「第九」初演のころ』『會館藝術』第7巻第10号）。なお、東京中央放送局が新交響楽団の演奏を初めて演奏会場から中継放送したのは、1929（昭和4）年4月14日、日本青年館での「ケーニヒ氏楽壇三十五年祝賀演奏会」前半であった。

放送会館の大スタジオへ

しかし、愛宕山の放送局のスタジオは狭く、編成の大きなオーケストラ作品は演奏できなかった。そのため1930（昭和5）年12月22日からは荏原町の新交響楽団練習所から中継放送が行われるようになった。その後、1934（昭和9）年に愛宕山の放送局に木造の演奏室が増築され、1935（昭和10）年1月1日の新スタジオ開きでは、シフェルブラットの指揮で、ベートーヴェン《序曲「献堂式」》とモーツァルト《交

響曲第41番「ジュピター」が放送された。ただし、このスタジオは建設計画中の内幸町の放送会館が完成するまでの仮のものであった。

1938（昭和13）年12月21日、日本放送協会本部が愛宕山から放送会館に移転してきた。翌年5月13日の落成記念放送の第1日には、日本放送交響楽団を中心としたオーケストラ、大日本連合合唱団の200名を超える編成で、山田耕筰《交響曲「昭和讃頌」》が作曲者自身の指揮で第1スタジオから放送された。さらに同年5月20日にはローゼンストックの指揮で、ベートーヴェンの《第9》が放送された。大スタジオを有する放送会館の落成によって、合唱を伴う大編成の作品もスタジオから放送できるようになったのである。

第2次世界大戦中に、日本交響楽団と改称されたあとも、第1スタジオでの演奏が放送され続けた。戦後、1945（昭和20）年8月28日から始まった『日響の時間』が、1947（昭和22）年10月から『日響演奏会』（この時期、番組名として「演奏会」が用いられた）に改題された。さらに1949（昭和24）年7月からNHK交響楽団の名称で放送に出演することになり、番組名も

年表 | 定期公演の会場と放送演奏の場の変遷

	放送演奏の場	定期公演の会場	
1926（大正15）年10月7日	放送局（愛宕山）スタジオ		「JOAKオーケストラ」の名称で放送出演
1926（大正15）年11月26日			「新交響楽団」の名称では初めて東京中央放送局の放送に登場
1927（昭和2）年2月20日		日本青年館	新交響楽団の第1回定期公演
1930（昭和5）年12月22日	新交響楽団練習所（荏原町）		放送演奏の場所が練習所へ
1932（昭和7）年9月		日比谷公会堂	定期公演の会場は日比谷公会堂へ
1935（昭和10）年1月1日	放送局（愛宕山）の新スタジオ		新スタジオ開きの元旦放送
1939（昭和14）年5月13日	放送会館（内幸町）の第1スタジオ		落成記念放送
1955（昭和30）年3月22日	旧NHKホール（～1973年7月25日）		落成披露でラジオとテレビのために生放送
1961（昭和36）年11月		東京文化会館	定期公演の会場は東京文化会館へ
1973（昭和48）年10月		NHKホール	定期公演の会場はNHKホールへ

『NHK シンフォニーホール』となった。これらの番組はいずれも第1スタジオから放送された。1954年に初来日したカラヤンが、演奏会に先駆けて4月6日にラジオとテレビの生放送のための「特別演奏会」でN響を指揮して、ブラームス《交響曲第1番》を演奏したのも、第1スタジオであった。

新旧のNHKホールと、スタジオ演奏の節目

その後、テレビ放送に備えて放送会館が増築され、旧NHKホールが完成した。「NHK30周年記念」として放送記念日の1955(昭和30)年3月22日、落成披露で常任指揮者ニクラウス・エッシュバツハーがラジオとテレビのために生放送を行った。「わが国に初めて誕生した理想的な『ラジオ・ホール』」(『朝日新聞』)、「理想的な音響効果をほこる『NHKホール』」(『読売新聞』)と、このホールへの期待が記されている。以後、N響の中心的なラジオの定時番組『NHK シンフォニーホール』の多くが、常任指揮陣に加え、ベンジャミン・ブリテンやジャン・マルティノンなどの指揮者のもと、旧NHKホールで公開収録および非公開収録、生放送で制作された。N響の担当プロデューサーも務めた細野達也によれば、公開収録の際の客席は、わずか630であり(『NHK交響楽団四十年史』)、旧NHKホールは実質的にスタジオであった。

しかし、1960年代に入り放送技術の進展とともに状況が変化し、定期公演を中心とした演奏会を収録した放送が増えていく。1964(昭和39)年10月1日から東京オリンピックの放送基地として、NHK放送センター(渋谷)が使用され、翌年10月4日から放送センターの全面的な運用が開始された。そして1973(昭和48)年6月20日に同センター内に現在の

NHKホールが開場した。新しいNHKホールは、放送センター建設本部副部長の蓮池正によれば、「多目的ホールであるけれども、NHK交響楽団の定期演奏会をここでやるのだ、というコンサート・ホールとして音響設計は完璧であることを前提に設計」(『フィルハーモニー』1973年4月号)された。前述のとおり、同年10月から定期公演の演奏会場はNHKホールに移る。

7月25日に「旧NHKホールさよならコンサート」が岩城宏之の指揮で行われた。この模様はテレビでは8月9日にその一部が、ラジオ(FM)では11日にすべて放送された。こうしてN響の定時番組におけるスタジオ演奏はひとつの区切りを迎え、今日のように定期公演を中心とした生演奏や収録が放送されるようになった。

参考・引用資料

- ・「洋楽放送五ヶ年」『音楽世界』(音楽世界発行所、1930年3月号)
- ・大津三郎著「『第九』初演のころ」『會館藝術』(朝日新聞社會事業團、1938年、第7巻第10号)
- ・日本放送協会編『日本放送史』(日本放送協会、1951年)
- ・『NHK交響楽団四十年史』(日本放送出版協会、1967年)
- ・「洋楽放送70年史プロジェクト」『洋楽放送70年史：1925-1995』(ミュージアム図書、1997年)
- ・NHK編『NHK放送100年史』(2025年、NHK出版)
- ・「洋楽放送記録」(NHK放送博物館所蔵)
- ・「フィルハーモニー」
- ・「朝日新聞クロスサーチ」(朝日新聞)、「ヨミダス」(読売新聞)

西村 理 | にしむら・おさむ

大阪音楽大学教授。博士(音楽学)。研究テーマはメディアを軸とした音楽文化。論文に「戦前・戦中におけるJOBKの放送オーケストラ——番組制作の観点から」、「大正末から昭和初期における大阪の音楽隊のレパートリー——大大阪記念博覧会とラジオ放送を中心に」、監修書に「厳選 CD100 曲 よくわかる クラシックの基本」など。

2026年6月定期公演のプログラムについて

公演企画担当者から

ヤープ・ヴァン・ズヴェーデンが N響初登場

[Aプログラム]は、最近までニューヨーク・フィルの音楽監督として活躍したヤープ・ヴァン・ズヴェーデン。得意中の得意とも言えるプログラムで、N響との初共演に臨む。

中でもバルトーク《管弦楽のための協奏曲》は、ベルリン・フィルへのデビューでも演奏した勝負曲で、クリアで精緻な音楽作りは、N響も得意とするところ。

モーツァルト《ピアノ協奏曲第17番》を弾くコンラッド・タオは、ヴァン・ズヴェーデンが「真の独立精神を持つアーティスト」と絶賛する早熟の天才で、推進力のある演奏は、マエストロの美学に共鳴する部分が多かろう。注目のカデンツァでは、作曲家でもあるタオの、遊び心に満ちた即興が練り広げられそうだ。

ワーグナーもヴァン・ズヴェーデンの重要なレパートリーで、《マイスタージンガー前奏曲》は、ちょうど100年前、N響の前身である新交響楽団が「第1回研究発表演奏会」で演奏した。記念イヤーへの思いも込めて、この壮麗な音楽を冒頭に奏でる。

夏と海のイメージが 循環するプログラム

[Bプログラム]はフランス音楽のスペシャリスト、ステファヌ・ドゥネーヴ。夏と海にちなんだ季節感のあるプログラムをお届けする。

《夏の牧歌》は、オネゲルがアルプスの夏の夜明けに感興を覚えて書いた作品。山並みを染め上げる薄明の光のように、ホルンの旋律が姿を現すと、それに弦や木管が呼応する。自然界の万物が、少しずつ目覚めていくかのような、想像力をかき立てられる小品である。

ベルリオーズの連作歌曲集《夏の夜》は、6曲が生喜び、喪失と死、そこからの再生というサイクルに沿って配列されており、“移りゆく時間”が、オネゲルとの共通項だ。愛と孤独が交錯するロマン主義の精華を聴かせるのは、人気オペラ歌手のガエル・アルケーズ。

《夏の夜》の終曲〈未知の島〉は、恋人を船旅に誘う歌だが、続く《寄港地》で、私たちは本格的な航海に出発する。陽光きらめく地中海沿岸の風景が浮かぶが、イベールの最大の狙いは、旅に起因する感情の移り変わりを描くことだった。

ドビュッシーにとっての《海》は、未知の世界に通じる媒介である。この曲によって、20世紀以降の西洋音楽も、未開の航路に漕ぎ出してゆく。そして刻々と変わる自然の姿は、《夏の

牧歌》のイメージへと循環するのだ。

若きトップ・アーティスト HIMARIの定期デビュー

[Cプログラム]には、話題沸騰のHIMARIが登場。N響との初共演当時、彼女はわずか11歳だった。ほどなくして海外の一流オケに次々デビューし、各地でチケットが即完売する人気ぶりである。シベリウス《ヴァイオリン協奏曲》は去年夏、スイス・ロマン管弦楽団の来日ツアーでも披露し、圧倒的な反響を得た。同じ曲で日進月歩の成長を感じ取れるのは、ファンにとって心躍る体験であるに違いない。N響にも、若きトップ・アーティストに負けなみずみずしい感性が求められよう。




後半は、正指揮者・尾高忠明が得意とするラフマニノフの交響曲。若者の野心みなぎる《第1番》、情感豊かな《第2番》を、尾高はし

ばしば取り上げるが、《交響曲第3番》はそれほどでもなく、N響と演奏するのも初めての経験になる。

ほどよい気品の中に叙情性を際立たせる尾高の個性に、ラフマニノフは合っているようだ。これは長年にわたるBBCウェールズ・ナショナル管弦楽団との関係で培われたものだろうか。同楽団との録音では、第1楽章の有名なチェロの主題の最後の3音(ラ-ド#-シ)が、たっぷりのテヌートで強調される。ほどよく抑制が効いた全体にあって、この部分はとても印象的だ。

シベリウス《アンダンテ・フェスティヴォ》は、尾高の名刺代わりとも言える1曲。澄みわたるメロディが、初夏のNHKホールに清涼な空気を届けてくれることだろう。

[西川彰一／NHK交響楽団 芸術主幹]

A	6/13 土 6:00pm	ワグナー／楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲	
	6/14 日 2:00pm	モーツァルト／ピアノ協奏曲 第17番 ト長調 K. 453 バルトーク／管弦楽のための協奏曲 指揮：ヤーブ・ヴァンズヴェーデン ピアノ：コンラッド・タオ	
B	6/4 木 7:00pm	オネゲル／交響詩「夏の牧歌」	
	6/5 金 7:00pm	ベルリオーズ／歌曲集「夏の夜」作品7 イベール／寄港地 ドビュッシー／交響詩「海」 指揮：ステファヌ・ドゥネーヴ メゾ・ソプラノ：ガエル・アルケーズ	
C	6/19 金 7:00pm	シベリウス／アンダンテ・フェスティヴォ	
	6/20 土 2:00pm	シベリウス／ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47 ラフマニノフ／交響曲 第3番 イ短調 作品44 指揮：尾高忠明 ヴァイオリン：HIMARI	

NHKホール

チケットのご案内(定期公演 2025年9月～2026年6月)

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～44%お得です! (一般料金の場合。ユースチケットでは最大57%お得です。割引率は公演や券種によって異なります)

発売開始日 (10:00amからの受付)	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	販売終了
	シーズン会員券(Winter)	販売終了
	シーズン会員券(Spring)	販売終了

料金(税込)

年間会員券(9回)		S	A	B	C	D
Aプログラム	一般	¥76,500(¥8,500)	¥65,025(¥7,225)	¥49,725(¥5,525)	¥41,310(¥4,590)	¥32,895(¥3,655)
Cプログラム	ユースチケット	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥23,715(¥2,635)	¥19,503(¥2,167)	¥11,475(¥1,275)
Bプログラム	一般	¥91,800(¥10,200)	¥76,500(¥8,500)	¥61,200(¥6,800)	¥49,725(¥5,525)	¥42,075(¥4,675)
	ユースチケット	¥45,900(¥5,100)	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥24,858(¥2,762)	¥21,033(¥2,337)

シーズン会員券(3回)		S	A	B	C	D
Aプログラム	一般	¥26,850(¥8,950)	¥22,824(¥7,608)	¥17,454(¥5,818)	¥14,499(¥4,833)	¥11,547(¥3,849)
Cプログラム	ユースチケット	¥13,425(¥4,475)	¥10,740(¥3,580)	¥8,325(¥2,775)	¥6,849(¥2,283)	¥4,029(¥1,343)

()内は1公演あたりの単価

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日 (10:00amからの受付)	9・10・11月	販売終了
	12・1・2月	販売終了
	4・5・6月	5・6月発売中 / 4月販売終了

ユースチケット

29歳以下の方へのお得なチケットです。全席種が一般料金の半額以下、1公演1000円～で定期公演をお楽しみいただけます。1回券と定期会員券ともにご利用いただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。

※ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。

※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳しくはN響ホームページをご覧ください。

WEBチケットN響
<https://nhkso.pia.jp>



お申し込み

N響ガイド | TEL 0570-02-9502
営業時間: 10:00am～5:00pm
定休日: 土・日・祝日

- 東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業
- 発売初日の土・日・祝日は10:00am～3:00pmの営業
- 電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

Please follow us on

N響ニュースレター | 最新情報をメールでお届けします。
WEBチケットN響の「利用登録」からご登録ください。

2025-26定期公演プログラム

A NHKホール		B サントリーホール		C NHKホール	
	開場5:00pm 開演6:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm	開場6:20pm 開演7:00pm 開場6:20pm 開演7:00pm		開場6:00pm 開演7:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm	
2025 05	A 第2064回	ドイツ音楽の深い洞察者と奏でるブラームス・プログラム ブラームス／ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲 イ短調 作品102 5/23(土) 6:00pm 5/24(日) 2:00pm NHKホール	「ヤマカズ21」が振る元祖ヤマカズ そして1930年代日独作品の諸相 N響100年特別企画 邦人作曲家シリーズ 山田一雄／小交響詩「若者のうたへる歌」 ハルトマン／葬送協奏曲* 須賀田磯太郎／交響的序曲 作品6 ヒンデミット／交響曲「画家マチス」 指揮：山田和樹 ヴァイオリン：キム・スーヤン*	一般 ユースチケット S ¥10,000 S ¥6,000 A ¥8,500 A ¥4,000 B ¥6,500 B ¥3,100 C ¥5,400 C ¥2,550 D ¥4,300 D ¥1,500 E ¥2,200 E ¥1,000	
	B 第2063回	ラトビア出身の気鋭が解き明かす 謎多きショスタコーヴィチ(第4番)の真価 5/29(金) 7:00pm 5/30(土) 2:00pm NHKホール	ニューヨーク・フィルを率いたズヴェーデン 待望のN響初登場 ワーグナー／楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲 モーツァルト／ピアノ協奏曲 第17番 長調 K. 453 ハルトーク／管弦楽のための協奏曲 指揮：ヤープ・ヴァン・ズヴェーデン ピアノ：コンラッド・タオ	一般 ユースチケット S ¥12,000 S ¥6,000 A ¥10,000 A ¥5,000 B ¥8,000 B ¥4,000 C ¥6,500 C ¥3,250 D ¥5,500 D ¥2,750	
	C 第2065回	尾高のリリシズムと相性抜群の北国の名作たち HIMARI, N響定期に初登場 シベリウス／アンダンテ・フェスティヴォ シベリウス／ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47 ラフマニノフ／交響曲 第3番 短調 作品44 指揮：尾高忠明 ヴァイオリン：HIMARI	一般 ユースチケット S ¥10,000 S ¥6,000 A ¥8,500 A ¥4,000 B ¥6,500 B ¥3,100 C ¥5,400 C ¥2,550 D ¥4,300 D ¥1,500 E ¥2,200 E ¥1,000 (料金はすべて税込)		
2026 06	A 第2067回	尾高のリリシズムと相性抜群の北国の名作たち HIMARI, N響定期に初登場 シベリウス／アンダンテ・フェスティヴォ シベリウス／ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47 ラフマニノフ／交響曲 第3番 短調 作品44 指揮：尾高忠明 ヴァイオリン：HIMARI	尾高のリリシズムと相性抜群の北国の名作たち HIMARI, N響定期に初登場 シベリウス／アンダンテ・フェスティヴォ シベリウス／ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47 ラフマニノフ／交響曲 第3番 短調 作品44 指揮：尾高忠明 ヴァイオリン：HIMARI	一般 ユースチケット S ¥10,000 S ¥6,000 A ¥8,500 A ¥4,000 B ¥6,500 B ¥3,100 C ¥5,400 C ¥2,550 D ¥4,300 D ¥1,500 E ¥2,200 E ¥1,000 (料金はすべて税込)	
	B 第2066回	ドゥナーヴが編む「夏」と「海」をめぐるフランス名曲選 オネゲル／交響詩「夏の牧歌」 ベルリオーズ／歌曲集「夏の夜」作品7 イペール／寄港地 ドビュッシー／交響詩「海」 指揮：ステファヌ・ドゥナーヴ メゾ・ソプラノ：ガエル・アルケーズ	一般 ユースチケット S ¥12,000 S ¥6,000 A ¥10,000 A ¥5,000 B ¥8,000 B ¥4,000 C ¥6,500 C ¥3,250 D ¥5,500 D ¥2,750		
	C 第2068回	尾高のリリシズムと相性抜群の北国の名作たち HIMARI, N響定期に初登場 シベリウス／アンダンテ・フェスティヴォ シベリウス／ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47 ラフマニノフ／交響曲 第3番 短調 作品44 指揮：尾高忠明 ヴァイオリン：HIMARI	尾高のリリシズムと相性抜群の北国の名作たち HIMARI, N響定期に初登場 シベリウス／アンダンテ・フェスティヴォ シベリウス／ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47 ラフマニノフ／交響曲 第3番 短調 作品44 指揮：尾高忠明 ヴァイオリン：HIMARI	一般 ユースチケット S ¥10,000 S ¥6,000 A ¥8,500 A ¥4,000 B ¥6,500 B ¥3,100 C ¥5,400 C ¥2,550 D ¥4,300 D ¥1,500 E ¥2,200 E ¥1,000 (料金はすべて税込)	

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

2026-27シーズン定期公演プログラム

PROGRAM

A

豪華指揮者陣が生み出す 壮大な祝祭空間
庄倒の体験をNHKホールで

NHKホール

土 6:00pm 日 2:00pm

Autumn

2026

09

September

第2069回

9/12 土 6:00pm

9/13 日 2:00pm

「危機の時代」にルイーダが問う 大戦前夜の不穏さを孕んだ大作

N響100年特別企画

フランツ・シュミット／オラトリオ「7つの封印の書」
(日本語字幕付き)

指揮:ファビオ・ルイーダ ヨハネ(テノール):ミハエル・ラウレンツ
神の声(バス):ダーヴィト・シュテフェンス ソプラノ:迫田美帆
メゾ・ソプラノ:藤井麻美 テノール:伊藤達人 バス:加藤宏隆
オルガン:新山恵理 合唱:新国立劇場合唱団



一般	ユースチケット
S ¥15,000	S ¥7,000
A ¥12,500	A ¥6,000
B ¥10,000	B ¥5,000
C ¥8,000	C ¥4,000
D ¥6,500	D ¥3,000
E ¥4,500	E ¥2,000

2026

10

October

第2072回

10/17 土 6:00pm

10/18 日 2:00pm

ブルムシュテットに導かれて到る
崇高なるものとの一体感、そして法悦へ

ブルックナー／交響曲 第5番 変ロ長調

指揮:ヘルベルト・ブルムシュテット
カバールコンダクター:マティアス・バーメルト



一般	ユースチケット
S ¥15,000	S ¥7,000
A ¥12,500	A ¥6,000
B ¥10,000	B ¥5,000
C ¥8,000	C ¥4,000
D ¥6,500	D ¥3,000
E ¥4,500	E ¥2,000

2026

11

November

第2074回

11/7 土 6:00pm

11/8 日 2:00pm

戦時にショスタコーヴィチがスコアに込めた
「叫び」をソビエフが振り出す

プロコフィエフ／ヴァイオリン協奏曲 第1番 二長調 作品19
ショスタコーヴィチ／交響曲 第8番 八短調 作品65

指揮:トウガン・ソビエフ
ヴァイオリン:神尾真由子



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥3,600
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥1,900
E ¥3,300	E ¥1,600

Winter

2026

12

December

第2077回

11/28 土 6:00pm

11/29 日 2:00pm

デュトワ&アルゲリッチ 四半世紀の時を経てN響で再共演!

N響100年特別企画

ファリャ／バレエ組曲「三角帽子」第2番
ラヴェル／ピアノ協奏曲 卜長調
ベルリオーズ／幻想交響曲 作品14

指揮:シャルル・デュトワ
ピアノ:マルタ・アルゲリッチ



一般	ユースチケット
S ¥17,000	S ¥8,500
A ¥14,500	A ¥7,000
B ¥11,500	B ¥5,500
C ¥9,500	C ¥4,500
D ¥7,500	D ¥3,500
E ¥5,500	E ¥2,500

※12月定期公演Aプログラムは
11月に開催いたします。

2027
01 January
第2080回
1/16 土 6:00pm
1/17 日 2:00pm

ルイージ&\N響が満を持して挑む マラー最高峰の交響曲
マラー／交響曲 第9番 二長調
指揮:ファビオ・ルイージ



一般	ユースチケット
S ¥13,000	S ¥6,500
A ¥11,000	A ¥5,200
B ¥8,500	B ¥4,000
C ¥7,000	C ¥3,500
D ¥5,600	D ¥2,000
E ¥3,500	E ¥1,700

2027
02 February
第2082回
2/6 土 6:00pm
2/7 日 2:00pm

鬼才マナコルダとドイツ語圏音楽 300年の成り行きを俯瞰する
バッハ(ウェーベルン編)／
「音楽のささげもの」BWV1079—6声のリチェルカル
マラー／リュッケルトによる5つの歌
シェーンベルク／室内交響曲 第2番 作品38
シューベルト／交響曲 第7番 口短調 D. 759「未完成」
指揮:アントネッロ・マナコルダ
バリトン:アンドレ・シュエーン



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

Spring

2027
04 April
第2084回
4/10 土 6:00pm
4/11 日 2:00pm

いざ、ルイージと行かん!
アルプスという名の「人生」を歩む旅へ
メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64
R. シュトラウス／アルプス交響曲 作品64
指揮:ファビオ・ルイージ
ヴァイオリン:ジェームズ・エーネス



一般	ユースチケット
S ¥13,000	S ¥6,500
A ¥11,000	A ¥5,200
B ¥8,500	B ¥4,000
C ¥7,000	C ¥3,500
D ¥5,600	D ¥2,000
E ¥3,500	E ¥1,700

2027
05 May
第2086回
5/8 土 6:00pm
5/9 日 2:00pm

バーヴォのイチ押し! 北歐・珠玉の名品たち
グリーグ／ピアノ協奏曲 イ短調 作品16
ステンハンマル／交響曲 第2番ト短調 作品34
指揮:バーヴォ・ヤルヴィ
ピアノ:デニス・コジュヒン



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥3,600
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥1,900
E ¥3,300	E ¥1,600

2027
06 June
第2088回
6/5 土 6:00pm
6/6 日 2:00pm

ソヒエフ&\N響の初ブルックナーは
ワーグナーに捧げられた意欲作
モーツァルト／交響曲 第35番 二長調 K. 385「ハフナー」
ブルックナー／交響曲 第3番 二短調「ワーグナー」
(第3稿/1889)
指揮:トウガン・ソヒエフ



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥3,600
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥1,900
E ¥3,300	E ¥1,600

(以上、すべて税込)

年間会員券(9回)	一般	S ¥76,500	A ¥65,025	B ¥49,725	C ¥41,310	D ¥32,895
	ユースチケット	S ¥38,250	A ¥30,600	B ¥23,715	C ¥19,503	D ¥11,475
シーズン会員券(3回)	一般	S ¥26,850	A ¥22,824	B ¥17,454	C ¥14,499	D ¥11,547
	ユースチケット	S ¥13,425	A ¥10,740	B ¥8,325	C ¥6,849	D ¥4,029

2026-27シーズン定期公演プログラム

PROGRAM

B

豊潤なホールサウンドで味わう名匠たちの音作り
最高峰のソリストたちも集結

サントリーホール

木 7:00pm 金 7:00pm

Autumn

2026

09

September

第2070回

9/17

木 7:00pm

9/18

金 7:00pm

ルイーゼの道案内で分け入るドイツロマンの森
ウェーバー／歌劇「オベロン」序曲
ブラームス／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品77
シューマン／交響曲 第4番 二短調 作品120(改訂版)
指揮:ファビオ・ルイーゼ
ヴァイオリン:アウグスティン・ハーデリヒ



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

2026

10

October

2026年10月Bプログラムは特別公演開催のため休止いたします。

2026

11

November

第2076回

11/19

木 7:00pm

11/20

金 7:00pm

北の大地のロマンティズムと ファンタジーの極致
ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第2番 八短調 作品18
チャイコフスキー／
バレエ音楽「くるみ割り人形」作品71(抜粋)
指揮:トウガン・ソヒエフ
ピアノ:アレクサンドル・カントロフ



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

Winter

2026

12

December

第2079回

12/10

木 7:00pm

12/11

金 7:00pm

オ人・エメリヤニチェフが命を吹き込む
100年記念作と《スコットランド》
モーツァルト／歌劇「魔笛」序曲
スルンカ／チェロ協奏曲
[NHK交響楽団100年記念委嘱作品／世界初演]
メンデルスゾーン／
交響曲 第3番 イ短調 作品56「スコットランド」
指揮:マキシム・エメリヤニチェフ チェロ:ニコラ・アルトシュテット



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

(以上、すべて税込)

2027

01

January

2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムは
サントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。

2027

02

February

2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムは
サントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。

Spring

2027

04

April

2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムは
サントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。

2027

05

May

2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムは
サントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。

2027

06

June

2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムは
サントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。

年間会員券(3回)

一般	S ¥30,600	A ¥25,500	B ¥20,400	C ¥16,575	D ¥14,025
ユースチケット	S ¥15,300	A ¥12,750	B ¥10,200	C ¥8,286	D ¥7,011

※ Bプログラムではシーズン会員券の販売は行いません。

※ 2026-27シーズンのBプログラムは9月、11月、12月の全3回です。

同シーズン同プログラムの定期会員のみなさまは、2027-28シーズン(2027年9月~2028年6月、全9回予定)にご継続いただけます。

2026-27シーズン定期公演プログラム

PROGRAM

C

「楽聖200年祭」を祝う交響曲&ピアノ協奏曲シリーズ
古典の“いま”を聴く

NHKホール

金 7:00pm 土 2:00pm

Autumn

2026

09

September

第2071回

9/25 金 7:00pm

9/26 土 2:00pm

爆発する才気と 大胆不敵さ

N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏1

ベートーヴェン／交響曲 第1番 八長調 作品21

ベートーヴェン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」

指揮:ファビオ・ルイーゾ



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥3,600
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥1,900
E ¥3,300	E ¥1,600

2026

10

October

第2073回

10/23 金 7:00pm

10/24 土 2:00pm

全曲を統べる 律動と生命力

N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏2

ベートーヴェン／「エグモント」序曲

ベートーヴェン／交響曲 第8番 へ長調 作品93

ベートーヴェン／交響曲 第5番 ハ短調 作品67「運命」

指揮:クリストフ・エッセンバッハ



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2026

11

November

第2075回

11/13 金 7:00pm

11/14 土 2:00pm

均整美、旋律美、そして自然への愛

N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏3

ベートーヴェン／序曲「コリオラン」

ベートーヴェン／交響曲 第2番 二長調 作品36

ベートーヴェン／交響曲 第6番 へ長調 作品68「田園」

指揮:トゥガン・ソヒエフ



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥3,600
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥1,900
E ¥3,300	E ¥1,600

Winter

2026

12

December

第2078回

12/4 金 7:00pm

12/5 土 2:00pm

極限まで追求された リズムのポテンシャル

N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏4

ベートーヴェン／交響曲 第4番 変ロ長調 作品60

ベートーヴェン／交響曲 第7番 イ長調 作品92

指揮:シャルル・デュトワ

※ベートーヴェン《交響曲第9番「合唱つき」》は、
2026年末の「ベートーヴェン」第9「演奏会」で演奏予定です
(指揮:マレク・ヤノフスキ)。



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥3,600
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥1,900
E ¥3,300	E ¥1,600

2027

01

January

第2081回

1/22 金 7:00pm

1/23 土 2:00pm

「デンマークのベートーヴェン」ニルセン最後のシンフォニー

ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏1

ソレンセン／夕暮れの大地【日本初演】

ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第1番 ハ長調 作品15

ニルセン／交響曲 第6番「シンフォニア・センブリーチェ」

指揮：ファビオ・ルイーゼ

ピアノ：アレクサンドロ・タヴェルナ



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥3,600
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥1,900
E ¥3,300	E ¥1,600

2027

02

February

第2083回

2/12 金 7:00pm

2/13 土 2:00pm

子が光を当てる父とその盟友の名作
そして超新星ピアニスト降臨！

ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏2

シューマン／歌劇「ゲノヴェーヴァ」序曲

ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品19

尾高尚忠／交響詩「蘆屋乙女」作品9

パヌフニク／交響曲 第2番「悲歌」

指揮：尾高尚明 ピアノ：イム・ユンチャン



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

Spring

2027

04

April

第2085回

4/23 金 7:00pm

4/24 土 2:00pm

若きカリスマ エリム・チャンが放つ圧倒的な躍動感

ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏3

ドヴォルザーク／交響詩「真昼の魔女」作品108

ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第3番 ハ短調 作品37

チン・ウンスク／スピト・コン・フォルツァ

シヨスタコーヴィチ／交響曲 第9番 変ホ長調 作品70

指揮：エリム・チャン ピアノ：アリス・紗良・オット



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

2027

05

May

第2087回

5/21 金 7:00pm

5/22 土 2:00pm

こだわりのプログラムを携え 名匠ケント・ナガノ、響を初指揮

ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏4

リュリ／バレエ音楽「町人貴族」(抜粋)

ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第4番 変ト長調 作品58

R. シュトラウス／組曲「町人貴族」作品60

指揮：ケント・ナガノ

ピアノ：ティル・フェルナー



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2027

06

June

第2089回

6/18 金 7:00pm

6/19 土 2:00pm

若き大物が、響と正面から取り組む 本格的独壇プログラム

ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏5

ベートーヴェン／

ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」

R. シュトラウス／交響詩「英雄の生涯」作品40

指揮：トーマス・グッガイス

ピアノ：キリル・ゲルシュタイン



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

(以上、すべて税込)

年間会員券(9回)	一般	S ¥76,500	A ¥65,025	B ¥49,725	C ¥41,310	D ¥32,895
	ユースチケット	S ¥38,250	A ¥30,600	B ¥23,715	C ¥19,503	D ¥11,475
シーズン会員券(3回)	一般	S ¥26,850	A ¥22,824	B ¥17,454	C ¥14,499	D ¥11,547
	ユースチケット	S ¥13,425	A ¥10,740	B ¥8,325	C ¥6,849	D ¥4,029

チケットのご案内(定期公演 2026年9月～2027年6月)

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～52%お得です! (一般料金の場合。ユースチケットでは最大63%お得です。割引率は公演や席種によって異なります)

発売開始日 (10:00amからの受付)	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	2026年7月5日[日](定期会員先行) / 2026年7月12日[日](一般)
	シーズン会員券(Winter)	2026年10月13日[火](定期会員先行) / 2026年10月16日[金](一般)
	シーズン会員券(Spring)	2027年2月10日[水](定期会員先行) / 2027年2月14日[日](一般)

料金(税込)

年間会員券		S	A	B	C	D
Aプログラム Cプログラム (各9回)	一般	¥76,500(¥8,500)	¥65,025(¥7,225)	¥49,725(¥5,525)	¥41,310(¥4,590)	¥32,895(¥3,655)
	ユースチケット	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥23,715(¥2,635)	¥19,503(¥2,167)	¥11,475(¥1,275)
Bプログラム (3回)	一般	¥30,600(¥10,200)	¥25,500(¥8,500)	¥20,400(¥6,800)	¥16,575(¥5,525)	¥14,025(¥4,675)
	ユースチケット	¥15,300(¥5,100)	¥12,750(¥4,250)	¥10,200(¥3,400)	¥8,286(¥2,762)	¥7,011(¥2,337)
シーズン会員券		S	A	B	C	D
Aプログラム Cプログラム (各3回)	一般	¥26,850(¥8,950)	¥22,824(¥7,608)	¥17,454(¥5,818)	¥14,499(¥4,833)	¥11,547(¥3,849)
	ユースチケット	¥13,425(¥4,475)	¥10,740(¥3,580)	¥8,325(¥2,775)	¥6,849(¥2,283)	¥4,029(¥1,343)

()内は1公演あたりの単価

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日 (10:00amからの受付)	9・10・11月	2026年7月22日[水](定期会員先行) / 2026年7月26日[日](一般)
	12・1・2月	2026年10月21日[水](定期会員先行) / 2026年10月25日[日](一般)
	4・5・6月	2027年2月19日[金](定期会員先行) / 2027年2月23日[火・祝](一般)

ユースチケット

29歳以下の方へのお得なチケットです。全席種が一般料金の半額以下、1公演1000円～で定期公演をお楽しみいただけます。1回券と定期会員券ともにご利用いただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。

※ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。

※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳しくはN響ホームページをご覧ください。

WEBチケットN響
https://nhkso.pia.jp



お申し込み

N響ガイド | TEL 0570-02-9502
営業時間: 10:00am～5:00pm
定休日: 土・日・祝日

- 東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業
- 発売初日の土・日・祝日は10:00am～3:00pmの営業
- 電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

Please follow us on



N響ニュースレター

最新情報をメールでお届けします。
WEBチケットN響の「利用登録」からご登録ください。

特別公演

6/26 **金** 7:00pm | N響シネマ・ミュージック feat. ジョン・ウィリアムズ

J:COM ホール八王子 (八王子市民会館)

指揮: 原田慶太楼

— オール ジョン・ウィリアムズ プログラム —

オリンピック・スピリット 映画『スーパーマン』— マーチ 映画『E. T.』— フライング・テーマ

映画『ジュラシック・パーク』— テーマ 映画『シンドラーのリスト』— テーマ

映画『レイダース/失われたアーク《聖櫃》』— レイダース・マーチ オリピック・ファンファーレとテーマ

映画『ハリー・ポッター』— ヘドウィグのテーマ 映画『スター・ウォーズ』— メイン・タイトル、レイア姫のテーマ、

ルークとレイア、帝国のマーチ、ヨーダのテーマ、酒場のバンド、王座の間とエンド・タイトル

料金(税込): 一般 | S席10,000円 A席8,600円 B席6,800円

ユースチケット(29歳以下) | S席5,000円 A席4,300円 B席3,400円

※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日: N響定期会員先行 | 3月9日(月) 10:00am

一般 | 3月13日(金) 10:00am

主催: NHK / NHK交響楽団

7/3 **金** 7:00pm | Music Tomorrow 2026

東京オペラシティ コンサートホール

指揮: 杉山洋一 ソプラノ: 藤田果玲 トロンボーン: 新田幹男 (N響首席トロンボーン奏者)

我妻 英 / 管弦楽のための《祀》(2024) [第73回「尾高賞」受賞作品]

杉山洋一 / 夢へのぎざはし— オーケストラのための (2026) [N響100年記念委嘱作品・世界初演]

スペシャルトーク (ピローネ・自作を語る)

ピローネ / ボッカ・コスモイ一声、トロンボーンとオーケストラのための (2007) [日本初演]

※6:30pm より尾高賞授賞式・プレトークがございます(司会: 白石美雪)

料金(税込): 一般 | S席4,000円 A席3,000円 B席2,000円

ユースチケット(29歳以下) | S席2,000円 A席1,500円 B席1,000円

※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日: N響定期会員先行 | 3月9日(月) 10:00am

一般 | 3月13日(金) 10:00am

主催: NHK / NHK交響楽団 共催: (公財) 東京オペラシティ文化財団

助成: 芸術文化振興基金 / (公財) 三菱 UFJ 信託芸術文化財団 / (公財) ローム ミュージック ファンデーション



芸術文化振興基金助成事業



ロームミュージックファンデーション

7/6日 7:00pm | N響ウェルカム・コンサート

NHKホール

指揮:原田慶太楼 ヴァイオリン:中原梨衣紗 ハープ:早川りさこ(N響ハープ奏者) ナビゲーター:大林奈津子
ウェーバー/歌劇「オベロン」序曲から(9月定期公演)

ベートーヴェン/交響曲 第5番 ハ短調 作品67「運命」—第1楽章(10月定期公演)

ブラームス/交響曲 第4番 ホ短調 作品98—第3楽章(10月特別公演)

ニルセン/交響曲 第6番「シンフォニア・センブリーチェ」—第2楽章(1月定期公演)

メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64—第1楽章から(4月定期公演)

フランツ・シュミット/歌劇「ノートルダム」—「間奏曲」(4月東京芸術劇場シリーズ)

ランサン/ハープと管弦楽のための田園協奏曲—第2楽章(5月東京芸術劇場シリーズ)

ショスタコーヴィチ/交響曲 第9番 変ホ長調 作品70—第1楽章(4月定期公演)

ファリャ/バレエ組曲「三角帽子」第2番—「終幕の踊り」(12月定期公演)

料金(税込):一般 2,000円/定期会員 1,700円/ユースチケット(29歳以下) 1,000円
ウェルカム・ペアチケット(2枚1組) 3,200円

チケット発売日:N響定期会員先行 | 4月20日(月)10:00am

一般 | 4月24日(金)10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団

7/17日 7:00pm | N響「夏」2026

NHKホール

指揮:ワシリー・ペトレンコ ピアノ:ツォトネ・ゼジニゼ

ラフマニノフ/ピアノ協奏曲 第3番 二短調 作品30

リムスキー・コルサコフ/交響組曲「シェエラザード」作品35

料金(税込):一般 | S席7,300円 A席5,300円 B席3,300円 C席2,100円

ユースチケット(29歳以下) | S席3,600円 A席2,600円 B席1,600円 C席1,000円

※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 5月12日(火)10:00am

一般 | 5月15日(金)10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団

協賛:岩谷産業株式会社

8/2回 3:30pm | 夏だ! 祭りだ!! N響ほっとコンサート

NHKホール

指揮:下野竜也 ホルン:アレッシオ・アレグリーニ ナビゲーター:加藤清史郎

[翔けよう! まほうの森と夢の世界]

ドリーブ／バレエ組曲「シルヴィア」—前奏曲と「狩りの女神」

モーツァルト／ホルン協奏曲 第2番 変ホ長調 K. 417

ハイدن／交響曲 第73番 二長調「狩り」—第4楽章

ヨハン・シュトラウスII世／ボルカ「狩り」作品373

メンデルスゾーン／「夏の夜の夢」の音楽から～加藤清史郎といっしょに、シェークスピアのお話の森へ

料金(税込):一般 | S席5,500円 A席4,500円 B席3,000円 C席1,500円

ユースチケット(29歳以下) | S席4,000円 A席3,000円 B席2,000円 C席1,000円

小・中学生 | S席2,000円 A席1,500円 B席1,000円 C席500円

※定期会員はS・A・B各席の一般料金から10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 5月12日(火)10:00am

一般 | 5月15日(金)10:00am

主催:NHK / NHK交響楽団

協賛:湖山医療福祉グループ

協力:株式会社グローバル / グローバル管楽器技術学院 / 株式会社ポケモン

8/21金 7:00pm | 東京芸術劇場

8/22土 3:30pm | 京都コンサートホール

8/23日 2:00pm | ザ・シンフォニーホール

8/24月 7:00pm | 福岡シンフォニーホール(アクロス福岡)

N響×ポケモン
クラシックコンサートツアー
(東京・京都・大阪・福岡)

指揮:横山 奏 MC:竹平晃子

[第1部]

『ポケットモンスター 赤・緑』より～オープニング～

グリーグ／「ペール・ギュント」組曲 第1番より「朝」

スメタナ／交響詩「モルダウ」

ストラヴィンスキー／バレエ組曲「火の鳥」より「こもり歌」～「終曲」

[第2部]

ゲーム『ポケットモンスター』シリーズより

『ポケットモンスター ウィンド・ウエーブ』より メインテーマ

※ポケモンや映像・音響・照明による演出はございません。

料金(税込):一般 | S席13,000円 A席11,000円 B席9,000円 C席7,000円

小・中学生 | S席5,500円 A席4,500円 B席3,500円 C席2,500円

※N響定期会員の割引はございません

チケット発売日:N響年間会員・シーズン会員先行 | 5月14日(木)10:00am～5月18日(月)11:59pm

先行抽選受付(WEBチケットN響限定) | 5月19日(火)10:00am～5月26日(火)11:59pm

一般 | 6月7日(日)10:00am

※「N響年間会員・シーズン会員先行」発売期間中は予定枚数となり次第、受付を終了いたします。

主催:NHK交響楽団

企画協力:株式会社ポケモン

©2026 Pokémon. ©1995–2026 Nintendo/Creatures Inc./GAME FREAK inc.

ポケットモンスター・ポケモン・Pokémonは任天堂・クリエーターズ・ゲームフリークの商標です。

9/3(日) 7:00pm | 明電舎 presents N響名曲コンサート2026

サントリーホール

指揮:尾高忠明 ヴァイオリン:郷古 廉
シベリウス/アンダンテ・フェスティーヴォ
プロコフィエフ/ヴァイオリン協奏曲 第2番 ト短調 作品63
チャイコフスキー/交響曲 第5番 ホ短調 作品64

料金(税込):一般 | SS席9,000円 S席7,000円 A席5,500円 B席4,000円 C席3,000円
ユースチケット(29歳以下) | SS席4,500円 S席3,500円 A席2,750円 B席2,000円 C席1,500円
※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 5月12日(火)10:00am
一般 | 5月15日(金)10:00am

主催:NHK交響楽団
特別協賛:株式会社明電舎

10/3(土) 6:00pm

創立100年記念 マーラー《交響曲第2番「復活」》

10/4(日) 2:00pm

NHKホール

指揮:ファビオ・ルイーゼ ソプラノ:イン・ファン メゾ・ソプラノ:タマラ・マムフォード 合唱:新国立劇場合唱団
マーラー/交響曲 第2番 ハ短調「復活」

チケット発売日:N響定期会員先行 | 7月22日(水)10:00am
一般 | 7月26日(日)10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団

10/30(金) 7:00pm

巨匠たちによるブラームス交響曲全曲演奏

10/31(土) 4:00pm

東京芸術劇場

10/30(金) | 指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット
ブラームス/交響曲 第2番 二長調 作品73
ブラームス/交響曲 第4番 ホ短調 作品98

10/31(土) | 指揮:クリストフ・エッシェンバッハ
ブラームス/交響曲 第3番 へ長調 作品90
ブラームス/交響曲 第1番 ハ短調 作品68

チケット発売日:N響定期会員先行 | 7月22日(水)10:00am
一般 | 7月26日(日)10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団

2027/1/10(日) 3:00pm

ルイーゼ指揮 N響ニューイヤーコンサート

2027/1/11(月祝) 3:00pm

NHKホール

指揮:ファビオ・ルイーゼ ソプラノ:カミラ・ニールンド* テノール:クラウス・フロリアン・フォークト♦
ワーグナー/歌劇「リエンチ」序曲

ワーグナー/楽劇「ワルキューレ」—ジークムントの愛の歌「冬の嵐は過ぎ去り」♦

ワーグナー/楽劇「ワルキューレ」—「きみこそは春」*

ワーグナー/歌劇「ローエングリン」—聖杯の物語「はるかな国に」♦

ワーグナー/歌劇「タンホイザー」—「おごそかなこの広間よ」*

ワーグナー/楽劇「トリスタンとイゾルデ」—「愛の夜よ、とばりを降ろせ」*♦

J. シュトラウスII世/喜歌劇「こうもり」—序曲、チャールダーシュ「ふるさとの調べよ」*

レハール/喜歌劇「ほほえみの国」—「きみはわが心のすべて」♦

レハール/喜歌劇「メリー・ウィドー」—「ヴェリアの歌」*

カールマーン/喜歌劇「伯爵夫人マリーツァ」—「ウィーンによろしく」♦

J. シュトラウスII世/皇帝円舞曲 作品437

レハール/喜歌劇「ほほえみの国」—「私たちの心に誰が愛を沈めたのか」*♦

チケット発売日:N響定期会員先行 | 9月1日(火)10:00am

一般 | 9月6日(日)10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団

2027/2/20(土) 3:00pm

初演300年記念 コープマンの《マタイ受難曲》

2027/2/21(日) 2:00pm

NHKホール

指揮:トン・コープマン 福音史家(テノール):ティルマン・リヒディ イエス(バス・バリトン):クラウス・メルテンス

合唱:アムステルダム・バロック合唱団 児童合唱:東京少年少女合唱隊

バッハ/マタイ受難曲 BWV 244

チケット発売日:N響定期会員先行 | 10月21日(水)10:00am

一般 | 10月25日(日)10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団

2027/4/15木 7:00pm

東京芸術劇場

2027/4/16金 7:00pm

指揮:ファビオ・ルイーヂ チェロ:辻本 玲*

フランツ・シュミット/歌劇「ノートルダム」—「間奏曲と謝肉祭の音楽」

ヒンデミット/バレエ組曲「気高い幻想」

R. シュトラウス/交響詩「ドン・キホーテ」作品35*

2027/5/13木 7:00pm

東京芸術劇場

2027/5/14金 7:00pm

指揮:沖澤のどか ハープ:早川りさこ

ドビュッシー/牧神の午後への前奏曲

ランサン/ハープと管弦楽のための田園協奏曲

タイユフェール/小組曲

ラヴェル/バレエ組曲「ダフニスとクロエ」第1番、第2番

2027/6/10木 7:00pm

東京芸術劇場

2027/6/11金 7:00pm

指揮:トウガン・ソヒエフ オーボエ:中村周平 クラリネット:松本健司 ファゴット:宇賀神広宣 ホルン:今井仁志

プロコフィエフ/古典交響曲 作品25

モーツァルト/4つの管楽器と管弦楽のための協奏交響曲 変ホ長調 K. 297b

ストラヴィンスキー/バレエ音楽「春の祭典」

チケット発売日: [セット券] Bプログラム定期会員先行 | 11月24日(火) 10:00am

N響定期会員先行 | 11月28日(土) 10:00am

一般 | 12月2日(水) 10:00am

[1回券] N響定期会員先行 | 12月16日(水) 10:00am

一般 | 12月20日(日) 10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団

お申し込み

WEBチケットN響

<https://nhkso.pia.jp>



N響ガイド | TEL 0570-02-9502

営業時間: 10:00am～5:00pm

定休日: 土・日・祝日

●東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業

●発売初日の土・日・祝日は10:00am～3:00pmの営業

●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

各地の公演

6/22(月) 3:00pm | 森のホール21 CLASSICS vol. 9 NHK交響楽団 松戸特別演奏会

森のホール21 (松戸市文化会館) 大ホール

指揮:尾高忠明 ヴァイオリン:HIMARI

シベリウス/アンダンテ・フェスティーヴォ

シベリウス/ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47

ラフマニノフ/交響曲 第3番 イ短調 作品44

主催:(公財)松戸市文化振興財団 お問い合わせ:森のホール21チケットセンター TEL(047)384-3331

6/27(日) 3:00pm | 原田慶太楼 指揮 NHK交響楽団〜ジョン・ウィリアムズの世界〜

グランシップ 大ホール・海

指揮:原田慶太楼

一オール・ジョン・ウィリアムズー

オリンピック・スピリット 映画『スーパーマン』ーマーチ 映画『E. T.』ーフライング・テーマ

映画『ジュラシック・パーク』ーテーマ 映画『シンドラーのリスト』ーテーマ

映画『レイダース/失われたアーク《聖櫃》』ーレイダース・マーチ オリピック・ファンファーレとテーマ

映画『ハリー・ポッター』ーヘドウィグのテーマ 映画『スター・ウォーズ』ーメイン・タイトル、レイア姫のテーマ、

ルークとレイア、帝国のマーチ、ヨーダのテーマ、酒場のバンド、王座の間とエンド・タイトル

主催:(公財)静岡県文化財団、静岡県 お問い合わせ:グランシップチケットセンター TEL(054)289-9000

7/10(金) 7:00pm | NHK交響楽団 創立100年記念コンサート

山形テルサ

指揮:広上淳一 ピアノ:牛田智大

ショパン/ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 作品11

ドヴォルザーク/スラヴ舞曲 第1集 作品46

主催:山形市 お問い合わせ:山形テルサ TEL(023)646-6677

7/11(土) 5:00pm | 青森朝日放送開局35周年記念 NHK交響楽団演奏会

supported by SGC (青森公演)

リンクステーションホール青森

出演者・曲目は7月10日と同じ

主催:青森朝日放送/サンライズプロモーション/青森市文化観光振興財団 お問い合わせ:サンライズプロモーション TEL(0570)00-3337

7/12 日 5:30pm | NHK交響楽団演奏会 supported by SGC(栃木公演)

宇都宮市文化会館 大ホール

出演者・曲目は7月10日と同じ

主催:(公財)うつのみや文化創造財団/下野新聞社/サンライズプロモーション お問い合わせ:サンライズプロモーション TEL(0570)00-3337

7/19 日 6:00pm | 第28回 NHK交響楽団松山定期演奏会

愛媛県県民文化会館 メインホール

指揮:ワシリー・ペトレンコ ピアノ:ツトネ・ゼジニゼ

ラフマニノフ/ピアノ協奏曲 第3番 二短調 作品30

リムスキー・コルサコフ/交響組曲「シェエラザード」作品35

主催:NHK松山放送局/愛媛新聞社/NHK交響楽団 お問い合わせ:N響ガイド TEL(0570)02-9502

7/26 日 5:00pm | シンフォニア岩国 開館30周年記念 特別公演 NHK交響楽団 岩国公演

シンフォニア岩国

指揮:ドミートリ・マトヴィエンコ ヴァイオリン:ティモシー・チューイ

モーツァルト/歌劇「ドン・ジョヴァンニ」序曲

ブルッフ/ヴァイオリン協奏曲 第1番 短調 作品26

ベートーヴェン/交響曲 第7番 イ長調 作品92

主催:指定管理者サントリーパブリシティサービスグループ お問い合わせ:シンフォニア岩国 TEL(0827)29-1600

8/3 日 7:00pm | フェスタ サマーミュージア KAWASAKI 2026

ミュージア川崎シンフォニーホール

指揮:下野竜也 ホルン:アレッシオ・アレグリーニ

ハイドン/交響曲 第73番 二長調「狩り」

R. シュトラウス/ホルン協奏曲 第2番 変ホ長調 K. 417

メンデルスゾーン/「夏の夜の夢」の音楽—「序曲」「スケルツォ」「間奏曲」「夜想曲」「結婚行進曲」

主催:川崎市/ミュージア川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ) お問い合わせ:ミュージア川崎シンフォニーホール TEL(044)520-0200

8/28 日 6:30pm | NHK交響楽団演奏会 土岐公演

土岐市文化プラザ サンホール

指揮:キンボー・イシイ ヴァイオリン:クロエ・チュア

ドビュッシー(ビュセール編)/小組曲

モーツァルト/ヴァイオリン協奏曲 第5番 イ長調 K. 219「トルコ風」

ビゼー/「カルメン」組曲(キンボー・イシイ版)

主催:NHK岐阜放送局/NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

8/29(国) 4:30pm | NHK交響楽団演奏会 福井公演

福井県立音楽堂 ハーモニーホールふくい 大ホール

出演者・曲目は8月28日と同じ

主催: NHK福井放送局 / NHK交響楽団 お問合せ: ハローダイヤル TEL (050) 5541-8600

8/30(回) 4:00pm | NHK交響楽団演奏会 刈谷公演

刈谷市総合文化センター アイリス 大ホール

出演者・曲目は8月28日と同じ

主催: NHK名古屋放送局 / NHK交響楽団 お問合せ: ハローダイヤル TEL (050) 5541-8600

9/5(国) 3:00pm | 仙台市市民文化事業団設立40周年記念 NHK交響楽団特別演奏会

仙台銀行ホール イズミティ21 大ホール

指揮: 尾高忠明 ヴァイオリン: 郷古 廉

シベリウス / アンダンテ・フェスティヴォ

プロコフィエフ / ヴァイオリン協奏曲 第2番 短調 作品63

チャイコフスキー / 交響曲 第5番 小短調 作品64

主催: (公財) 仙台市市民文化事業団 お問合せ: 仙台市市民文化事業団 音楽振興課 TEL (022) 727-1872

9/6(回) 3:00pm | NHK交響楽団 郡山公演

けんしん郡山文化センター 大ホール

出演者・曲目は9月5日と同じ

主催: (公財) 郡山市・文化学び振興公社 (郡山市市民文化センター指定管理者)

お問合せ: けんしん郡山文化センター (郡山市市民文化センター) TEL (024) 934-2288

9/20(回) 3:00pm | 第28回NHK交響楽団 足利定期公演

あしかがフラワーパークプラザ (足利市民プラザ)・文化ホール

指揮: ファビオ・ルイーヂ ヴァイオリン: アウグスティン・ハーデリヒ

ウェーバー / 歌劇「オベロン」序曲

ブラームス / ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品77

シューマン / 交響曲 第4番 二短調 作品120 (改訂版)

主催: (公財) 足利市みどり文化・スポーツ財団 お問合せ: あしかがフラワーパークプラザ (足利市民プラザ) TEL (0284) 72-8511

9/21(月祝) 2:00pm | NHK交響楽団演奏会 高崎公演

高崎芸術劇場 大劇場

出演者・曲目は9月20日と同じ

主催: 高崎芸術劇場 ((公財) 高崎財団) お問合せ: 高崎芸術劇場チケットセンター TEL (027) 321-3900

10/10^土 4:00pm

N響100周年 & サントリーホール40周年

10/12^{月祝} 4:00pm

ファビオ・ルイーゼ指揮 プッチーニ:オペラ『トスカ』(演奏会形式)

サントリーホール

指揮:ファビオ・ルイーゼ トスカ:エレナ・スティッキーナ カヴァラドッシ:リッカルド・マッシ
スカルピア男爵:アンブロジーオ・マエストリ アンジェロツェッティ:妻屋秀和 教会の番人:井出壮志朗
スポレッタ:糸賀修平

合唱:東京オペラシンガーズ 児童合唱:NHK東京児童合唱団

プッチーニ/歌劇「トスカ」(演奏会形式)

チケット発売日:サントリーホール・メンバーズ・クラブ & N響定期会員先行 | 5月13日(水) 10:00am ~ 5月19日(火)
一般 | 5月20日(水) 10:00am

※チケットの詳細はホームページをご覧ください

主催:サントリーホール 共催:NHK交響楽団 お問い合わせ:サントリーホール チケットセンター TEL(0570)55-0017

11/22^日 3:00pm | NHK音楽祭2026

NHKホール

指揮:トゥガン・ソヒエフ ピアノ:アレクサンドル・カントロフ

ラフマニノフ/ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18

チャイコフスキー/バレエ音楽「くるみ割り人形」作品71(抜粋)

主催:NHK/NHKプロモーション 共催:NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

オーチャード定期

Bunkamura オーチャードホール

6/28^日 3:30pm

出演者・曲目は6月27日と同じ

横浜みなとみらいホール 大ホール

11/23^{月祝} 3:30pm

出演者・曲目は11月22日と同じ

主催・お問合せ:Bunkamura TEL(03)3477-3244

特別支援・特別協力・賛助会員

Corporate Membership

特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役 社長兼CEO 間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長 中島 篤
株式会社 みずほ銀行	頭取 加藤勝彦
公益財団法人 渋谷育英会	理事長 小丸成洋
東日本旅客鉄道株式会社	代表取締役社長 喜勢陽一
NTT東日本株式会社	代表取締役社長 澁谷直樹
東京海上ホールディングス株式会社	取締役社長 グループCEO 小池昌洋
株式会社ポケモン	代表取締役社長 石原恒和

特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長 上野金太郎
全日本空輸株式会社	代表取締役社長 平澤寿一
ヤマハ株式会社	代表執行役社長 山浦 敦
びあ株式会社	代表取締役社長 矢内 廣

賛助会員

・ 常陸宮	・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長 山田裕行	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役 会長執行役員 鈴木幸一
・ (株)アートレイ 代表取締役 小森活美	・ アットホーム(株) 代表取締役社長 鶴森康史	・ 内 聖美
・ (株)アイシン 取締役社長 吉田守孝	・ イーソリューションズ(株) 代表取締役社長 佐々木経世	・ 内山貴史
・ (株)アインホールディングス 代表取締役社長 大谷喜一	・ EY新日本有限責任監査法人 理事長 松村洋季	・ SMBC日興証券(株) 代表取締役社長 吉岡秀二
・ 葵設備工事(株) 代表取締役社長 安藤正明	・ (株)井口一世 代表取締役 井口一世	・ (株)NHKアート 代表取締役社長 石原 勉
・ (株)あ佳音 代表取締役社長 遠山信之	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長 清森洋祐	・ NHK営業サービス(株) 代表取締役社長 手島一宏
・ AXLBIT(株) 代表取締役 長谷川章博	・ (-財)ITOH 代表理事 伊東忠俊	・ (株)NHK エデュケーショナル 代表取締役社長 有吉伸人
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表執行役社長 Group CEO 勝木敦志	・ 井村屋グループ(株) 取締役社長 大西安樹	・ (株)NHK エンタープライズ 代表取締役社長 有吉伸人
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長 高須康有	・ (有)IL VIOLINO MAGICO 代表取締役 山下智之	・ (学)NHK学園 理事長 荒木美弥子
・ 朝日信用金庫 理事長 伊藤康博	・ 岩田地崎建設(株) 代表取締役社長 岩田圭剛	・ (株)NHK グローバルメディアサービス 代表取締役社長 神田真介

- ・(株)NHK出版
代表取締役社長 | 江口貴之
- ・(株)NHKテクノロジーズ
代表取締役社長 | 山口太一
- ・(株)NHKビジネススクエア
代表取締役社長 | 梶健一郎
- ・(株)NHKプロモーション
代表取締役社長 | 見郵便一
- ・NGK(株)
代表取締役社長 | 小林茂
- ・(株)NTTドコモ
代表取締役社長 | 前田義晃
- ・(株)NTTファシリティーズ
代表取締役社長 | 川口晋
- ・ENEOSホールディングス(株)
代表取締役社長執行役員 | 宮田知秀
- ・荏原冷熱システム(株)
代表取締役 | 加藤恭一
- ・MNインターファッション(株)
代表取締役社長 | 吉本一心
- ・(株)エレクトク
代表取締役 | 間部恵造
- ・大崎電気工業(株)
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・(株)大塚商会
代表取締役社長 | 大塚裕司
- ・大塚ホールディングス(株)
代表取締役社長兼CEO | 井上真
- ・(株)大林組
代表取締役社長 | 佐藤俊美
- ・オールニッポンヘリコプター(株)
代表取締役社長 | 寺田博
- ・岡崎悦子
- ・岡崎耕治
- ・小田急電鉄(株)
取締役社長 | 鈴木滋
- ・陰山建設(株)
代表取締役 | 陰山正弘
- ・鹿島建設(株)
代表取締役会長兼社長 | 押味至一
- ・(株)加藤電気工業所
代表取締役 | 加藤浩章
- ・(株)金子製作所
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチャー・エンタテインメントグループ(株)
代表取締役社長執行役員 | 中西一雄
- ・(株)関電工
取締役社長 | 田母神博文
- ・(株)かんぼ生命保険
取締役兼代表執行役社長 | 谷垣邦夫
- ・キッコーマン(株)
代表取締役社長CEO | 中野祥三郎
- ・木下彰子
- ・(株)教育芸術社
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス
代表取締役 | 半沢治久
- ・(株)共同通信会館
代表取締役専務 | 小濶敏郎
- ・(-社)共同通信社
社長 | 沢井俊光
- ・キリンホールディングス(株)
代表取締役会長CEO | 磯崎功典
- ・(学)国立音楽大学
理事長 | 重盛次正
- ・京王電鉄(株)
代表取締役社長社長執行役員
都村智史
- ・京成電鉄(株)
代表取締役社長社長執行役員
天野貴夫
- ・KDDI(株)
代表取締役社長CEO | 松田浩路
- ・(医)社団 恒仁会
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)構造計画研究所ホールディングス
代表執行役 | 服部正太
- ・(株)コーポレートディレクション
代表取締役 | 小川達大
- ・コグニティブリサーチラボ(株)
代表取締役 | 苦米地英人
- ・(医)財団 湖聖会
理事長 | 湖山泰成
- ・小林弘侑
- ・佐川印刷(株)
代表取締役会長 | 木下寧久
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ
代表取締役 | 富田佳佑
- ・サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長 | 鳥井信宏
- ・(株)ジェイ・ウィル・コーポレーション
代表取締役社長 | 佐藤雅典
- ・JCOM(株)
代表取締役社長 | 岩木陽一
- ・(株)シグマクシス・ホールディングス
代表取締役社長 | 太田寛
- ・(株)ジャパン・アーツ
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)集英社
代表取締役社長 | 林秀明
- ・(株)小学館
代表取締役社長 | 相賀信宏
- ・(株)商工組合中央金庫
代表取締役社長 | 関根正裕
- ・庄司勇次朗・恵子
- ・(株)ショットビジョン
代表取締役 | 森昇平
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ
代表取締役 | 白川亜弥
- ・(有)新赤坂健康管理協会
代表取締役社長 | 小池学
- ・信越化学工業(株)
代表取締役社長 | 斉藤恭彦
- ・新角卓也
- ・新菱冷熱工業(株)
代表取締役社長 | 加賀美猛
- ・スカパーJSAT(株)
代表取締役執行役員社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原
代表取締役会長 | 古江訓雄
- ・鈴木誠一郎
- ・(株)スターファイ
代表取締役 | 加藤智也
- ・住友商事(株)
代表取締役社長執行役員CEO
上野真吾
- ・住友電気工業(株)
社長 | 井上治
- ・セイコーグループ(株)
代表取締役会長兼グループCEO
兼グループCCO | 服部真二
- ・聖徳大学
理事長・学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)
代表取締役社長 | 小川周一郎
- ・清和綜合建物(株)
代表取締役社長 | 大串桂一郎
- ・関ynd商事(株)
代表取締役会長 | 関正夫
- ・(株)セノン
代表取締役社長 | 澤本泉

- ・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長グループCEO | 岩上敦宏
- ・損害保険ジャパン(株)
取締役社長 | 石川耕治
- ・第一三共(株)
代表取締役会長 | 眞鍋 淳
- ・第一生命保険(株)
代表取締役社長 | 隅野俊亮
- ・大成建設(株)
代表取締役社長 | 相川善郎
- ・大日コーポレーション(株)
代表取締役社長兼グループCEO
鈴木忠明
- ・高砂熱学工業(株)
代表取締役社長 | 小島和人
- ・(株)ダク
代表取締役 | 福田浩二
- ・(株)竹中工務店
取締役執行役員社長 | 丁野成人
- ・(株)竹中土木
取締役社長 | 竹中祥悟
- ・田中貴金属工業(株)
代表取締役社長執行役員
田中浩一朗
- ・田原昇
- ・(株)ダブルスタンダード
代表取締役 | 清水康裕
- ・チャンネル銀河(株)
代表取締役社長 | 前田鎮男
- ・中央日本土地建物グループ(株)
代表取締役社長 | 三宅 潔
- ・中外製薬(株)
代表取締役社長 | 奥田 修
- ・(株)電通
代表取締役 社長執行役員 | 松本千里
- ・(株)テンポブリモ
代表取締役 | 中村聡武
- ・東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)
代表取締役会長 | 石田建昭
- ・東海旅客鉄道(株)
代表取締役社長 | 丹羽俊介
- ・東急(株)
取締役社長 社長執行役員 | 堀江正博
- ・(株)東急コミュニティー
代表取締役社長 | 速川智行
- ・(株)東急文化村
代表取締役 | 嶋田 創

- ・東信地所(株)
代表取締役 | 堀川利通
- ・東武鉄道(株)
取締役社長 | 都筑 豊
- ・桐朋学園大学
学長 | 辰巳明子
- ・(株)東北新社
代表取締役社長 | 小坂恵一
- ・東北電力(株)
代表取締役社長 | 石山一弘
- ・(有)外川ビル
代表取締役 | 外川信晃
- ・鳥取末広座(株)
代表取締役 | 西川八重子
- ・(一財)TOPPAN三幸会
代表理事 | 金子真吾
- ・トヨタ自動車(株)
執行役員社長 CEO | 近 健太
- ・内外施設工業グループホールディングス(株)
代表取締役社長 | 林 克昌
- ・中銀グループ
代表 | 渡辺蔵人
- ・中山武之
- ・日鉄興和不動産(株)
代表取締役社長 | 三輪正浩
- ・日東紡績(株)
取締役会長 | 辻 裕一
- ・(株)日本アーティスト
代表取締役 | 幡野菜穂子
- ・(株)日本ヴァイオリン
代表取締役 | 中澤創太
- ・(株)日本カस्टディ銀行
代表取締役社長 | 土屋正裕
- ・(株)日本国際放送
代表取締役社長 | 前田浩志
- ・(株)日本政策投資銀行
代表取締役会長 | 太田 充
- ・日本たばこ産業(株)
代表取締役社長 | 筒井岳彦
- ・日本運通(株)
代表取締役社長 | 竹添進二郎
- ・日本通信(株)
代表取締役社長兼CEO
福田尚久
- ・日本電気(株)
取締役 代表執行役社長兼CEO
森田隆之

- ・日本BCP(株)
代表取締役社長 | 角谷育則
- ・(一財)日本放送協会共済会
理事長 | 竹添賢一
- ・日本みらいホールディングス(株)
代表取締役社長 | 安嶋 明
- ・日本郵政(株)
取締役兼代表執行役社長 | 根岸一行
- ・(株)ニトリホールディングス
代表取締役会長兼CEO | 似鳥昭雄
- ・(株)ニフコ
代表取締役社長 | 柴尾雅春
- ・野田浩一
- ・野村ホールディングス(株)
代表執行役社長 | 奥田健太郎
- ・パナソニック ホールディングス(株)
代表取締役 社長執行役員 グループCEO
楠見雄規
- ・原田清朗
- ・(株)原田武夫国際戦略情報研究所
代表取締役 | 原田武夫
- ・(有)パルフェ
代表取締役 | 伊藤良彦
- ・びあ(株)
代表取締役社長 | 矢内 廣
- ・(株)フォトロン
代表取締役 | 瀧水 隆
- ・福島小松フォークリフト(株)
代表取締役 | 四家英彦
- ・福田三千男
- ・富士通(株)
代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・古川宣一
- ・ペプチドリーム(株)
代表取締役社長CEO | リード・パトリック
- ・(株)朋栄ホールディングス
代表取締役 | 清原克明
- ・(株)放送衛星システム
代表取締役社長 | 角 英夫
- ・(公)放送文化基金
理事長 | 濱田純一
- ・ホクト(株)
代表取締役 | 水野雅義
- ・ポラリス・キャピタル・グループ(株)
代表取締役社長 | 木村雄治
- ・前田工織(株)
代表取締役社長 | 前田尚宏

- ・牧 寛之
 - ・町田優子
 - ・松本満里子
 - ・丸紅(株)
代表取締役社長 | 大本晶之
 - ・溝江建設(株)
代表取締役 | 溝江 弘
 - ・三井住友海上火災保険(株)
代表取締役 | 海山 裕
 - ・(株)三井住友銀行
頭取 | 福留朗裕
 - ・三井住友信託銀行(株)
取締役社長 | 米山学朋
 - ・三井住友トラストクラブ(株)
代表取締役社長 | 山口信明
 - ・三菱商事(株)
代表取締役社長 | 中西勝也
 - ・三橋産業(株)
代表取締役会長 | 三橋洋之
 - ・三橋洋之
 - ・三原穂積
 - ・(株)ミロク情報サービス
代表取締役社長 | 是枝周樹
 - ・(学)武蔵野音楽学園 武蔵野音楽大学
理事長 | 福井直昭
 - ・明治ホールディングス(株)
代表取締役社長 CEO | 松田克也
 - ・(株)明電舎
代表取締役 執行役員社長 | 井上晃夫
 - ・メットライフ生命保険(株)
代表執行役 会長 社長 最高経営責任者
ディルク・オステイン
 - ・(株)目の眼
社主 | 櫻井 恵
 - ・(株)森エンジニアリング
代表取締役 | 森 豊洋
 - ・森ビル(株)
代表取締役社長 | 辻 慎吾
 - ・森平舞台機構(株)
代表取締役 | 森 健輔
 - ・山田産業(株)
代表取締役 | 山田裕幸
 - ・(株)ヤマハミュージックジャパン
代表取締役社長 | 松岡祐治
 - ・ユニオンツール(株)
代表取締役会長 | 片山貴雄
 - ・米澤文彦
 - ・(株)読売広告社
代表取締役社長 | 菊地英之
 - ・(株)読売旅行
代表取締役社長 | 岩上秀憲
 - ・リコージャパン(株)
代表取締役 社長執行役員 CEO | 笠井徹
 - ・料亭 三長
代表 | 高橋千善
 - ・(株)リンレイ
代表取締役社長 | 鈴木信也
 - ・(有)ルナ・エンタープライズ
代表取締役 | 白鳥正美
 - ・ローム(株)
代表取締役社長 社長執行役員 | 東克己
 - ・(株)ワールド航空サービス
代表取締役社長 | 菊間陽介
 - ・YKアクロス(株)
代表取締役社長 | 堀内博人
- (五十音順、敬称略)

NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいております。当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：「フィルハーモニー」、「年間パンフレット」、「『第9』演奏会プログラム」等にご芳名を記載させていただきます。
N響主催公演のご鑑賞や会場リハーサル見学の機会を設けます。

遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL：03-5793-8120

「N響100年」特別賛助会員

株式会社アイシン

株式会社あ佳音

朝日信用金庫

イーソリューションズ株式会社

岩谷産業株式会社

内 聖美

株式会社NHK テクノロジーズ

NGK株式会社

NTT東日本株式会社

カルチュア・エンタテインメント グループ株式会社

医療法人社団 恒仁会

小林 弘侑

佐藤 弘康

株式会社ジェイ・ウィル・コーポレーション

JCOM株式会社

信越化学工業株式会社

新菱冷熱工業株式会社

株式会社菅原

セイコーグループ株式会社

株式会社セノン

全日本空輸株式会社

東信地所株式会社

桐朋学園大学

一般財団法人 TOPPAN 三幸会

日東紡績株式会社

日本通信株式会社

日本みらいホールディングス株式会社

東日本旅客鉄道株式会社

古川 宣一

株式会社朋栄ホールディングス

ホクト株式会社

株式会社みずほ銀行

三菱地所株式会社

三橋産業株式会社

三橋 洋之

株式会社目の眼

米澤 文彦

株式会社読売旅行

料亭 三長

株式会社リンレイ

有限会社ルナ・エンタープライズ

YCC株式会社

(五十音順、敬称略)

「N響100年」個人サポーター

青木 恒雄
東 則仁
阿部 直子
阿部 直子
飯田 陽介
井口 一世
池田 太朗
石井 育子
石崎 隆
磯上 樹
板倉 由美子
市橋 敏行
出石 直
稲吉 務
今泉 美輪
歌川 博之
内山 その
内山 貴史
榎本 悠介
大川 啓太
大木 千秋
大谷 淳
大谷 明
大矢 菜穂子
岡井 良祐
岡本 誠
小川 芳幸
尾澤 勉
尾島 大樹

影井 良貴
加藤 充子
門脇 昌子
鎌谷 朝之
神谷 久寛
唐木田 信也
刈谷 敦子
川北 晃彦
川崎 昭久
川名 庸一
川鍋 義章
川原 真理子
川村 哲也
簡 妙芬
冠 和宏
岸 道郎
北見 欣一
亀徳 忠正
貴布根 弘篤
木村 達央
木村 素子
清谷 直樹
蔵並 慧
黒木 憲太郎
黒田 真二
河野 太
古賀 信行
湖口 和幸
小島 美智恵

児矢野 昌敬
小山 豊
今野 恵一郎
坂井 康柄
阪本 信次
櫻澤 仁
佐宗 孝樹
佐藤 圭子
佐藤 治彦
三戸 淳一
柴田 理佳子
白取 洋
新保 和浩
鈴木 忠明
鈴木 宏治
曾我 健
大門 匡
高木 功介
高田 康裕
高橋 正好
高原 俊二
田島 大輔
立石 知宏
田中 治郎
田中 伸幸
田中 正彦
張 嘉淵
津久井 秀郎
津々木 孝

恒川 雄三
時岡 明弘
轟 晴美
富永 純子
富永 龍太郎
長尾 公彦
中川 幸子
中村 秀哉
中村 幸雄
根本 昌代
根本 佳則
野島 浩司
野田 広
野武 一郎
野中 明人
配島 一善
林 尚美
原田 清朗
疋田 和代
檜山 隆
福井 真哉
福本 出
藤沼 竜也
藤森 博昭
船井 勝仁
古川 澄兄
真木 太郎
牧 廣美
町田 優子

松澤 和男
松信 正志
三井田 健
水上 慶太
三橋 祐太
三村 啓
宮崎 宏史
村井 暁子
村井 正浩
村上 純子
本 敬之
森山 雅一郎
柳原 隆司
藪下 真平
山口 剛史
山崎 雅彦
山下 史雄
山本 英一
横尾 順
四元 俊英
渡邊 貴子
渡邊 健
渡辺 徹郎

(五十音順、敬称略)

曲目解説執筆者

浅井佑太(あさい ゆうた)

京都大学人文科学研究所准教授。ケルン大学哲学部博士(Dr. phil.)。専門は19世紀から20世紀のドイツ語圏の音楽、音楽文献学。著書に『Anton Webern: Komponieren als Problemstellung (アントン・ウェーベルン:問題設定としての作曲行為)』『シェーンベルク』(作曲家・人と作品シリーズ)。

片山杜秀(かたやま もりひで)

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。水戸芸術館館長。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』『見果てぬ日本』『尊皇攘夷』『大衆必易』ほか著書多数。

千葉潤(ちば じゅん)

札幌大谷大学学長。2003年、モスクワ音楽院大学院から芸術学カンディダート(Ph. D)を授与される。専門はロシア音楽。著書に『ショスタコーヴィチ』(作曲家・人と作品シリーズ)、『アリフレド・シュニトケの交響的創作——間テキスト分析の試み』、共編著書に『ロシア音楽事典』、おもな論文に「エディソン・デニーソフ《死は永き眠り》における変奏技法の諸特徴」など。

(五十音順、敬称略)

N響の出演番組

定期公演や特別公演の様子が放送されるほか、大河ドラマのテーマ音楽や「名曲アルバム」の演奏なども行っています。NHKの番組を通じてN響の演奏をお楽しみください。

クラシック音楽館(N響定期公演ほか)

Eテレ 日曜9:00~11:00pm

ベストオブクラシック

FM 7:35~9:15pm

N響演奏会

FM 土曜4:00~5:50pm(不定期)

クラシックTV(クラシック全般の話題を取り上げます)

Eテレ 木曜9:00~9:30pm
月曜2:00~2:30pm(再放送)

これらの番組は放送終了後も「NHK ONE」(「NHKプラス」「らじる★らじる」)で1週間何度でもご視聴いただけます。出演番組について、詳しくはNHKやN響のホームページをご覧ください。

みなさまの声をお聞かせください！

インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。
ご協力をお願いいたします。

アクセス方法

STEP

1



スマートフォンで右の
QRコードを読み取る。
またはURLを入力
[https://www.nhkso.or.jp/
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)



STEP

2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP

3



アンケートに答えて(約5分)、
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。

定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi

Music Director Emeritus: Charles Dutoit

Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt

Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy

Honorary Conductor: Paavo Järvi

Permanent Conductors: Tadaaki Otaka, Tatsuya Shimono

First Concertmaster: Sunao Goko, Kota Nagahara

Guest Concertmaster: Yosuke Kawasaki

1st Violins

- Shirabe Aoki
Ayumu Iizuka
○ Kyoko Une
Yuki Oshika
○ Ryota Kuratomi
Ko Goto
Tamaki Kobayashi
Toshihiro Takai
Taiga Tojo
Yuki Naoi
Yumiko Nakamura
Takao Furihata
Hiroyuki Matsuda
○ Haruhiko Mimata
Nana Miyagawa
○ Tsutomu Yamagishi
○ Koichi Yokomizo

2nd Violins

- ◎ Rintaro Omiya
◎ Masahiro Morita
Maiko Saito
○ Keiko Shimada
Reika Shimizu
○ Atsushi Shirai
○ Akiko Tanaka
Kirara Tsuboi
Yosuke Niwa
Kazuhiko Hirano
Yoko Funaki
Kenji Matano
Ryuto Muroa
Masaya Yazu
Yoshikazu Yamada
○ Masamichi Yokoshima
Yuka Yoneda

* Yui Yuhara

Violas

- ◎ Ryo Sasaki
◎ Junichiro Murakami
☆ Shotaro Nakamura
Shigetaka Obata
Eri Kuribayashi
□ Gentaro Sakaguchi
Mayumi Taniguchi
Hiroto Tobisawa
○ Hironori Nakamura
Naoyuki Matsui
Rachel Yui Mikuni
Yuya Minorikawa
○ Ryo Muramatsu
* Shiori Wada

Cellos

- ◎ Rei Tsujimoto
◎ Ryoichi Fujimori
Hiroya Ichi
Yukinori Kobatake
○ Miho Naka
○ Ken'ichi Nishiyama
Shunsuke Fujimura
Koichi Fujimori
Hiroshi Miyasaka
Yuki Murai
Yusuke Yabe
○ Shunsuke Yamanouchi
Masako Watanabe

Contrabasses

- ◎ Shu Yoshida
○ Masanori Ichikawa
Eiji Inagawa
○ Jun Okamoto
Takashi Konno
○ Shinji Nishiyama
Tatsuro Honma
Yoko Yanai

Flutes

- ◎ Masayuki Kai
◎ Hiroaki Kanda
Maho Kajikawa
Junji Nakamura

Oboes

- ◎ Shuhei Nakamura
◎ Yumi Yoshimura
Shoko Ikeda
Izumi Tsuboike
Hitoshi Wakui

Clarinets

- ◎ Kei Ito
◎ Kenji Matsumoto
* Hiroki Domen
Takashi Yamane

Bassoons

- ◎ Hironori Ugajin
◎ Kazusa Mizutani
Shusuke Ouchi
Yuki Sato
Itaru Morita

Horns

- ◎ Hitoshi Imai
Naoki Ishiyama
Yasushi Katsumata
Hiroshi Kigawa
Yudai Shoji
Kazuko Nomiyama

◇ Nobuaki Fukukawa

Trumpets

- ◎ Kazuaki Kikumoto
◎ Tomoyuki Hasegawa

Tomoki Ando
Kotaro Fujii
Eiji Yamamoto

Trombones

- ◎ Hikaru Koga
◎ Mikio Nitta
Ko Ikegami
Hiroyuki Kurogane

Tuba

Yukihiro Ikeda

Timpani

- ◎ Shoichi Kubo
☆ Toru Uematsu

Percussion

Tatsuya Ishikawa
Hidemi Kuroda
Satoshi Takeshima

Harp

Risako Hayakawa

Stage Manager

Masaya Tokunaga

Librarians

Akane Oki
Hideyo Kimura

(◎) Principal, (◇) Guest Principal, (☆) Acting Principal, (○) Vice Principal, (□) Acting Vice Principal, (#) Inspector, (*) Intern

PROGRAM

A

Concert No.2064

NHK Hall

May

23(Sat) 6:00pm

24(Sun) 2:00pm

conductor

Michael Sanderling

violin

Christian Tetzlaff

cello

Tanja Tetzlaff

concertmaster

Kota Nagahara

Johannes Brahms Double Concerto for Violin and Cello, A Minor Op. 102 [33']

I Allegro

II Andante

III Vivace non troppo

— intermission (20 minutes) —

Johannes Brahms / Arnold Schönberg Piano Quartet No. 1 G Minor Op. 25 [43']

I Allegro

II Intermezzo: Allegro ma non troppo

III Andante con moto

IV Rondo alla zingarese: Presto

- All performance durations are approximate.

Artist Profiles

Michael Sanderling, conductor



© Marco Borggreve

Michael Sanderling has been Chief Conductor of the Lucerne Symphony Orchestra since 2021, leading the orchestra on tours across Asia, South America, and Europe. Since the start of his tenure, several acclaimed recordings have been released, notably a Brahms cycle in 2023 featuring the four symphonies and the piano quartet orchestrated by Arnold Schönberg, which he will conduct with the NHK Symphony Orchestra in this concert.

As guest conductor, Michael Sanderling leads renowned orchestras worldwide, including the Berliner Philharmoniker, the Gewandhausorchester Leipzig, the Royal Concertgebouw Orchestra, the Orchestre de Paris, the NHK Symphony Orchestra, the Hong Kong

Philharmonic Orchestra, the Philharmonia Orchestra in London, the Tonhalle-Orchester Zürich, the Wiener Symphoniker, and the Helsinki Philharmonic Orchestra.

From 2011 to 2019, he was Chief Conductor of the Dresdner Philharmonie, elevating the orchestra's profile through performances in Dresden and international tours. Prior to this, he served as Chief Conductor of the Kammerakademie Potsdam from 2006 to 2011.

His extensive discography includes the complete symphonies of Beethoven and Shostakovich with the Dresdner Philharmonie, as well as major works by Dvořák, Schumann, Prokofiev and Tchaikovsky. In 2011, he conducted a new production of Sergei Prokofiev's *War and Peace* at the Oper Köln, earning him the title of "Conductor of the Year" from *Opernwelt* magazine.

Michael Sanderling is deeply committed to nurturing young musical talent. He teaches at the Frankfurt University of Music and Performing Arts and also works regularly with the Schleswig-Holstein Festival Orchestra.

His previous appearance with the NHK Symphony Orchestra was in April 2015 when he conducted a program that included Bruckner's Fourth Symphony.

Christian Tetzlaff, violin



Violinist Christian Tetzlaff is highly acclaimed for his expressive, insightful and personal interpretations. His individual approach to the score, always searching for the emotional and structural depth of the composition, has built a loyal following over time who often describe his performance as an existential experience.

He has appeared with major orchestras of the highest calibre such as Berliner and Wiener Philharmonikers, New York Philharmonic, the Boston and Chicago Symphony Orchestras, the Royal Concertgebouw Orchestra, London Symphony Orchestra and many others, collaborating with many of today's leading conductors. He performs an extensive repertoire ranging from Bach's solo sonatas and partitas to contemporary works by György Ligeti, Jörg Widmann and Thomas Adès. In 2023 he took over the artistic direction of the Spannungen Festival in Heimbach, Germany.

In the 2025–26 season, Christian Tetzlaff features as Artist-in-Residence of the Rundfunk-Sinfonieorchester Berlin and performs concertos by Berg, Suk and Dvořák as well as chamber music with Vladimir Jurowski. Further highlights include duo recitals with Leif Ove Andsnes, solo violin recitals in Berlin, Oslo and London, and concerts with the BBC Symphony Orchestra, Deutsche Kammerphilharmonie Bremen, Wiener Symphoniker, and the Helsinki Philharmonic Orchestra.

Since his debut with the NHK Symphony Orchestra in 1993, he has collaborated regularly both in Tokyo and on tour.

Tanja Tetzlaff, cello



Tanja Tetzlaff is recognized as one of the most influential cellists of her generation, both as a soloist and chamber musician. Her playing is distinguished by a uniquely refined, powerful and nuanced tone, always shaped by cultivated musicality. She is committed to going beyond traditional concert formats, integrating other art forms and engaging with social and ecological issues. In recognition of both her

artistic work and her strong advocacy for climate protection, she was awarded the Duisburg Music Prize in 2024.

Over the course of her international career, she has appeared with leading orchestras across Europe, Asia and North America, and works with conductors such as Alan Gilbert, Daniel Harding, Philippe Herreweghe, Karina Canellakis, Heinz Holliger, Paavo Järvi, Roger Norrington and Robin Ticciati.

Chamber music is a hallmark of her artistic life. A founding member of the Tetzlaff Quartet, she has performed with the ensemble worldwide since 1994. She also appears internationally in duo and trio formations with Florian Donderer. In addition, she is a member of the acclaimed Tetzlaff Trio with her brother Christian Tetzlaff and pianist Kiveli Dörken, who succeeded the late founding member Lars Vogt.

She previously appeared with the NHK Symphony Orchestra in 2017, performing Schumann's cello concerto under Paavo Järvi.

Program Notes

Johannes Brahms (1833–1897)

Double Concerto for Violin and Cello, A Minor Op. 102

German composer Johannes Brahms was born in Hamburg in 1833 and brought up in a working-class background. He was given lessons on the piano, cello, and horn as a young boy and later studied piano and composition with Eduard Marxsen, who instilled in him a love of Bach and the Viennese Classical composers. After leaving school, he earned his living as a pianist and conducting amateur choirs to help his family, while aspiring to be a composer. The first turning point came in 1853 when he met Robert Schumann (1810–1856) and Clara Schumann (1819–1896) in Düsseldorf and played to them his piano sonata, which Robert praised enthusiastically. His international reputation came with the success of his *Ein deutsches Requiem* (*A German Requiem*) in Bremen in 1868. In 1872, he became the director of concerts of the Gesellschaft der Musikfreunde and settled permanently in Vienna. From then on, he could concentrate more on composition, although he continued to tour as pianist and conductor, performing not only his own compositions but a wide range of works consisting of contemporary as well as earlier repertoire. His compositions include 4 symphonies, 4 concertos, piano works, chamber music for various forces, choral works, and songs.

His Double Concerto for Violin and Cello, Op. 102, was composed in the summer of 1887 at Lake Thun, a picturesque holiday resort in Switzerland. Written two years after his Symphony No. 4 (1885), it was to become his last work for orchestra. The impetus for composing this Double Concerto seems to have come from the cellist Robert Hausmann, who had asked Brahms for a cello concerto. But instead, the composer came up with a concerto for two soloists, which had precedents in the 18th century, but quite unusual for the time. The violin part of the Double Concerto was intended for the renowned Austro-Hungarian violinist, Joseph Joachim, for whom Brahms had composed his Violin Concerto in 1878. Although Brahms had fallen out with Joachim for some years, this concerto resulted in a reconciliation.

The concerto was premiered in Cologne in October 1887 with Joachim and Hausmann as soloists and the composer conducting. At first, his friends, including Clara Schumann, were somewhat skeptical about the work, but despite the initial cool reception, it went on to be highly regarded by musicians and audiences alike.

The main theme of the Allegro first movement is introduced by the orchestra but is interrupted by an extended cello solo followed a cadenza by the two soloists, before the main theme returns in the orchestra. The cello then introduces the gentle second theme. The lyrical second movement (Andante) opens with the two instruments presenting the rapturous melody in D major in octave unison. The rondo finale (Vivace non troppo) pays tribute to Joachim's Hungarian roots with its lively gypsy-style theme.

Johannes Brahms (1833–1897) / Arnold Schönberg (1874–1951)

Piano Quartet No. 1 G Minor Op. 25

Arnold Schönberg, known as the composer who revolutionized 20th century music with his 12-tone technique (serialism), was a great admirer of Johannes Brahms. In his essay *Brahms the Progressive*, Schönberg said that Brahms “was a great innovator in the realm of musical language...in fact, he was a great progressive.” Schönberg particularly admired Brahms's technique of the “developing variation” and utilized this in his own works. A work he was fond of was Brahms's Piano Quartet No.1 in G minor, which Schönberg orchestrated in 1937 for the Los Angeles Philharmonic.

Brahms had composed the work, the first of three piano quartets, in 1861 when he was in his late twenties. Around this time, he produced several chamber music works including his string sextets, piano quintet, and the first cello sonata. He was quite proud of the quartet and the following year he chose it in the program of his first concert in Vienna as pianist and composer. The quartet is in four movements. The Allegro first movement opens with a four-note motive, which becomes the basis of the whole movement and undergoes numerous transformations. The second movement, titled *Intermezzo*, is a scherzo in all but name. The restless Allegro ma non troppo sections frame the trio (Animato). The third movement is a ravishing lyrical slow movement that Brahms excelled in. The finale is a *Rondo alla zingarese* (gypsy-style rondo), which we also heard earlier in the Double Concerto, but this finale is more youthful and exuberant.

Schönberg arranged this quartet for a huge orchestra that features abundant percussion,

used to great effect in the gypsy-style finale. He explained that one of the reasons he orchestrated the work was that often the piano part is played too loudly and one can't hear the strings. "I wanted for once to hear everything and this I achieved."

If you enjoy this orchestral performance and you are not familiar with the original piano quartet, it is well worth seeking out and comparing the two versions.

A

23 & 24, MAY, 2026

Nahoko Gotoh

As classical music critic, Nahoko Gotoh writes regularly for *Bachtrack*, *Ongaku no tomo*, and *Mostly Classic*. She studied musicology in Tokyo and London, and currently teaches part time at the Toho Gakuen School of Music in Tokyo.

PROGRAM

B

Concert No.2063

Suntory Hall

May

14(Thu) 7:00pm

15(Fri) 7:00pm

conductor Kazuki Yamada

violin Suyoen Kim*

concertmaster Sunao Goko

NHKSO 100th Anniversary: Japanese Composers Series

Kazuo Yamada

Also sang ein Jüngling, small symphonic poem (Thus Sang a Young Man) [11']

Score courtesy of the Nipponica Archive Collection, Tokyo College of Music Library

Karl Amadeus Hartmann

*Concerto funebre (Funereal Concerto)** [20']

I Introdution: Largo

II Adagio

III Allegro di molto

IV Choral: Langsamer Marsch (Slow March)

— intermission (20 minutes) —

Isotaro Sugata

Symphonic Overture Op. 6 [16']

Paul Hindemith

Mathis der Maler, symphony (Matthias the Painter) [28']

I Engelskonzert (Angelic Concert)

II Die Grablegung (Entombment)

III Versuchung des heiligen Antonius (Temptation of St. Anthony)

- All performance durations are approximate.

Artist Profiles

Kazuki Yamada, conductor



Kazuki Yamada is the Music Director of the City of Birmingham Symphony Orchestra. Alongside his commitments in Birmingham, he is also Artistic and Music Director of Orchestre Philharmonique de Monte-Carlo and will become Chief Conductor and Artistic Director of the Deutsches Symphonie-Orchester Berlin from the 2026–27 season. In Japan, he holds further titles of Artistic Director (Music) of Tokyo Metropolitan

Theatre and Music Director of Yokohama Sinfonietta and the Philharmonic Chorus of Tokyo.

Yamada's passionate and collaborative approach to conducting means he commands a busy international diary of concerts, opera, and choral conducting. In recent years, he made debut appearances with the Berliner Philharmoniker, Filarmonica della Scala, Swedish Radio Symphony Orchestra, The Cleveland Orchestra, New York Philharmonic, and San Francisco Symphony. He continues regular guesting commitments with Orchestra dell'Accademia Nazionale di Santa Cecilia, Orchestre National du Capitole de Toulouse, Orchestre National de France, and Orchestre Philharmonique du Luxembourg.

Yamada performs with distinguished soloists such as Emanuel Ax, Leif Ove Andsnes, Seong-Jin Cho, Isabelle Faust, Martin Helmchen, Nobuko Imai, Lucas and Arthur Jussen, Alexandre Kantorow, Evgeny Kissin, Yunchan Lim, Bruce Liu, Krystian Zimerman, and Frank Peter Zimmermann.

Strongly committed to his role as an educator, Yamada appears annually as a guest artist at the Seiji Ozawa International Academy Switzerland and is keenly involved in the CBSO's outreach programme. Yamada studied music at Tokyo University of the Arts, and he first achieved international attention upon receiving first prize in the 51st International Besançon Competition for Young Conductors in 2009.

For more than a decade, Yamada has collaborated regularly with the NHK Symphony Orchestra, conducting a wide range of works with particular emphasis on French repertoire and music by Japanese composers of the twentieth century.

B

14 & 15 MAY 2026

Suyoen Kim, violin



Prizewinner at the Queen Elisabeth International Music Competition in Brussels and the International Joseph Joachim Violin Competition in Hannover, violinist Suyoen Kim has appeared as a soloist with renowned orchestras such as the Deutsche Kammerphilharmonie Bremen, Norrlandsoperan Symphony Orchestra, Hermitage Theatre Orchestra St. Petersburg, Copenhagen Philharmonic, Münchner Symphoniker, Bayerische Kammerphilharmonie, Orchestre Philharmonique de Strasbourg, and Seoul Symphony Orchestra. She has performed with internationally acclaimed conductors such as Kurt Masur, Eliahu Inbal, Myung-Whun Chung, Jan Latham-Koenig, Peter Ruzicka and Walter Weller. Her recording of Karl Amadeus Hartmann's *Concerto funebre* with the Bayerische Kammerphilharmonie was recommended by BBC Radio 3 as the best available recording of this concerto.

Suyoen Kim is first concertmaster of the Konzerthausorchester Berlin since January 2018 and was previously a member of the Artemis Quartet.

Born in Münster, Germany in 1987, she received her first violin lessons when she was five years old. At the age of nine, she enrolled at the Musikhochschule Münster, studying with Professor Helge Slaatto. After receiving her degree, she continued her studies with Professor Ana Chumachenco, graduating from the Hochschule für Musik und Theater München with a Masters in 2010, and from the Kronberg Academy in 2012.

This is her first appearance with the NHK Symphony Orchestra.

Kazuo Yamada (1912–1991)

Also sang ein Jüngling, small symphonic poem (Thus Sang a Young Man)

All the works performed tonight were composed during a brief period in the 1930s, on the eve of the Second World War. None of the composers were directly involved in the fighting, but inevitably their lives were impacted by the turmoil of the war.

Nowadays, Kazuo Yamada is generally remembered as a conductor who played an active role in the postwar orchestral scene in Japan, but in fact he started out as a composer. He studied the piano at the Tokyo Music School (now the Tokyo University of the Arts) and later composition with Klaus Pringsheim, who was a pupil of Mahler. Yamada won several prizes for his compositions including first prize in an NHK competition with his *Prelude on Japanese Popular Songs* for orchestra in 1937. He made his conducting debut in 1940, becoming assistant conductor of the New Symphony Orchestra (now the NHK Symphony Orchestra) in 1941 and Chief Conductor in 1942, a post he held until 1951.

Also sang ein Jüngling – the title is reminiscent of Mahler’s song cycle – won a prize at the 2nd Competition of Japanese Composers held by the New Symphony Orchestra and was premiered in February 1938 by its Chief Conductor Joseph Rosenstock along with four other works. It received two further performances by the orchestra in 1942, which Yamada conducted himself.

The work, which the composer called a small symphonic poem for large orchestra, is formed of two main sections and features flair and energy of the ambitious 25-year-old. According to his autobiography, “the piece weaves together the light and shadow of youth, distilling the very essence of my youthful, wild, and surging blood, passion, and message.”

Karl Amadeus Hartmann (1905–1963)

Concerto funebre (Funereal Concerto)

German composer Karl Amadeus Hartmann studied in Munich with Joseph Haas and Hermann Scherchen. A dedicated anti-fascist, Hartmann withdrew completely from German musical life during the Nazi years and refused to allow his music to be played in Germany, although they were performed abroad.

After the war, his reputation was restored and he was appointed dramaturg of the Bayerische Staatsoper. He also founded “Musica Viva,” a concert series for new music in Munich which was launched in October 1945 and continues to this day. His compositions include 8 symphonies, several works for solo instrument and orchestra/ensemble, 2 string quartets, opera *Simplicius Simplicissimus*, and several cantatas.

His *Concerto funebre* for violin and string orchestra was composed in 1939 and revised in 1959. Originally entitled *Musik der Trauer (Music of Mourning)*, it was written out of anger and despair at Hitler’s annexation of Czechoslovakia, which is why the well-known

Hussite hymn *You who are God's Warriors* is quoted by the solo violin at the beginning. The four movements, performed without a break, consist of the sombre Introduction (Largo), the plaintive Adagio, the turbulent Allegro di molto (which includes a short cadenza for the violin), and the Choral (Slow March). The final movement incorporates the Russian song *Immortal victims* (quoted by Shostakovich in his Symphony No. 11) in the tutti, over which the violin soars upward. First performed in 1940 in St. Gallen in Switzerland, the work remains powerfully relevant today.

Isotaro Sugata (1907–1952)

Symphonic Overture Op. 6

A contemporary of Kazuo Yamada, Yokohama-born Isotaro Sugata was regarded as a promising composer in the 1930–40s; indeed, one of Sugata's compositions won a prize at the same competition as Yamada's *Also sang ein Jüngling*. He studied composition privately with Kosaku Yamada and Kiyoshi Nobutoki, and subsequently with Pringsheim. He composed many orchestral works in the 1940s, despite suffering from tuberculosis, but after the war his reputation faded, and following his death at the age of 44, he was soon forgotten. His music finally came to light in the early 2000s.

His *Symphonic Overture*, composed in 1939, won a prize at the competition celebrating the 2600th year of the Japanese Empire held by the NHK in 1940 and was broadcast on radio in February that year (performed by the predecessor of the NHKSO). The work strongly reflects his studies with Pringsheim and clearly takes the first movement of Hindemith's *Mathis der Maler* Symphony as the model. It is formed of two sections, the introductory Andante Maestoso and the fugal Allegro energico, and concludes with a triumphant coda. His handling of the orchestral texture is clear and effective throughout.

The Kanagawa Philharmonic Orchestra gave the work's revival in 2002.

Paul Hindemith (1895–1963)

Mathis der Maler, symphony (Matthias the Painter)

The eldest among today's four composers, Paul Hindemith was one of the foremost German composers of the generation. Not only was he a versatile and prolific composer – he wrote 423 works – but he was an accomplished player on several instruments, including violin, viola, and clarinet. Early in his career, he was a violinist at the Frankfurt Opera Orchestra and played in string quartets. He also had interests in early music and was involved in the revival of instruments such as the viola d'amore and cornett. His compositional output includes 11 operas, many concertos, music for chamber ensemble, string quartets, sonatas for almost every orchestral instrument, and vocal works. His musical style changed over the years, but his mature music is characterized as neoclassical, combining expanded tonal harmony with contrapuntal texture. During World War II, he took an anti-Nazi stance, which led to his music being labeled as “degenerate” and banned. He escaped initially to Switzerland, and later to the U.S.A.

B

14 & 15 MAY 2026

Mathis der Maler Symphony was composed in parallel with his opera of the same title about the German painter Mathias Grünewald (also known as Mathis Gothard Nithart, c.1475–1528) who is best known for his *Isenheim Altarpiece*, now housed in Colmar. The opera explores Grünewald's struggle to find his place as an artist during times of political and social upheaval. The symphony, completed before the opera, was premiered in March 1934 by the Berliner Philharmoniker conducted by Wilhelm Furtwängler, who had commissioned the work.

The symphony consists of three movements, each inspired by one of the panels from the *Isenheim Altarpiece*. The first two movements, **I *Engelskonzert* (*Angelic Concert*)** and **II *Die Grablegung* (*Entombment*)**, are extracted from the instrumental sections of the opera. The last movement, **III *Versuchung des heiligen Antonius* (*Temptation of St. Anthony*)**, is a reworking of materials from Scene 6 of the opera in which Mathis is confronted by powerful visions.

B

14 & 15, MAY, 2026

Nahoko Gotoh

For a profile of Nahoko Gotoh, see p. 65

PROGRAM

C

Concert No.2065

NHK Hall

May

29 (Fri) 7:00pm

30 (Sat) 2:00pm

conductor

Andris Poga

concertmaster

Julien Szulman♦

♦ **Julien Szulman:** Julien Szulman began playing the violin at the age of 5. In 2006, he obtained his DFS from the Conservatoire National Supérieur de Musique et de Danse de Paris (CNSMDP), with unanimous acclaim, and continued his studies with Jean-Jacques Kantorow and Pierre-Laurent Aimard in the advanced cycle at the CNSMDP. After a Konzerexamen at the Hochschule für Musik Hanns Eisler Berlin in Stephan Picard's class, he obtained his doctorate in "Research and Practice" from the CNSMDP-Sorbonne Université in 2024. As concertmaster, he has played with numerous international orchestras, including the London Symphony Orchestra, the Mito Chamber Orchestra, the Orchestre de la Suisse Romande and the Orchestre de Paris. He is currently a violin professor at the CNSMDP.

Pēteris Vasks

Chant of Gratefulness (2026)

[Co-commission Work for NHK

Symphony Orchestra, Latvian National

Symphony Orchestra, Münchener

Kammerorchester and Australian

Chamber Orchestra / Japan Premiere]

[20']

— intermission (20 minutes) —

Dmitry Shostakovich

Symphony No. 4 C Minor Op. 43

[60']

I Allegretto poco moderato—Presto

II Moderato con moto

III Largo—Allegro

- All performance durations are approximate.

Artist Profile

Andris Poga, conductor



Andris Poga is currently Chief Conductor of the Stavanger Symphony Orchestra in Norway. He was the Music Director of the Latvian National Symphony Orchestra from 2013 till 2021 and continues to collaborate with the LNSO as its Artistic Advisor.

Highlights of recent years have included concerts with the leading orchestras of Germany, France, Italy, Japan and Scandinavia. After the first successful collaborations he has become a regular guest at the NDR Elbphilharmonie Orchester, WDR Sinfonieorchester, Deutsches Symphonie-Orchester Berlin, NHK Symphony Orchestra

and many others. He has also conducted the Tonhalle-Orchester Zürich, Gewandhausorchester Leipzig, dell' Accademia Nazionale di Santa Cecilia, Royal Philharmonic Orchestra, Hong Kong Philharmonic Orchestra, Sydney Symphony Orchestra, and Dallas Symphony Orchestra.

This season he returns to the WDR Sinfonieorchester, NDR Elbphilharmonie Orchester, NHK Symphony Orchestra, Royal Liverpool Philharmonic Orchestra, Bergen Philharmonic Orchestra, and Mozarteumorchester Salzburg amongst others, and makes his debuts with the Rotterdam Philharmonic Orchestra, Belgian National Orchestra, and the Prague Radio Symphony Orchestra. A passionate champion of the music of his homeland, he will conduct the world premiere of Pēteris Vasks' *Chant of Gratefulness* in Latvia, which he then brings to Tokyo.

Following his studies in Riga and in Vienna, Andris Poga first burst on the international scene in 2010 when he took First Prize at the Evgeny Svetlanov International Conducting Competition, Montpellier. He went on to become an assistant to Paavo Järvi at the Orchestre de Paris and he also served as the assistant conductor for the Boston Symphony Orchestra.

He first collaborated with the NHK Symphony Orchestra in June 2013 and has since returned regularly. Most recently, he led them on a tour of Hokkaido in 2023 with an all-Tchaikovsky program.

Program Notes

Pēteris Vasks (1946–)

***Chant of Gratefulness* (2026) [Co-commission Work for NHK Symphony Orchestra, Latvian National Symphony Orchestra, Münchener Kammerorchester and Australian Chamber Orchestra / Japan Premiere]**

The most important aspect of the music of Pēteris Vasks, who celebrates his 80th birthday this year, is its distinctive spiritual quality. He has said that “for me, music exists only if it has spiritual content” and such sentiment is reflected in his *Chant of Gratefulness* which receives its Japanese premiere today.

Vasks was born in Aizpute in Latvia in 1946, when the country was a part of the Soviet Union. He studied the double bass at the Lithuanian Conservatory in Vilnius, and he played in various symphonic and chamber orchestras in Lithuania and Latvia before studying composition at the Latvian Academy of Music in Riga.

Stylistically, Vasks' compositions incorporate elements of Latvian folk music and contemporary European musical language. His work spans many genres and includes 3 symphonies, various works for solo instrument and orchestra, 6 string quartets, and choral works. In particular, his violin concerto *Distant Light*, premiered in 1997 by his compatriot Gidon Kremer, has seen numerous performances around the world and has received the Latvian Grand Music Award. Other important works include *Musica dolorosa* (1983, *Painful Music*), *The Fruit of Silence* (2014) and the Cello Concerto *Klātbūtne* (2011–2012, *Presence*). *Chant of Gratefulness* is the first work of Vasks to be performed by the NHKSO.

Symphony No. 4 C Minor Op. 43

Born in St. Petersburg in 1906, composer Dmitry Shostakovich's life was deeply shaped by the Soviet regime under Joseph Stalin. His Symphony No. 4, performed today, was one of the works directly affected by the regime's repression.

Having studied piano and composition at the Petrograd Conservatory (now St. Petersburg State Conservatory) from the age of thirteen, Shostakovich showed his musical talent early on. His Symphony No.1, which received its premiere in 1926, was a major public and professional success. In the 1930s, he composed music for the theater and film, including the opera *Lady Macbeth of Mtsensk* (premiered in 1934) which became a hit but also caused controversy. In January 1936, Stalin came to see a performance in Moscow, which displeased him greatly, and the opera was immediately condemned by the authorities as “muddle instead of music.” This came as a huge shock to the composer and was a major setback in his career. It was precisely at this time that he was working on his fourth symphony.

Thereafter Shostakovich was forced to tread a fine line with the authorities, and his compositions shifted to mainly instrumental music where he could keep his thoughts private. He composed a total of 15 symphonies during his lifetime, as well as two concertos each for piano, violin, and cello, 15 string quartets, and some music for piano.

Shostakovich had set out to compose his fourth symphony in September 1935. He had completed the first two movements of the symphony when the condemnation of his opera happened. Still, Shostakovich kept a low profile and continued with his fourth symphony, which he had intended to be the “credo” of his creative work and an important statement in this genre. Having completed it in the spring of 1936, the premiere was scheduled for December 11, 1936; however, the performance didn't take place. An announcement was made in a newspaper that Shostakovich withdrew the symphony because he acknowledged its flaws; but it's more likely that he was coerced into withdrawing it. When it was finally premiered in 1961 by Kirill Kondrashin and the Moscow Philharmonic Orchestra, he did not change a single note.

Symphony No.4 in C minor is an ambitious and monumental symphony, requiring the largest orchestra of any of his symphonies. It is in three movements. The Allegro poco moderato first movement has a huge exposition centering around two contrasting themes, which appear in reverse order in the recapitulation. The second movement, Moderato con moto, is a darkly humorous scherzo, at times reminiscent of Mahler. The finale is framed by a slow funeral march, another reference to Mahler. In between, the Allegro section, which begins energetically, soon veers into a bizarre medley of dances (waltz, polka, gallop). The work ends quietly and enigmatically.

Nahoko Gotoh

For a profile of Nahoko Gotoh, see p. 65



A Message from Pēteris Vasks

On the Occasion of the Japan Premiere of *Chant of Gratefulness*

Pēteris Vasks's new composition *Chant of Gratefulness* (2026), co-commissioned by the NHK Symphony Orchestra and others, will receive its Japan premiere in the Orchestra's Subscription Concerts Program C in May 2026.

We are pleased to present a message from the composer.

Chant of Gratefulness

I conceived and created this opus as a warm, evening-sun-lit, peaceful song for strings. In the middle of the piece the sound gradually intensifies and reaches a powerful climax.

After reaching the peak the initial mood returns.

A muted string chant little by little fades away into starlit silence.

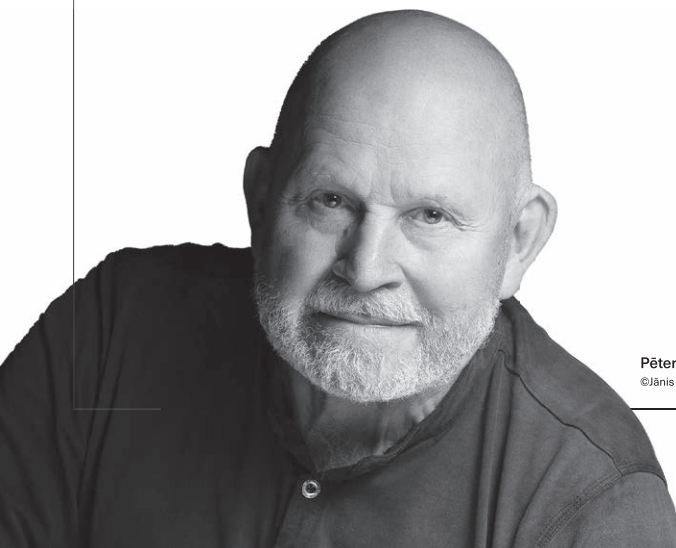
I am grateful to the Creator for the life lived in music in my dearly beloved Latvia.

I am grateful to my friends, brothers and sisters in music.

We are united by the desire to bring more light, hope, and love to the world.

May this quiet chant, created in humility and gratefulness, resonate in your souls.

Pēteris Vasks



Pēteris Vasks, composer
©Jānis Poriētiis

The Subscription Concerts Program 2025–26

A **NHK Hall**
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

B **Suntory Hall**
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)
Fri. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

C **NHK Hall**
Fri. 7:00pm (doors open at 6:00pm)
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2026
05

A Concert No. **2064**
May
23 (Sat) 6:00pm
24 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

Brahms Double Concerto for Violin and Cello, A Minor Op. 102
Brahms / Schönberg Piano Quartet No. 1 G Minor Op. 25

Michael Sanderling, conductor
Christian Tetzlaff, violin
Tanja Tetzlaff, cello

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

B Concert No. **2063**
May
14 (Thu) 7:00pm
15 (Fri) 7:00pm
Suntory Hall

NHKSO 100th Anniversary: Japanese Composers Series

Kazuo Yamada *Also sang ein Jüngling*, small symphonic poem
(*Thus Sang a Young Man*)
Hartmann *Concerto funebre (Funereal Concerto)**
Sugata *Symphonic Overture Op. 6*
Hindemith *Mathis der Maler*, symphony (*Matthias the Painter*)
Kazuki Yamada, conductor Suyoen Kim, violin*

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

C Concert No. **2065**
May
29 (Fri) 7:00pm
30 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

Vasks *Chant of Gratefulness (2026)* [Co-commission Work for NHK Symphony Orchestra, Latvian National Symphony Orchestra, Münchener Kammerorchester and Australian Chamber Orchestra / Japan Premiere]
Shostakovich Symphony No. 4 C Minor Op. 43

Andris Poga, conductor

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

2026
06

A Concert No. **2067**
June
13 (Sat) 6:00pm
14 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

Wagner *Die Meistersinger von Nürnberg—Vorspiel*
(*The Mastersingers of Nuremberg—Prelude*)
Mozart Piano Concerto No. 17 G Major K. 453
Bartók *Concerto for Orchestra*
Jaap van Zweden, conductor
Conrad Tao, piano

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

B Concert No. **2066**
June
4 (Thu) 7:00pm
5 (Fri) 7:00pm
Suntory Hall

Honegger *Pastorale d'été*, symphonic poem (*Summer Pastoral*)
Berlioz *Les nuits d'été*, songs Op. 7 (*Summer Nights*)
Ibert *Escales (Ports of Call)*
Debussy *La mer*, three symphonic sketches (*The Sea*)
Stéphane Denève, conductor
Gaëlle Arquez, mezzo soprano

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

C Concert No. **2068**
June
19 (Fri) 7:00pm
20 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

Sibelius *Andante festivo*
Sibelius Violin Concerto D Minor Op. 47
Rakhmaninov Symphony No. 3 A Minor Op. 44
Tadaaki Otaka, conductor
HIMARI, violin

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

(tax included)

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

The Subscription Concerts Program 2026–27

2026 09	A	<p>Concert No. 2069</p> <p>September 12 (Sat) 6:00pm 13 (Sun) 2:00pm</p> <p>NHK Hall</p>	<p>NHKSO 100th Anniversary</p> <p>Franz Schmidt <i>Das Buch mit sieben Siegeln</i>, oratorio (<i>The Book with Seven Seals</i>)</p> <p>Fabio Luisi, conductor Michael Laurenz, tenor (Johannes) David Steffens, bass (Voice of God) Miho Sakoda, soprano Asami Fujii, mezzo soprano Tatsundo Ito, tenor Hiroataka Kato, bass Eri Niiyama, organ New National Theatre Chorus, chorus</p>	<p>Ordinary Youth</p> <p>S 15,000 S 7,000 A 12,500 A 6,000 B 10,000 B 5,000 C 8,000 C 4,000 D 6,500 D 3,000 E 4,500 E 2,000</p>
	B	<p>Concert No. 2070</p> <p>September 17 (Thu) 7:00pm 18 (Fri) 7:00pm</p> <p>Suntory Hall</p>	<p>NHKSO 100th Anniversary: Beethoven Symphony Cycle 1</p> <p>Weber <i>Oberon</i>, opera – Overture Brahms Violin Concerto D Major Op. 77 Schumann Symphony No. 4 D Minor Op. 120 (Revised Version)</p> <p>Fabio Luisi, conductor Augustin Hadelich, violin</p>	<p>Ordinary Youth</p> <p>S 12,000 S 6,000 A 10,000 A 5,000 B 8,000 B 4,000 C 6,500 C 3,250 D 5,500 D 2,750</p>
	C	<p>Concert No. 2071</p> <p>September 25 (Fri) 7:00pm 26 (Sat) 2:00pm</p> <p>NHK Hall</p>	<p>NHKSO 100th Anniversary: Beethoven Symphony Cycle 1</p> <p>Beethoven Symphony No. 1 C Major Op. 21 Beethoven Symphony No. 3 E-flat Major Op. 55, <i>Eroica</i> (<i>Heroic Symphony</i>)</p> <p>Fabio Luisi, conductor</p>	<p>Ordinary Youth</p> <p>S 12,000 S 6,000 A 10,000 A 5,000 B 8,000 B 3,600 C 6,500 C 3,250 D 5,500 D 1,900 E 3,300 E 1,600</p>
2026 10	A	<p>Concert No. 2072</p> <p>October 17 (Sat) 6:00pm 18 (Sun) 2:00pm</p> <p>NHK Hall</p>	<p>Bruckner Symphony No. 5 B-flat Major</p> <p>Herbert Blomstedt, conductor Matthias Bamert, cover conductor</p>	<p>Ordinary Youth</p> <p>S 15,000 S 7,000 A 12,500 A 6,000 B 10,000 B 5,000 C 8,000 C 4,000 D 6,500 D 3,000 E 4,500 E 2,000</p>
	B	<p>There will be no subscription concerts of Program B in October due to special concerts.</p>		
	C	<p>Concert No. 2073</p> <p>October 23 (Fri) 7:00pm 24 (Sat) 2:00pm</p> <p>NHK Hall</p>	<p>NHKSO 100th Anniversary: Beethoven Symphony Cycle 2</p> <p>Beethoven <i>Egmont</i>, incidental music Op. 84 – Overture Beethoven Symphony No. 8 F Major Op. 93 Beethoven Symphony No. 5 C Minor Op. 67</p> <p>Christoph Eschenbach, conductor</p>	<p>Ordinary Youth</p> <p>S 11,000 S 5,500 A 9,500 A 4,500 B 7,600 B 3,500 C 6,000 C 2,800 D 5,000 D 1,800 E 3,000 E 1,400</p>
2026 11	A	<p>Concert No. 2074</p> <p>November 7 (Sat) 6:00pm 8 (Sun) 2:00pm</p> <p>NHK Hall</p>	<p>Prokofiev Violin Concerto No. 1 D Major Op. 19 Shostakovich Symphony No. 8 C Minor Op. 65</p> <p>Tugan Sokhiev, conductor Mayuko Kamio, violin</p>	<p>Ordinary Youth</p> <p>S 12,000 S 6,000 A 10,000 A 5,000 B 8,000 B 3,600 C 6,500 C 3,250 D 5,500 D 1,900 E 3,300 E 1,600</p>
	B	<p>Concert No. 2076</p> <p>November 19 (Thu) 7:00pm 20 (Fri) 7:00pm</p> <p>Suntory Hall</p>	<p>Rakhmaninov Piano Concerto No. 2 C Minor Op. 18 Tchaikovsky <i>The Nutcracker</i>, ballet Op. 71 (Excerpts)</p> <p>Tugan Sokhiev, conductor Alexandre Kantorow, piano</p>	<p>Ordinary Youth</p> <p>S 12,000 S 6,000 A 10,000 A 5,000 B 8,000 B 4,000 C 6,500 C 3,250 D 5,500 D 2,750</p>
	C	<p>Concert No. 2075</p> <p>November 13 (Fri) 7:00pm 14 (Sat) 2:00pm</p> <p>NHK Hall</p>	<p>NHKSO 100th Anniversary: Beethoven Symphony Cycle 3</p> <p>Beethoven <i>Coriolan</i>, overture Op. 62 Beethoven Symphony No. 2 D Major Op. 36 Beethoven Symphony No. 6 F Major Op. 68, <i>Pastoral</i></p> <p>Tugan Sokhiev, conductor</p>	<p>Ordinary Youth</p> <p>S 12,000 S 6,000 A 10,000 A 5,000 B 8,000 B 3,600 C 6,500 C 3,250 D 5,500 D 1,900 E 3,300 E 1,600</p>

A **NHK Hall**
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

B **Suntory Hall**
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)
Fri. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

C **NHK Hall**
Fri. 7:00pm (doors open at 6:00pm)
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2026
12

A Concert No. **2077**
November
28 (Sat) 6:00pm
29 (Sun) 2:00pm
Program A of the December subscription concerts will be held in November.
NHK Hall

NHKSO 100th Anniversary
Falla *El sombrero de tres picos*, ballet suite No. 2
(*The Three-Cornered Hat*)
Ravel Piano Concerto G Major
Berlioz *Symphonie fantastique*, Op. 14 (*Fantastic Symphony*)
Charles Dutoit, conductor
Martha Argerich, piano

Ordinary	Youth
S 17,000	S 8,500
A 14,500	A 7,000
B 11,500	B 5,500
C 9,500	C 4,500
D 7,500	D 3,500
E 5,500	E 2,500

B Concert No. **2079**
December
10 (Thu) 7:00pm
11 (Fri) 7:00pm
Suntory Hall

Mozart *Die Zauberflöte*, opera K. 620 – Overture (*The Magic Flute*)
Srnka Cello Concerto
[NHKSO 100th Anniversary Commissioned Work / World Premiere]
Mendelssohn Symphony No. 3 A Minor Op. 56, *Scottish*
Maxim Emelyanychev, conductor
Nicolas Altstaedt, cello

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

C Concert No. **2078**
December
4 (Fri) 7:00pm
5 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

NHKSO 100th Anniversary: Beethoven Symphony Cycle 4
Beethoven Symphony No. 4 B-flat Major Op. 60
Beethoven Symphony No. 7 A Major Op. 92
Charles Dutoit, conductor
- Beethoven's Symphony No. 9 *Choral* is scheduled to be performed at the "Beethoven 9th" Symphony Concert" at the end of 2026 (conductor: Marek Janowski).

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 3,600
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 1,900
E 3,300	E 1,600

2027
01

A Concert No. **2080**
January
16 (Sat) 6:00pm
17 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

Mahler Symphony No. 9 D Major
Fabio Luisi, conductor

Ordinary	Youth
S 13,000	S 6,500
A 11,000	A 5,200
B 8,500	B 4,000
C 7,000	C 3,500
D 5,600	D 2,000
E 3,500	E 1,700

B

There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renewal of Suntory Hall.

C Concert No. **2081**
January
22 (Fri) 7:00pm
23 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 1
Sørensen *Evening Land* [Japan Premiere]
Beethoven Piano Concerto No. 1 C Major Op. 15
Nielsen Symphony No. 6, *Sinfonia semplice*
Fabio Luisi, conductor
Alessandro Taverna, piano

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 3,600
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 1,900
E 3,300	E 1,600

2027
02

A Concert No. **2082**
February
6 (Sat) 6:00pm
7 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

Bach / Webern *Musikalisches Opfer*, BWV 1079 – *Ricercar à 6 voci*
(*The Musical Offering – 6 Voice Fugue*)
Mahler *5 Lieder nach Texten von Friedrich Rückert*
(*5 Songs after Friedrich Rückert*)
Schönberg Chamber Symphony No. 2 Op. 38
Schubert Symphony No. 7 B Minor D. 759, *Unvollendete*
(*Unfinished Symphony*)
Antonello Manacorda, conductor André Schuen, baritone

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

B

There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renewal of Suntory Hall.

C Concert No. **2083**
February
12 (Fri) 7:00pm
13 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 2
Schumann *Genoveva*, opera Op. 81 – Overture
Beethoven Piano Concerto No. 2 B-flat Major Op. 19
Hisatada Otaka *Ashiya Otome*, symphonic poem Op. 9
Panufnik Symphony No. 2, *Sinfonia Elegiaca*
Tadaaki Otaka, conductor
Yunchan Lim, piano

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

The Subscription Concerts Program 2026–27

2027 04	A	<p>Concert No. 2084</p> <p>April 10 (Sat) 6:00pm 11 (Sun) 2:00pm</p> <p>NHK Hall</p>	<p>Mendelssohn Violin Concerto E Minor Op. 64 R. Strauss <i>Eine Alpensinfonie</i> Op. 64 (<i>An Alpine Symphony</i>)</p> <p>Fabio Luisi, conductor James Ehnes, violin</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Ordinary</th> <th>Youth</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S 13,000</td> <td>S 6,500</td> </tr> <tr> <td>A 11,000</td> <td>A 5,200</td> </tr> <tr> <td>B 8,500</td> <td>B 4,000</td> </tr> <tr> <td>C 7,000</td> <td>C 3,500</td> </tr> <tr> <td>D 5,600</td> <td>D 2,000</td> </tr> <tr> <td>E 3,500</td> <td>E 1,700</td> </tr> </tbody> </table>	Ordinary	Youth	S 13,000	S 6,500	A 11,000	A 5,200	B 8,500	B 4,000	C 7,000	C 3,500	D 5,600	D 2,000	E 3,500	E 1,700
		Ordinary	Youth															
		S 13,000	S 6,500															
A 11,000	A 5,200																	
B 8,500	B 4,000																	
C 7,000	C 3,500																	
D 5,600	D 2,000																	
E 3,500	E 1,700																	
B	<p>There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renewal of Suntory Hall.</p>																	
2027 05	C	<p>Concert No. 2085</p> <p>April 23 (Fri) 7:00pm 24 (Sat) 2:00pm</p> <p>NHK Hall</p>	<p>The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 3 Dvořák <i>The Noon Witch</i>, symphonic poem Op. 108 Beethoven Piano Concerto No. 3 C Minor Op. 37 Unsuk Chin <i>Subito con forza</i> Shostakovich Symphony No. 9 E-flat Major Op. 70</p> <p>Elim Chan, conductor Alice Sara Ott, piano</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Ordinary</th> <th>Youth</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S 10,000</td> <td>S 5,000</td> </tr> <tr> <td>A 8,500</td> <td>A 4,000</td> </tr> <tr> <td>B 6,500</td> <td>B 3,100</td> </tr> <tr> <td>C 5,400</td> <td>C 2,550</td> </tr> <tr> <td>D 4,300</td> <td>D 1,500</td> </tr> <tr> <td>E 2,200</td> <td>E 1,000</td> </tr> </tbody> </table>	Ordinary	Youth	S 10,000	S 5,000	A 8,500	A 4,000	B 6,500	B 3,100	C 5,400	C 2,550	D 4,300	D 1,500	E 2,200	E 1,000
		Ordinary	Youth															
		S 10,000	S 5,000															
A 8,500	A 4,000																	
B 6,500	B 3,100																	
C 5,400	C 2,550																	
D 4,300	D 1,500																	
E 2,200	E 1,000																	
B	<p>There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renewal of Suntory Hall.</p>																	
2027 05	A	<p>Concert No. 2086</p> <p>May 8 (Sat) 6:00pm 9 (Sun) 2:00pm</p> <p>NHK Hall</p>	<p>Grieg Piano Concerto A Minor Op. 16 Stenhammar Symphony No. 2 G Minor Op. 34</p> <p>Paavo Järvi, conductor Denis Kozhukhin, piano</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Ordinary</th> <th>Youth</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S 12,000</td> <td>S 6,000</td> </tr> <tr> <td>A 10,000</td> <td>A 5,000</td> </tr> <tr> <td>B 8,000</td> <td>B 3,600</td> </tr> <tr> <td>C 6,500</td> <td>C 3,250</td> </tr> <tr> <td>D 5,500</td> <td>D 1,900</td> </tr> <tr> <td>E 3,300</td> <td>E 1,600</td> </tr> </tbody> </table>	Ordinary	Youth	S 12,000	S 6,000	A 10,000	A 5,000	B 8,000	B 3,600	C 6,500	C 3,250	D 5,500	D 1,900	E 3,300	E 1,600
		Ordinary	Youth															
		S 12,000	S 6,000															
A 10,000	A 5,000																	
B 8,000	B 3,600																	
C 6,500	C 3,250																	
D 5,500	D 1,900																	
E 3,300	E 1,600																	
B	<p>There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renewal of Suntory Hall.</p>																	
2027 06	C	<p>Concert No. 2087</p> <p>May 21 (Fri) 7:00pm 22 (Sat) 2:00pm</p> <p>NHK Hall</p>	<p>The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 4 Lully <i>Le bourgeois gentilhomme</i>, ballet (<i>The Bourgeois Gentleman/Excerpts</i>) Beethoven Piano Concerto No. 4 G Major Op. 58 R. Strauss <i>Der Bürger als Edelmann</i>, suite Op. 60 (<i>The Bourgeois Gentleman</i>)</p> <p>Kent Nagano, conductor Till Fellner, piano</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Ordinary</th> <th>Youth</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S 11,000</td> <td>S 5,500</td> </tr> <tr> <td>A 9,500</td> <td>A 4,500</td> </tr> <tr> <td>B 7,600</td> <td>B 3,500</td> </tr> <tr> <td>C 6,000</td> <td>C 2,800</td> </tr> <tr> <td>D 5,000</td> <td>D 1,800</td> </tr> <tr> <td>E 3,000</td> <td>E 1,400</td> </tr> </tbody> </table>	Ordinary	Youth	S 11,000	S 5,500	A 9,500	A 4,500	B 7,600	B 3,500	C 6,000	C 2,800	D 5,000	D 1,800	E 3,000	E 1,400
		Ordinary	Youth															
		S 11,000	S 5,500															
A 9,500	A 4,500																	
B 7,600	B 3,500																	
C 6,000	C 2,800																	
D 5,000	D 1,800																	
E 3,000	E 1,400																	
B	<p>There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renewal of Suntory Hall.</p>																	
2027 06	A	<p>Concert No. 2088</p> <p>June 5 (Sat) 6:00pm 6 (Sun) 2:00pm</p> <p>NHK Hall</p>	<p>Mozart Symphony No. 35 D Major K. 385, <i>Haffner</i> Bruckner Symphony No. 3 D Minor, <i>Wagner-Symphonie</i> (Third Version / 1889)</p> <p>Tugan Sokhiev, conductor</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Ordinary</th> <th>Youth</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S 12,000</td> <td>S 6,000</td> </tr> <tr> <td>A 10,000</td> <td>A 5,000</td> </tr> <tr> <td>B 8,000</td> <td>B 3,600</td> </tr> <tr> <td>C 6,500</td> <td>C 3,250</td> </tr> <tr> <td>D 5,500</td> <td>D 1,900</td> </tr> <tr> <td>E 3,300</td> <td>E 1,600</td> </tr> </tbody> </table>	Ordinary	Youth	S 12,000	S 6,000	A 10,000	A 5,000	B 8,000	B 3,600	C 6,500	C 3,250	D 5,500	D 1,900	E 3,300	E 1,600
		Ordinary	Youth															
		S 12,000	S 6,000															
A 10,000	A 5,000																	
B 8,000	B 3,600																	
C 6,500	C 3,250																	
D 5,500	D 1,900																	
E 3,300	E 1,600																	
B	<p>There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renewal of Suntory Hall.</p>																	
2027 06	C	<p>Concert No. 2089</p> <p>June 18 (Fri) 7:00pm 19 (Sat) 2:00pm</p> <p>NHK Hall</p>	<p>The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 5 Beethoven Piano Concerto No. 5 E-flat Major Op. 73, <i>Emperor</i> R. Strauss <i>Ein Heldenleben</i>, symphonic poem Op. 40 (<i>A Hero's Life</i>)</p> <p>Thomas Guggeis, conductor Kirill Gerstein, piano</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Ordinary</th> <th>Youth</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S 11,000</td> <td>S 5,500</td> </tr> <tr> <td>A 9,500</td> <td>A 4,500</td> </tr> <tr> <td>B 7,600</td> <td>B 3,500</td> </tr> <tr> <td>C 6,000</td> <td>C 2,800</td> </tr> <tr> <td>D 5,000</td> <td>D 1,800</td> </tr> <tr> <td>E 3,000</td> <td>E 1,400</td> </tr> </tbody> </table> <p>(tax included)</p>	Ordinary	Youth	S 11,000	S 5,500	A 9,500	A 4,500	B 7,600	B 3,500	C 6,000	C 2,800	D 5,000	D 1,800	E 3,000	E 1,400
		Ordinary	Youth															
		S 11,000	S 5,500															
A 9,500	A 4,500																	
B 7,600	B 3,500																	
C 6,000	C 2,800																	
D 5,000	D 1,800																	
E 3,000	E 1,400																	

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

Special Concerts 2026–27

2026/10 | 100th Anniversary Commemoration: Mahler Symphony No. 2 *Resurrection* NHK Hall

10/3 Sat.
6:00pm

Mahler Symphony No. 2 C Minor *Auferstehung (Resurrection)*

10/4 Sun.
2:00pm

Fabio Luisi, conductor Ying Fang, soprano Tamara Mumford, mezzo soprano
New National Theatre Chorus, chorus

2026/10 | Brahms Symphony Cycle Conducted by Two Great Conductors Tokyo Metropolitan Theatre

10/30 Fri.
7:00pm

Brahms Symphony No. 2 D Major Op. 73 / Symphony No. 4 E Minor Op. 98
Herbert Blomstedt, conductor

10/31 Sat.
4:00pm

Brahms Symphony No. 3 F Major Op. 90 / Symphony No. 1 C Minor Op. 68
Christoph Eschenbach, conductor

2027/01 | NHKSO New Year Concerts 2027 NHK Hall

1/10 Sun.
3:00pm

Wagner *Rienzi*, opera—Overture

1/11 Mon.
3:00pm

Wagner *Die Walküre*, opera—Siegmunds Liebeslied: *Winterstürme wichen dem Wonnemond*
(*Winter Storms Have Waned in the Moon of May*) ♦

Wagner *Die Walküre*, opera—*Du bist der Lenz (Thou Art the Spring)**

Wagner *Lohengrin*, opera—Grail Narration: *In fernem Land (In a Far-off Land)* ♦

Wagner *Tannhäuser*, opera—*Dich, teure Halle, grüss ich wieder (Dear Hall, I Greet Thee Once Again)**

Wagner *Tristan und Isolde*, opera—*O sink' hernieder, Nacht der Liebe (Descend, O Night of Love)* ♦♦

J. Strauss II *Die Fledermaus*, operetta—Overture, Csárdás: *Klänge der Heimat (The Bat—Sounds of My Homeland)**

Lehár *Das Land des Lächelns*, operetta—*Dein ist mein ganzes Herz (The Land of Smiles—Yours Is My Heart Alone)* ♦

Lehár *Die lustige Witwe*, operetta—*Vilja-Lied (The Merry Widow—Vilja Song)**

Kálmán *Gräfin Mariza*, operetta—*Grüss mir mein Wein (Countess Maritza—Vienna Mine)* ♦

J. Strauss II *Kaiser-Walzer*, Op. 437 (*Emperor Waltz*)

Lehár *Das Land des Lächelns*, operetta—*Wer hat die Liebe uns in Herz gesenkt (The Land of Smiles—Who Has Placed Love in Our Hearts)* ♦♦

Fabio Luisi, conductor Camilla Nylund, soprano* Klaus Florian Vogt, tenor♦

2027/02 | The 300th Anniversary of the Premiere of Bach's *Matthäus-Passion* NHK Hall

2/20 Sat.
3:00pm

Bach *Matthäus-Passion* BWV 244 (*St. Matthew Passion*)

2/21 Sun.
2:00pm

Ton Koopman, conductor Tilman Lichdi, tenor (Evangelist) Klaus Mertens, bass-baritone (Jesus)
Amsterdam Baroque Choir, chorus The Little Singers of Tokyo, children's chorus

2027/04–06 | Tokyo Metropolitan Theatre Series Tokyo Metropolitan Theatre

4/15 Thu.
7:00pm

Franz Schmidt *Notre Dame*, opera—*Zwischenspiel und Karnevalsmusik* (*Intermezzo and Carnival Music*)

4/16 Fri.
7:00pm

Hindemith *Nobilissima visione*, ballet suite (*The Noblest Vision*)
R. Strauss *Don Quixote*, symphonic poem Op. 35*

Fabio Luisi, conductor Rei Tsujimoto, cello*

5/13 Thu.
7:00pm

Debussy *Prélude à l'après-midi d'un faune* (*Prelude to the Afternoon of a Faun*)

5/14 Fri.
7:00pm

Lancén *Concerto champêtre* for Harp and Orchestra
Tailleferre *Petite suite*
Ravel *Daphnis et Chloé*, Suites Nos. 1 & 2

Nodoka Okisawa, conductor Risako Hayakawa, harp

6/10 Thu.
7:00pm

Prokofiev *Symphonie classique*, Op. 25

6/11 Fri.
7:00pm

Mozart *Symphonie concertante* for 4 Winds and Orchestra E-flat Major K. 297b
Stravinsky *The Rite of Spring*, ballet

Tugan Sokhiev, conductor Shuhei Nakamura, oboe Kenji Matsumoto, clarinet
Hironori Ugajin, bassoon Hitoshi Imai, horn

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

N響関連のお知らせ



「N響100年」
記念ページは
こちらから



N響ホームページ
「N響100年」
記念ページ

<https://www.nhkso.or.jp/100th/>

N響100年を記念するおもな公演・事業や首席指揮者ファビオ・ルイーゼのメッセージが紹介されているほか、N響のこれまでの歩みをまとめた年表や読み物をご覧いただけます。また「演奏記録アーカイブ／資料アーカイブ」では、N響100年の全演奏会の記録、そしてN響が所蔵する歴史的資料の目録の一部をデータベースとして公開、検索にも対応します。

特別
展示

NHK交響楽団—放送と歩んだ100年

2026年4月17日(金)～8月30日(日) | NHK放送博物館(港区
愛宕) | 入場無料



N響100年の歩みを、貴重な資料・写真でたどり、放送とともに刻まれた歴史をふりかえります。館内シアターでは、過去の番組から選び抜いた名演も上映します。 <https://www.nhk.or.jp/museum/>



NHK放送博物館の
ホームページ

WEB
連載

NHK交響楽団の あゆみ 1945—2026 岩野裕一

THE HISTORY OF
NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO



WEB連載
「NHK交響楽団のあゆみ」は
こちらから

2026年の「N響100年」に向けて、ホームページで「NHK交響楽団のあゆみ」を連載中です。執筆は、「王道楽士の交響楽」「日本のピアノ100年」などの著書でも知られる、音楽評論家・編集者の岩野裕一氏。終戦後の「NHK交響楽団」への改称から、創立100年となる2026年までのN響の歴史を追いかけます。 https://www.nhkso.or.jp/news/HistoricalOverview_contents.html

伝えるチカラ



◎ 公共メディアNHKを社会へ
◎ 社会貢献事業で、次世代の未来を応援！

NHK財団は、
子法人の「NHK交響楽団」と共に、
社会貢献事業を進めていきます。



NHK財団の最新情報はこちらから

音楽は人々を元気づけ、ひとときの安らぎを
与えてくれます。N響はコンサートホールを飛
び出して、さまざまな場所、さまざまな人た
ちに美しい音色をお届けし、広く社会に貢献し
ていきます。

N響の社会貢献

子どもたちの未来を育む

子どもと大人が夏休みに名曲を楽しめる「N響
ほっとコンサート」、N響練習所のある東京都
港区の保育園児を招いてN響メンバーがじかに
音楽の楽しさを伝える「N響といっしょ！ 音を楽し
む!!」などを開催。また折にふれて全国各地の小学
校、中学校、高校を訪れてコンサートや指導を行
い、近年はリモート技術を活用したクリニックなども
開催しています。音楽や音楽家に身近に接してもら
うことで豊かな心を育む取り組みに、これからも力
を入れていきます。

優れた音楽家を育てる

1950年代、指揮を実践的に学ぶ場として設けたの
が「指揮研究員」の制度です。有望な若手指揮者を
オーケストラの現場に迎え入れ、国内外の巨匠たち
との音楽づくりに携わる機会を提供。日本のクラシッ
ク音楽界を担う人材を数多く輩出しています。また
2003年に創設された「N響アカデミー」では、オー
ディションで選抜された受講生が、楽員からのレッス
ン、リハーサルや公演の参加などを通じてトレーニ
ングを積んでいます。修了生はN響をはじめ国内外の
オーケストラで活躍しています。

指揮研究員

井手 奏、佐久山修太

N響アカデミー在籍者

ヴァイオリン：下野園ひな子、遠井彩花、中井楓梨
クラリネット：白井宏典 打楽器：菊池幸太郎
(2026年5月1日現在)

地域の人たちとつながる

全国のさまざまな団体、自治体から要請を受けて、ク
ラシック音楽の普及や文化振興のお手伝いをしてい

ます。幼稚園、コミュニティ施設などで演奏したり、
生徒たちにレッスンをするなど、地元に着
した活動を行っています。最近では各地の放送局
のイベントに参加して演奏する機会も増えてい
ます。NHKのテレビとラジオで日曜のお昼に放
送される「NHKのど自慢」では、審査の結果を
伝える「鐘」をN響の打楽器奏者が担当するこ
ともあります。

病院や福祉施設、被災地に届ける

病院や高齢者施設を楽員が訪れてミニコンサート
を開き、入院する患者さん、看病するご家族、お年寄
りの方たちに安らぎのひとときをお届けしています。
また被災地にも出向き、演奏を通じて現地の人たち
の応援にも力を入れています。2024年1月に起きた
能登半島地震では、翌月にN響の楽員15人が石
川県を訪問し、4地域・6か所の避難所でミニコ
ンサートを開きました。

国際交流の輪を広げる

1960年の「世界一周演奏旅行」以来、海外での演
奏にも力を入れてきました。近年は2025年5月にオラ
ンダ・アムステルダムでの「マラー・フェスティバル」に
参加するなど、世界最高峰の舞台に招かれることが
増えています。一方国内では、首都圏の大学などと
連携して、私たちが主催する公演への外国人留学生
招待にも取り組んでいます。

異なる分野の専門家と連携する

デジタル活用や医療などの新しい課題に、異なる
分野の人たちと手をたずさえて取り組んでいます。
2022年11月の「NTT東日本 N響コンサート」で
は、離れていても同じ場所にいるように感じられる
ような映像・音声接続を実現する「IOWN APN
関連技術」の検証実験に協力。リアルタイム・リモ
ート演奏を成功させました。一方コロナウイルスへの
対策がまだ手探りだった2020年7月、業界団体が行
った「演奏中の飛沫」を調べる実験に多くの楽員
や職員を派遣。これにより舞台上の安全な楽器配
置などがわかり、業界の統一したマニュアル作りに
役立ちました。

役員等・団友

役員等

理事長	中野谷 公一							
常務理事	三溝敬志	大曾根 聡子						
理事	相川直樹	内永ゆか子	岡田知之	杉山博孝	銭谷眞美	田辺雅泰	團 宏明	毛利 衛
監事	春原雄策		濱村和則					
評議員	井上樹彦	江頭敏明	樺山絃一	菅原 直	清野 智	田中宏暁	檀 ふみ	坪井節子
	根本拓也	前田昭雄	三浦 惺	山名啓雄	渡邊 修			

事務局

演奏制作部	企画プロモーション部	経営管理部	技術主幹	芸術主幹				
岩渕一真	沖 あかね	上原 静	森下文典	黒川大亮	野村 歩	吉田麻子	尾澤 勉	西川彰一
丸山千絵	内山弥生	木村英代	猪股正幸	三浦七菜子	浅田武志	杉山真知子		
石井 康	徳永匡哉	小倉康平	吉賀亜希		目黒重治	長津紗弥		
高木かおり	高橋 啓		宮崎則匡		山本能寛			

団友

	公門俊之	中竹英昭	宮本明恭	トランペット	百瀬和紀	事務局
	齋藤真知亜	三原征洋				
	酒井敏彦	村山 弘	オーボエ	井川明彦	ピアノ	稲川 洋
名譽コンサート マスター	清水謙二	山田雄司	青山聖樹	来馬 賢		入江哲之
	鈴木弘一		北島 章	関山幸弘	本荘玲子	金沢 孝
堀 正文	田淵 彰	チェロ	北島 章	津堅直弘		小林文行
	田中 裕		浜 道晃	坂本浩規	理事長	清水永一郎
	鶴我裕子	岩井雅音	茂木大輔	福井 功		中馬 究
コンサートマスター	中瀬裕道	木越 洋		佛坂咲千生	曾我 健	出口修平
	永峰高志	齋藤鶴吉	クラリネット		田畑和宏	利光敬司
海野義雄	根津昭義	三戸正秀		トロンボーン	野島直樹	芳賀由明
川上久雄	堀江 悟	銅銀久弥	磯部周平		日向英実	望戸一男
篠崎史紀	前澤 均	丹羽経彦	加藤明久	伊藤 清	木田幸紀	諸岡 淳
徳永二男	宮里親弘	平野秀清	横川晴児	神谷 敏	森 茂雄	吉田博志
堀 伝	武藤伸二	藤本英雄		栗田雅勝	今井 環	渡辺 克
山口裕之	村上和邦	茂木新緑	ファゴット	三輪純生	根本佳則	渡辺克己
	横山俊朗			吉川武典	今村啓一	
ヴァイオリン	蓬田清重	コントラバス	岡崎耕治		ティューバ	役員
			霧生吉秀			
板橋 健		井戸田善之	菅原恵子			
梅澤美保子	ヴィオラ	志賀信雄		多戸幾久三	加納民夫	
大澤 淨	大久保淑人	佐川裕昭	ホルン	原田元吉	唐木田信也	
大林修子	小野 聡	新納益夫			斎藤 滋	
大松八路	小野富士		大野良雄	打楽器	原 武	
川上朋子	梯 孝則	フルート	中島大之		山崎大樹	
木全利行	菅沼準二		樋口哲生	有賀誠門		
窪田茂夫	店村眞積	菅原 潤	松崎 裕	岡田知之		
黒柳紀明	田淵雅子	細川順三	山田桂三	瀬戸川 正		

フィルハーモニー2026年5月号 | 第98巻 第4号
2026年5月1日発行 ISSN 1344-5693

公益財団法人NHK交響楽団

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49
TEL: (03) 5793-8111 / FAX: (03) 3443-0278
発行人◎三溝敬志 / 編集人◎猪股正幸

企画・編集: (財)NHK財団
取材・編集: (株)アルテスパブリッシング
表紙・本文デザイン: 寺井恵司

印刷: 佐川印刷株式会社

©無断転載・複製を禁ず

いつでも どこでも あなたのそばに

NHK ONE



©NHK-dwarf

番組の同時配信、見逃し・聴き逃し配信、ニュースの記事や動画などの情報を
テレビ※やスマホ・タブレット、パソコンで

※インターネット接続に対応したテレビ

WEBサイト (HP)



NHK ONE



NHKプラス



NHK ONE
 ニュース-防災



NHK ONE
 for School



NHKラジオ
 らじる★らじる



NHK ゴガク
 語学講座



世帯ですでに受信契約を締結されている場合は、別途のご契約や追加のご負担は必要ありません
 (「らじる★らじる」など、ラジオ関連サービスは受信契約の対象外です)

テレビでもスマホでも



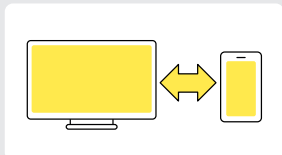
防災機能がさらに充実



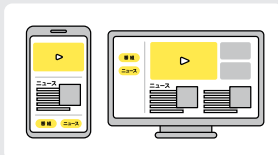
安心して子どもと一緒に



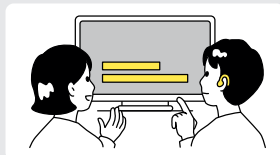
プロフィール設定・デバイス連携



ドラマも最新ニュース記事も



生放送もぴったり字幕で





ご存知ですか？

海外出張、海外旅行を計画されている方へ

海外で、ニュース・情報番組の
同時配信と見逃し配信が、
無料で視聴可能！



*視聴可能は毎日5時間程度

海外にいる日本人のみなさまの安全・安心のため、ニュース・情報番組は、NHKのウェブサイトで、無料で同時配信と見逃し配信を行っています。

特に見逃し配信は、海外でも時差を気にせず、NHKニュースをご覧いただけます。

視聴方法
はこちら▶▶



*日本国内では視聴することができません。
海外にいらっしゃる間に視聴できます。

海外にお住まいの方には

NHKのニュースや情報番組、ドラマ、子ども番組、音楽番組などを24時間編成で有料で放送しています。世界のおよそ80の国・地域の約2,400万世帯以上で視聴できます。

[エリア][国/地域]の順に選択の上、お住まいの地域で見られる放送事業者を検索してください。



利用できるサービスを探す

お住まいの国/地域を選択

エリア ▼

国 ▼

NHK WORLD-JAPAN is the international service of Japan's public media organization. It provides a global audience with information about Japan and Asia on TV, radio, and online. Content is available in English and other languages.



Disaster and safety-related information is updated instantly, via emergency alert screens on the website and push notifications on the app.



Get real-time alerts from our app.

■ Earthquake, Tsunami, and Weather Emergency Warnings Available in: English, Chinese, French, Hindi, Indonesian, Korean, Portuguese, Russian, Spanish, Thai, Vietnamese

■ Breaking News (English)

(iPhone, Android)


▲Download here. ※App settings are required.

ドラマ、ドキュメンタリーなど名作20,000本以上配信中!

NHK オンデマンド


有料動画
配信サービス

NHK交響楽団の名演を
いつでも、どこでも、何度でも



シューマン
交響曲 第2番 ほか

サヴァリッシュ
指揮
(1995年11月 収録)



ベートーベン
交響曲 第7番 ほか

マタチッチ
指揮
(1984年3月 収録)



ベートーベン
交響曲 第6番「田園」
ほか

ルイージ
指揮
(2023年5月 収録)



チャイコフスキー
交響曲 第6番「悲愴」
ほか

ブロムシュテット
指揮
(2014年9月 収録)



ドボルザーク
交響曲 第8番 ほか

スウィトナー
指揮
(1989年11月 収録)



ワーグナー
歌劇
「さまよえるオランダ人」序曲
ほか

シュタイン
指揮
(1983年3月 収録)

懐かしの「N響アワー」から「クラシック音楽館」まで
世界的マエストロによる演奏を **毎月配信中!**

まるごと
見放題パック
月額
990円 税込

NHKオンデマンドコールセンター
☎ **0570-083333**
携帯電話・IP電話 03-6743-6777

受付時間
9:30
~
22:00

番組ラインアップなどの詳細は
公式ウェブサイトをチェック!
<https://www.nhk-ondemand.jp>



床の間拝見



しつらいを読み解くたのしみ



〈デジタル版〉『目の眼』電子増刊9号 特集 | 床の間拝見に掲載

ジョルジュ・ルオー (1871-1958) 「若かりし唇に苦き味」「ミセレーレ」シリーズの一枚 銅版画 1922年彫板 1948年刊行
常滑大壺 (平安時代末～鎌倉時代) [古美術 古董]



目の眼は 雑誌&ウェブで 骨董古美術の愉しみを伝えています

menomeonline.com

目 
の眼

傑作の奥深い境地へ
名手の調和が織りなすドラマティックな世界

明電舎

presents

N響

名曲コンサート 2026

指揮

尾高忠明

NHK交響楽団 正指揮者



ヴァイオリン

郷古廉

NHK交響楽団 第1コンサートマスター

管弦楽

NHK交響楽団

NHK Symphony Orchestra, Tokyo

シベリウス
アンダンテ・フェスティヴォ

Sibelius / Andante festivo

プロコフィエフ
ヴァイオリン協奏曲 第2番 短調 作品63

Prokofiev / Violin Concerto No. 2 G Minor Op. 63

チャイコフスキー
交響曲 第5番 ホ短調 作品64

Tchaikovsky / Symphony No. 5 E Minor Op. 64

2026年9月3日 [木] 7:00pm | サントリーホール

■ 発売開始: 5月15日 [金] 10:00am ■ N響定期会員先行発売: 5月12日 [火] 10:00am

■ 料金 (税込)

一般		ユースチケット(29歳以下)	
SS	¥9,000	SS	¥4,500
S	¥7,000	S	¥3,500
A	¥5,500	A	¥2,750
B	¥4,000	B	¥2,000
C	¥3,000	C	¥1,500

※定期会員は一般料金から10%割引

■ 前売所

- WEBチケットN響: <https://nhkso.pia.jp>
- N響ガイド: 0570-02-9502
- サントリーホール チケットセンター: 0570-55-0017
suntory.jp/HALL/
- チケットぴあ: pia.jp/t/nhkso
- e+(イープラス): eplus.jp/nhkso
- ローソンチケット: l-tike.com/nhkso



[お問い合わせ]

N響ガイド 0570-02-9502

営業時間: 10:00am ~ 5:00pm (営業日はN響ホームページをご覧ください)

※ユースチケット(29歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。 ※定期会員割引・先行発売のお取り扱いにはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。 ※車いす席についてはN響ガイドにお問い合わせください。 ※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。 ※未成年者のご入場はお断りしています。 ※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。 ※公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

特別協賛: MEIDEN

株式会社 明電舎

主催: 100th

NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

100th
NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

「夏だ！祭りだ！！」
N響ほっと
コンサート

まほうの森と夢の世界
か
翔けよう！

ホルン: アレッシオ・アレグリーニ
©Riccardo Musacchio / MUSA



指揮: 下野 竜也
(NHK 交響楽団正指揮者)
©Shin Yamagishi



N響メンバーと一緒に、さわて、音を出してみよう！

N響メンバーによる 楽器体験

オーケストラの楽器をN響メンバーと一緒に
さわて音を出してみよう。さあ、ロビーに集合！

ピカチュウも
遊びに来るよ



詳しくはN響ホームページ、公式Xでお知らせします

※コンサート本編への出演はございません



ナビゲーター
加藤 清史郎 (俳優)

2026年8月2日(日) 3:30pm
(開場 2:00pm)
NHKホール (東京・渋谷) ※途中休憩ありの2時間程度の公演です。

管弦楽: NHK交響楽団

発売開始 5月15日(金) 10:00am (N響定期会員先行発売: 5月12日(火) 10:00am)

お問い合わせ N響ガイド 0570-02-9502

営業時間: 10:00am~5:00pm (定休日: 土・日・祝日)

※東京駅での主催公演開催日は曜日に問わず10:00am~開演時刻まで営業いたします。 ※電話受付のみの営業となります。

主催: NHK / NHK交響楽団

協力: 湖山医療福祉グループ

協力: 株式会社グローバル/グローバル音楽器技術学院/株式会社ホケモン

©2026 Pokémon, ©1995-2026 Nintendo/Creatures Inc./GAME FREAK Inc.
ポケットモンスター ホケモン、Pokémonは任天堂、クリエーターズ ゲームフリークの登録商標です。



「N響ほっとコンサート」公式Xアカウントオープン！

ドリーブ/バレエ組曲「シルヴィア」から 前奏曲と「狩り」の女神
モーツァルト/ホルン協奏曲 第2番 変ホ長調
ハイドン/交響曲 第73番 ニ長調「狩り」から 第4楽章
ヨハン・シュトラウスII世/ポルカ「狩り」
メンデルスゾーン/「夏の夜の夢」の音楽から
~加藤清史郎とつしまに、シェークスピアのお話の森へ

前売所

- ◎WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp> ◎N響ガイド 0570-02-9502
- ◎チケットぴあ pia.jp/t/nhkso ◎e+ (イープラス) eplus.jp/nhkso
- ◎ローソンチケット l-tike.com/nhkso

※「小・中学生」のチケットはすべての前売所でご購入いただけます。
※ユースチケット(29歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。
※定期会員割引・先行発売のお取り扱いにはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。
※事前に申し込むにはN響ガイドにお問い合わせください。
※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。
※小学生は、保護者の方と一緒に参加してください。
※未就学児のご入場はお断りしています。
※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。
※公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

Follow us on nhkso.or.jp

100th

NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

N響 「夏」

あふれ出る

ロマンティシズムに

身を委ね

この夏、壮大な

音楽の旅へ

Summer Concert 2026 [東京公演]

NHK Symphony Orchestra, Tokyo
主催: NHK / NHK 交響楽団 協賛: 岩谷産業株式会社

ラフマニノフ

ピアノ協奏曲 第3番 ニ短調 作品30

Rakhmaninov Piano Concerto No. 3 D Minor Op. 30

リムスキー・コルサコフ

交響組曲「シェヘラザード」作品35

Rimsky-Korsakov *Scheherazade*, symphonic suite Op. 35

管弦楽 NHK 交響楽団

NHK Symphony Orchestra, Tokyo

2026年

7月17日(金) 7:00pm

NHKホール

Friday, July 17, 2026 7:00pm NHK Hall



指揮 ワシーリ・ペトレンコ
Vasily Petrenko, conductor

《 英ロイヤル・フィルのシェフ
15年振りにN響に登場 》



ピアノ ツォトネ・ゼジニゼ
Tsofne Zedginidze, piano

《 バレンボイムが絶賛!
2009年生まれの俊英 》

発売開始 5月15日(金) 10:00am

(定期会員先行発売: 5月12日(火) 10:00am)

料金 (税込) ※定期会員は一般料金から10%割引

[一般] S: ¥7,300 A: ¥5,300 B: ¥3,300 C: ¥2,100

[ユースケット] S: ¥3,600 A: ¥2,600 B: ¥1,600 C: ¥1,000
(29歳以下)

お問い合わせ

N響ガイド 0570-02-9502

※営業日・営業時間はN響ホームページを
ご確認ください

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変
更となる場合がございます

nhkso.or.jp

WEBチケットN響

<https://nhkso.pia.jp>

Follow us on



水素で世界を動かせ。

Iwatani
岩谷産業株式会社

毎年9月にシーズンが開幕する「N響定期公演」を前に行われるのがこのコンサート。2026-27シーズンは、名作揃いの定期公演プログラムに加えて特別公演からも聴きどころを選りすぐり、75分間にギュッと詰め込んでお贈りします。オーケストラは初めてという方、どの演奏会に行くか迷っている方、長年N響定期会員を続けられてきた方、とにかく手取り早くオーケストラの名曲を楽しみたい方、みんなウェルカムです。みんな連れだってNHKホールに足をお運びください。

2026-27シーズンのN響を75分で「いいとこどり」!



NHK交響楽団ってなあに？

1926年創立の歴史あるオーケストラです。世界一流の指揮者や話題のソリストたちとともに、数々の名演を生み出してきました。2026年10月に創立100年を迎えます。日本や世界各地で演奏活動を行い、NHKの大河ドラマのテーマ曲も毎年演奏しています。首席指揮者はイタリアの名匠ファビオ・ルイーゼです。

2026.7.6 [月]

7:00pm 休憩のない75分程度の公演です。

NHKホール

指揮：原田慶太楼

ヴァイオリン：中原梨衣紗

ハープ：早川りさこ (N響ハープ奏者)

ナビゲーター：大林奈津子

コンサート
N響
ウェルカム

NHKSO
Welcome
Concert



© kumiko suzuki



- ウェーバー／歌劇「オベロン」序曲から (9月)
- ベートーヴェン／交響曲 第5番「運命」—第1楽章 (10月)
- ブラームス／交響曲 第4番—第3楽章 (10月)
- ニルセン／交響曲 第6番「シンフォニア・センブリーチェ」—第2楽章 (1月)
- メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲—第1楽章から (4月)
- フランツ・シュミット／歌劇「ノルトルダム」—「間奏曲」 (4月)
- ランサン／ハープと管弦楽のための田園協奏曲—第2楽章 (5月)
- ショスタコヴィチ／交響曲 第9番—第1楽章 (4月)
- ファリャ／バレエ組曲「三角帽子」第2番—「終幕の踊り」 (12月)

主催：NHK／NHK交響楽団



nhkso.or.jp

公演詳細はN響ホームページで公開中



N響ニュースレター

最新情報をメールでお届けします。
WEBチケットN響の「利用登録」からご登録ください

料金 (税込/全席指定)
NHKホールの全席を1ランクに設定 / 良席はお早めに!
一般：¥2,000 / 定期会員：¥1,700
29歳以下はさらにお得 / ユースチケット (29歳以下)：¥1,000
お得にみんなでNHKホールに! / ウェルカム・ペアチケット (2枚1組)：¥3,200
※一般・定期会員共通料金

発売開始日 4月24日 (金) 10:00am (一般) / 4月20日 [月] 10:00am (定期会員先行)

前売所 ◎WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp>

◎N響ガイド 0570-02-9502 ◎チケットぴあ pia.jp/t/nhkso

◎e+ (イープラス) eplus.jp/nhkso ◎ローソンチケット l-tike.com/nhkso

- ※ユースチケット (29歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取扱いとなります。
- ※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必須となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。
- ※定期会員割引・先行発売のお取扱いにはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。
- ※取扱いについてはN響ガイドにお問い合わせください。
- ※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。
- ※未就学児のご入場はお断りしています。
- ※おむつを貸さない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。
- ※公演中止の場合の返金はチケット代金の戻しはいたしません。
- ※公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。



WEBチケットN響

お問い合わせ：N響ガイド 0570-02-9502

営業時間：10:00am～5:00pm

(定休日：土・日・祝日)

※東京都内での主催公演開催日は曜日問わず10:00am～開演時刻まで営業いたします。※電話受付のみの営業となります。

指揮：杉山洋一

Yoichi Sugiyama, conductor

ソプラノ：藤田果玲

Karera Fujita, soprano

トロンボーン：新田幹男 | N響首席トロンボーン奏者

Mikio Nitta, trombone (Principal Trombone, NHKSO)

管弦楽：NHK交響楽団

NHK Symphony Orchestra, Tokyo

100th
NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

N響 MUSIC TOMORROW 2026

July 3 (Friday) 7:00pm / Pre-Concert Talk 6:30pm
Tokyo Opera City Concert Hall

2026年7月3日 金 7:00pm

尾高賞授賞式・プレトーク(司会・白石美雪)
6:30pm

東京オペラシティ コンサートホール

我妻 英 / 管弦楽のための《祀》(2021) [第73回「尾高賞」受賞作品]

Wagatsuma / MATSURU for Orchestra (2021) [The 73rd Otaka Award Work]

杉山洋一 / 夢へのきざし — オーケストラのための(2026) [N響100年記念委嘱作品・世界初演]

Sugiyama / Stairways to Dreams for Orchestra (2026) [NHKSO 100th Anniversary Commissioned Work / World Premiere]

休憩〜スペシャルトーク(ピローネ・自作を語る) | Intermission - In Conversation with Pierluigi Billone

ピローネ / ボッカ・コスモイ — 声、トロンボーンとオーケストラのための(2007) [日本初演]

Billone / Bocca Kosmai for Voice, Trombone and Orchestra (2007) [Japan Premiere]

チケット発売中

チケット料金(税込)

- 一般 | S:4,000円 / A:3,000円 / B:2,000円
- ユースチケット(29歳以下) | S:2,000円 / A:1,500円 / B:1,000円

・ユースチケット(29歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみの取扱いとなります。
・初回に利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。
・定期会員の方は一般料金の10%割引となります。また、先行発売をご利用いただけます(取扱いにはWEBチケットN響・N響ガイドのみ)。
・東京オペラシティ Arts 友の会先行発売の取扱い(※東京オペラシティチケットセンターのみとなります)。
・車いす席についてはN響ガイドへお問い合わせください。
・N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります
・未成年のご購入はお断りしています

- ・WEBチケットN響: <https://nhkso.pia.jp>
- ・N響ガイド: 0570-02-9502
- ・東京オペラシティ チケットセンター: 03-5353-9999
- ・チケットぴあ: pia.jp/nhkso
- ・e+(イープラス): eplus.jp/nhkso
- ・ローソンチケット-L-tike.com/nhkso



WEB チケット N響

異界に導く
夢に誘う
音の階(きざし)

今年のMusic Tomorrowでは、恒例である尾高賞受賞作品の演奏に続き、「N響100年」を記念する委嘱作品の世界初演、イタリアの巨匠ピローネによる大作の日本初演が行われる。

今回尾高賞を受賞したのは、我妻英の管弦楽のための《祀》。前年の武満徹作曲賞第1位と併せてダブル受賞となる。26歳での受賞は、第3回(1955年)の三善晃の22歳、第4回(1956年)の林光の24歳に次ぐ若さであり、尾高賞の長い歴史を画する快挙となった。柳田國男の『遠野物語』に想を得て、現実と非現実、生と死の境を描く《祀》は、我妻が敬愛した西、西村朗が賛辞を送った一作。奏者の叫び、囁きの喧騒を交えた、鮮烈かつ神秘的な響きが聴き手を異界へ導く。

杉山洋一はこれまで指揮者としてMusic Tomorrowに出演してきたが、今回は作曲家としての顔も見せ、自作自演を行う。N響創立100年に際して委嘱された作品のタイトルは《夢へのきざし》。社会問題、世界情勢をしばしば創作の源としてきた杉山の、次世代に向けた真摯な祈りに耳を澄ませたい。

杉山が拠点とするイタリアの作曲家ビエルルイジ・ピローネは、我妻と同じく、ソフトを用いず楽譜を手書きする。声とトロンボーン・ソロのための《ボッカ・コスモイ》では、ピローネが好んで用いる、宇宙の深淵にも似た中低音のうなりが、我妻作品に通じる呪術性、儀式性を喚起する。ドイツ語で数々の新作初演に挑ってきた気鋭のソプラノ、藤田果玲とN響首席奏者を約20年務めてきたベテラン、新田幹男の共演にも注目である。

平野貴俊(音楽学・音楽評論)

前売所

お問い合わせ

N響ガイド: 0570-02-9502

営業時間: 10:00am ~ 5:00pm (休日: 土・日・祝日)

※東京都内での主催公開開催日は曜日にかかわらず10:00am ~ 開演時刻まで営業いたします。
※発売初日の土・日・祝日は10:00am ~ 3:00pmの営業となります。
※電話受付のみの営業となります。

主催: NHK・NHK交響楽団

共催: 公益財団法人 東京オペラシティ文化財団

助成: 公益財団法人 三菱UFJ信託芸術文化財団

公益財団法人 ロームミュージックファンデーション

Musica & Music
Fundazione
ROMA - MUSICA FANDEAZIONE

nhkso.or.jp | Follow us on



NHKSO Cinema Music



featuring
John Williams

N響 シネマ・ミュージック feat. ジョン・ウィリアムズ

オール ジョン・ウィリアムズ プログラム *John Williams Program* 主催：NHK / NHK交響楽団

オリンピック・スピリット

映画「スーパーマン」—マーチ

映画「E.T.」—フライング・テーマ

映画「ジュラシック・パーク」
—テーマ

映画「シンドラーのリスト」
—テーマ

2026年

© Claudia Hershner

6月26日(金) 7:00pm
※2時間程度の公演です

J:COM ホール八王子

(八王子市民会館) JR八王子駅 南口直結

Friday, June 26, 2026 7:00pm
J:COM Hall Hachioji

映画「レイダース/失われた
アーク《聖櫃》」—レイダース・マーチ

オリンピック・
ファンファーレとテーマ

映画「ハリー・ポッター」
—ヘドウィグのテーマ

映画「スター・ウォーズ」
—メイン・タイトル、レイア姫のテーマ、
ルークとレイア、
帝国のマーチ、ヨーダのテーマ、
酒場のバンド、
王座の間とエンド・タイトル

指揮 原田慶太楼
Keitaro Harada, conductor

管弦楽 NHK交響楽団
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

発売開始 3月13日(金) 10:00am
(定期会員先行発売：3月9日(月)10:00am)

料金(税込) ※定期会員は一般料金から10%割引

[一般] S: ¥10,000 A: ¥8,600 B: ¥6,800

[コースチケット(29歳以下)] S: ¥5,000 A: ¥4,300 B: ¥3,400

お問い合わせ

N響ガイド 0570-02-9502

※営業日・営業時間はN響ホームページを
ご確認ください

※本公演は映像による演出はございません
※やむを得ない理由で出演者や曲目等が
変更となる場合がございます

nhkso.or.jp

WEBチケットN響

<https://nhkso.pia.jp>



Follow us on





ご近所のイワタニは、
世界のイワタニです。

イワタニは、世界からガスを運び
安全と安心のネットワークで、
カセットガスやLPガスなど
さまざまなカタチに変えて日本全国にお届け。
今日も見えないところで、
あなたの暮らしを支えます。



Iwatani
岩谷産業株式会社